

北 区

道合遺跡 (第10次調査)

— 東京都市計画道路補助線街路第85号線(赤羽台Ⅱ期)
整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 —



2024・6

東京都埋蔵文化財センター

北 区

道合遺跡 (第10次調査)

— 東京都市計画道路補助線街路第85号線(赤羽台Ⅱ期)
整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 —



2024・6

東京都埋蔵文化財センター

道合遺跡の発掘調査

道合遺跡は北区赤羽台に位置しています。この赤羽台一帯は独立行政法人都市再生機構による赤羽台団地建替事業に伴う事前調査が平成18年以降、実施されてきました。また東京都市計画道路補助線街路第85号線（赤羽台Ⅱ期）整備事業に伴う事前調査も第6次調査として平成28年に、第8次調査として平成29・30年（その2）に行われ、今回はそれらの調査に続く南側部分の発掘調査を行いました。

道合遺跡はJR赤羽駅の約400m西側、武蔵野台地の北東端の台地である本郷台地上に立地し、標高は20m前後です。東側には荒川が流れていて、標高5m前後の東京低地が広がっています。赤羽台の西側は出井川により開析されていて、樹枝状の小支谷の発達が見られます。北～西側には八幡谷、南側には稲付谷と呼ばれる小支谷が刻まれていて、本遺跡は八幡谷南側の最奥部に近い台地の縁辺部に位置しています。

この赤羽台に所在する道合遺跡は、今回で第10次の調査となりましたが、これまでの調査成果から旧石器時代～近世、近代の遺構や遺物が発見されており、人々の暮らしが連続と紡がれて営まれてきた場所であったことが明らかとなっております。北側に隣接する道合遺跡第8次調査では、縄文時代後期前葉の遺構や遺物が出土しており、今回の調査でも同様の成果が予想されていました。

以下、今回の道合遺跡（第10次調査）の概要について述べていきます。

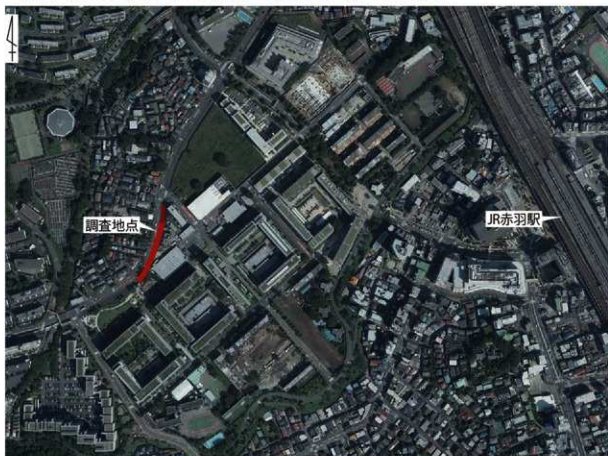


写真1 道合遺跡第10次調査の位置（国土地理院空中写真を一部加工）

道合遺跡第10次調査の調査区

調査は工程の都合上、調査区を3つに分けて実施しました。北側から南側に向かってA・B・C区と分け、B区はさらにB-1・B-2区に細分してそれぞれ調査を行いました。今回の調査区で最も北側のA区からは主に縄文時代後期の一部貝層を伴う土坑やピット等の遺構と縄文土器や石器等の遺物が出土し、また近世以降の溝状遺構及び畝跡が検出されています。B区の北側近付で、B-1区とした範囲からは弥生時代後期の住居跡や遺物の出土が見られ、南側付近のC区からは調査区南側付近で近世の溝が検出されています。B区は特にB-2区が、またC区は北側部分が近現代の地業により攪乱されていました。

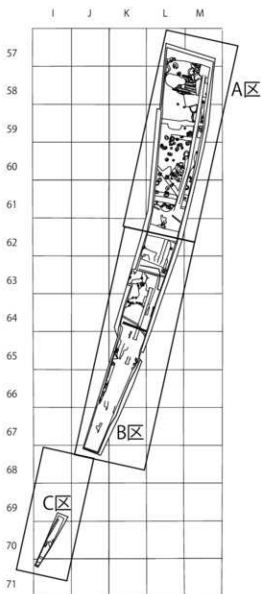


図1 遺跡第10次調査全体図 (1/500)



写真2 道合遺跡第10次調査A区全景写真



写真3 道合遺跡第10次調査B-1区全景写真



写真4 道合遺跡第10次調査C区全景写真

縄文時代の遺構と遺物

主にA区で検出された縄文時代の遺構と遺物は、後期前葉のものが中心でした。遺構では土坑とピットが検出されています。

327号土坑は、覆土上部に堀之内2式土器が逆さに据え置かれたような状況で検出されています。しかしながらこの土器以外に目立った遺物は出土しておらず、この土器の配置がどのような意味を持つのか興味深いです。



写真5 327号土坑土器出土状況（南から）

また他の土坑で特徴的なのは広範囲にヤマトシジミやハマグリ等の貝や獣骨、魚骨を含む328号土坑です。堆積している層を観察すると、北側と南側に分かれて形成されていて、北側を328号土坑a、南側を328号土坑bとしました。



写真6 328号土坑a・b検出状況（北西から）



写真7 328号土坑a堆積状況（南から）



写真8 328号土坑b堆積状況（北から）

また縄文時代のピットは 85 基検出されています。そのうちピット内に貝が堆積しているものが 15 基認められました。P1952 と P1975、P1992 のようにピットの底部にやや多く貝層が認められるものがある一方で、P1958 及び P1979 のように堆積層の中心部付近に少量の貝層が堆積するものもあります。P1992 は覆土に焼土や、やや大きめの土器の破片、ピットの底部にシカの角が含まれていました。土層や貝の堆積状況から、貝は自然営為で流れ込んだものではなく、意図的に埋められた可能性が高いですが、どのような意図で埋められたものなのかは不明です。

P2002 からは人骨が出土しています。鑑定の結果、壮年の男性の人骨ですが、右鎖骨が 2 点含まれていたことから、このピット内には少なくとも 2 体の人骨が納められていたことが明らかとなりま



写真 9 P1952 貝層堆積状況 (西から)



写真 10 P1958 貝層堆積状況 (西から)



写真 11 P1975 貝層検出状況 (東から)



写真 12 P1979 貝層検出状況 (南から)



写真 13 P1992 貝層検出状況 (北から)



写真 14 P1992 鹿角出土状況 (東から)

した。ピットの規模は48×45cm、深さ32cmで、遺構の形態からは人間一人分の遺体をそのまま埋められる規模ではありません。また骨には焼けた痕跡も認められなかったことから、遺体が白骨化した後にこのピット内に埋納したものと考えられます。ピット内には頭蓋骨、左右鎖骨、左右大腿骨、右脛骨、左右尺骨等が残っていました。日本の土壌は酸性土壌で土中の骨は非常に残りにくく、遺存しているケースが非常に少ないため、骨全体の遺存状態は脆弱ではありましたが、何らかの条件下で奇跡的に残ったものと思われます。いずれにしても貴重な事例です。



写真 15 P2002 人骨検出状況その1 (南西から)



写真 16 P2002 人骨検出状況その2 (南西から)



写真 17 P2002 人骨出土状況その3 (南西から)



写真 18 P2002 完掘状況 (南西から)

弥生時代

今回の調査では、B区から弥生時代後期の住居跡が1軒検出されています。遺構を検出した当初は、覆土に縄文時代後期前半の土器が多く含まれていたため、縄文時代の住居跡の可能性を考えていましたが、貼床がしっかり硬化している点や、柱穴から弥生時代後期の網目状燃糸文が施文された直口壺が出土したこと、覆土から弥生土器の小破片が出土したことから弥生時代の住居跡であることが分かりました。調査区西側壁面近辺からは、炉も検出されています。



写真 19 348号住居跡床面検出状況 (東から)



写真 20 348号住居跡 P1 土器出土状況（南東から）



写真 21 348号住居跡炉跡検出状況（東から）

近世

道合遺跡からは近世の溝状遺構が多数発見されていますが、今回の調査でも2基検出されています。おそらく道路として利用されたものと思われます。覆土中から摩滅した縄文時代の土器が出土しておりますが、近世の目立った遺物は認められませんでした。ただ、溝状遺構の覆土に類似する近世の耕作土内から陶磁器の小破片が出土していることから、おそらくこれらの溝状遺構は近世以降のものと思われます。



写真 22 376号溝完掘状況（東から）



写真 23 377号溝完掘状況（東から）

Summary

Located at 2-chome, Akabanedai, Kita Ward, Tokyo, the Michiai site was excavated over an area of 625 square meters by the Tokyo Metropolitan Archaeological Center as its tenth survey, from March through September 2023. The excavation was conducted prior to an investigation to be conducted before the development program for Street 85 as an auxiliary line for the planned Tokyo Metropolitan Road (Akabanedai Phase II) by the 6th Construction Office of the Tokyo Metropolitan Government Bureau of Construction.

The Michiai site is located on the Hongo Plateau, a tableland at the northeast end of the Musashino Plateau, about 400 m to the west of the JR Akabane Station, with an altitude of approximately 20 m. The Arakawa River is located to the east, with the Tokyo Lowland spreading there at an altitude of about 5 m. The land in the west of Akabanedai is dissected by the Deji River, with part of it developed as a small tributary valley, which is developed like a tree branch. In the north and west of the site is a small tributary valley called Yawatadani, while in the south is one called Inatsukedani. The site is located at the edge of a plateau, close to the deepest part of the southern part of the Yawatadai.

Located on Akabandai, this Michiai site underwent our recent tenth excavation. Our investigations so far have unearthed ancient structures and relics dating back to the Paleolithic period through the Early Modern period to Modern times, revealing that the site has been home to a continuous series of people's lives. The eighth survey of the Michiai site, in the vicinity of its northern part, unearthed ancient structures and relics from the first half of the late Jomon period. The present investigation was expected to produce similar findings.

The present survey revealed earthenware of the Horinouchi types 1 and 2 and other relics dating back to the first half of the late Jomon period, along with ancient structures from the same period. The ancient structures thus discovered consisted mainly of earth piles and pits, which contained seashells in earth coverings. The seashell layer contained broken pieces of earthenware, animal bones, and fishbones, which are valuable findings that help us conjecture how people lived on the Michiai Site at that time. Also found were pits with human bones in them. They are very precious cases representing Japan, a land of acidic soil.

Also discovered were the ruins of one dwelling from the Yayoi period. The pit of the dwelling ruins is home to a straight-mouthed pot with a pattern of twisted mesh-like yarns, revealing that these dwelling ruins are from the late Yayoi period.

The Michiai site is home to numerous ancient groove-like structures from the Early Modern period and later eras. The present investigation also found two structures related to ancient groove-like structures found in our previous investigations.

Thus, the Michiai site is a very large ruin spread over much of Akabanedai. The recent survey findings have also brought about some valuable insights that help our exploration of people's livelihood activities and regional history in the Jomon period in the area.

序 言

北区赤羽台二丁目に所在する道合遺跡は、武蔵野台地北東端、本郷台地北部の台地である赤羽台の縁辺部に立地しています。東側は東京低地を臨み、南北に荒川や入間川によって支谷が形成されています。

今回の調査は東京都第六建設事務所による東京都市計画道路補助線街路 85 号線（赤羽台Ⅱ期）の整備事業に伴う事前調査として実施され、今回で第 10 次調査となります。

発掘調査では縄文時代・弥生時代・古代・近世の遺構・遺物が検出されました。その結果、赤羽台一帯に広がる原始・古代の集落、生活領域を明らかにする上で貴重な知見を得ることが出来ました。

これらの成果をまとめた本報告書が赤羽台の地域研究のみならず、多くの人々に活用され、学術研究の一助となり、地域の歴史を明らかにする資料となることを期待するとともに、埋蔵文化財に対する都民の皆様のご関心とご理解を深めて戴くことができれば幸いです。

本報告書の刊行に当たり、ご協力とご指導をいただきました東京都第六建設事務所、東京都教育委員会、北区教育委員会に厚く御礼を申し上げますとともに、ご教示いただきました研究者の皆様、ご協力いただきました地域住民の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和 6 年 6 月

公益財団法人東京都教育支援機構

理事長 坂東 眞理子

例 言

- 1 本書は令和4～6年度東京都市計画道路補助線街路第85号線（赤羽台Ⅱ期）整備事業に伴う、北区道合遺跡（北区No.49遺跡）の発掘調査報告書（東京都埋蔵文化財センター調査報告 第384集）である。
- 2 発掘調査事業は東京都第六建設事務所の委託を受け、公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本調査に先立つ試掘調査は、平成13年2月～7月にかけて、北区教育委員会の指導の下、国際航業株式会社（当時：現国際文化財株式会社）によって実施された。
- 4 遺跡所在地：東京都北区赤羽台二丁目地内
- 5 調査面積：625㎡
- 6 調査及び一次整理期間：令和5年3月16日～令和5年9月15日
二次整理期間：令和5年9月19日～令和6年4月15日
- 7 本事業における事業者との事業調整などは東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。
課長代理（埋蔵文化財担当） 鈴木 徳子（令和5年3月16日～令和6年4月15日）
埋蔵文化財係 山本典幸（令和5年3月16日～令和6年4月15日）
- 8 調査担当者
調査課課長 西澤 明（令和5年3月16日～令和6年4月15日）
課長代理 鈴木 啓介（令和5年3月16日～令和6年4月15日）
- 9 調査協力 株式会社ジオダイナミック 株式会社ヒューマンテック
- 10 本報告書の執筆はⅠ～Ⅴを鈴木啓介、付編1を植月 学、付編2を梶ヶ山 真里が行った。編集は鈴木が行った。
- 11 本調査に係る現地指導は、以下のとおりである。
現地指導
1) 道合遺跡の動物遺存体 植月 学（帝京大学文化財研究所 教授）
2) 道合遺跡出土の人骨 梶ヶ山 真里（国立科学博物館）
- 12 出土遺物及び発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、北区教育委員会で保管している。
- 13 本書で使用した地図類・写真等の出典については、各挿図・図版中に表記している。
- 14 本書に先立ち、本遺跡の概要については以下において報告されているが、本書の刊行をもって正式報告とする。
・「(22) 北区赤羽台二丁目地区」『東京都埋蔵文化財センター年報』43 令和4(2020)年度 26頁(2024年1月15日刊行)
・「北区道合遺跡」『遺跡発掘調査発表会 2024 (令和5年度) 発表要旨』1・2頁 (2024年3月20日刊行)
- 16 発掘調査及び整理・報告書作成作業に関して、下記の方々と機関にご指導ご協力を賜った。記して深謝いたします。（順不同・敬称略）
植月 学 牛山 英昭 梶ヶ山 真里 高坂勇佑 東京都第六建設事務所 東京都教育庁 北区教育委員会事務局教育振興部飛鳥山博物館事業係 赤羽消防署赤羽台出張所 マルエツ赤羽台店

凡 例

- (1) 本書で使用した標高は、T.P.（東京湾平均海面：Tokyo Peil）である。単位はメートル表記である。
- (2) 座標は世界測地系（測地成果 2011）平面直角座標IX系、方位記号は真北を示す。
- (3) 使用グリッドについては、先行調査で設定されたものを引き続き使用している。世界測地系に沿って設定し、Y 軸は真北を指す。起点は北西隅に置き、遺跡の座標については以下のとおりである。

1 A 杭 世界測地系 平面直角座標 9 系 $X = -24345.000$ 、 $Y = -10900.000$

- (4) 挿図の縮尺については図中に示したが、原則として以下のとおりである。
 - 1/40：遺構個別図（土坑・ピット・溝）
 - 1/150：遺構配置図
 - 1/80：層序全体図
 - 1/40：層序詳細図
 - 1/300：全体図（遺構分布図）
- (5) 土層の土色や含有物の面積割合、土器の色調等の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（日本色彩研究所発行 1988 年）を用い、土色・マンセルノーションで示している。
- (6) 出土遺物の注記記号は「MC X - ○○○」である。
- (7) 調査時における遺構平面図の実測、遺物の取り上げはトータルステーションシステムにより行った。
 - ・光波測距器：トプコン トータルステーション ES
 - ・データコレクター：トプコン FC250
 - ・使用ソフト：遺構くん CUBIC ver.16.05（株式会社 CUBIC）
- (8) 遺物の縮尺は各挿図中にスケールバーとして示したが、原則、以下のとおりである。

1/3：土器・土器実測図・拓影図


1/3・2/3：石器実測図

- (9) スクリーントーン・記号

【遺構】

 貝層  火床面  焼土検出範囲

【遺物】

 土器 赤彩

【遺物の水平・垂直分布】

種別：  土器  石器  礫  炭化物  骨類

目次

道合遺跡の発掘調査

SUMMARY

序言

例言・凡例

I	発掘調査の概要	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の方法	2
1)	発掘調査	2
2)	整理調査	4
3	調査の経過	5
II	遺跡の位置と環境	8
1	地理的環境	8
2	歴史的環境	8
III	基本層序	17
IV	遺構と遺物	22
1	縄文時代	22
1)	遺構	22
A	土坑	25
B	焼土範囲	33
C	ピット	33
2)	遺物	47
A	土器	47
B	石器	52
3)	遺構外出土遺物	53
A	土器	53
B	石器	57
2	弥生時代	60
1)	遺構	60
A	住居跡	60
2)	遺物	60
A	土器	60
3	古代	64
1)	遺物	64
A	土師器	64

4 近世以降	64
1) 遺構	64
A 溝	64
B 畝跡	66
C ビット	66
V まとめ 成果と課題	67
1 道合遺跡第10次調査における縄文時代後期前葉の遺構と遺物	67
2 328号土坑a・bの形成過程	68
3 ビット内の貝層堆積	68
4 ビット内出土土人骨のあり方	70
参考文献	72
付編 自然科学分析	75
1 道合遺跡の動物遺体	75
2 道合遺跡出土の人骨	104
写真図版	109
報告書抄録	139

巻頭図・写真目次

写真1 道合遺跡第10次調査の位置	i	写真13 P1992 貝層検出状況(北から)	iv
図1 道合遺跡第10次調査全体図(1/500)	ii	写真14 P1992 鹿角出土状況(東から)	iv
写真2 道合遺跡第10次調査A区全景写真	ii	写真15 P2002 人骨検出状況その1(南西から)	v
写真3 道合遺跡第10次調査B-1区全景写真	ii	写真16 P2002 人骨検出状況その2(南西から)	v
写真4 道合遺跡第10次調査C区全景写真	ii	写真17 P2002 人骨出土状況その3(南西から)	v
写真5 327号土坑土器出土状況(南から)	iii	写真18 P2002 完掘状況(南西から)	v
写真6 328号土坑a・b検出状況(北西から)	iii	写真19 348号住居跡床面検出状況(東から)	v
写真7 328号土坑a堆積状況(南から)	iii	写真20 348号住居跡P1土器出土状況(南東から)	vi
写真8 328号土坑b堆積状況(北から)	iii	写真21 348号住居跡b跡検出状況(東から)	vi
写真9 P1952 貝層堆積状況(西から)	iv	写真22 376号溝完掘状況(東から)	vi
写真10 P1958 貝層堆積状況(西から)	iv	写真23 377号溝完掘状況(東から)	vi
写真11 P1975 貝層検出状況(東から)	iv		
写真12 P1979 貝層検出状況(南から)	iv		

挿図目次

第1図 遺跡位置図(1/10,000)	1	第6図 周辺の遺跡(1/50,000)	14
第2図 グリッド・調査区別設定図(1/400)	3	第7図 調査区層序記録位置(S=1/400)	18
第3図 武蔵野台地 標高図	9	第8図 調査区西壁土層断面図(1/40)	19
第4図 武蔵野台地地形区分	10	第9図 層序柱状図位置(1/3000)・柱状図(1/40)	21
第5図 武蔵野台地 地形区分断面図	10	第10図 遺構全体図(S=1/300)	23

第11図	縄文時代 遺構分布図 (1/150) ……………	24	第22図	縄文時代 ビット (5) (1/40) ……………	40
第12図	縄文時代 326・327号土坑 (1/20・1/40) …	25	第23図	遺構出土遺物 (その1) (1/3・2/3) ……………	49
第13図	縄文時代 328号土坑 a・b・332・ 333号土坑平面図及び東壁断面図 (1/40) …	28	第24図	遺構出土遺物 (その2) (1/3) ……………	51
第14図	縄文時代 328号土坑 a・b サンプル採取 位置図 (1/40)・貝層断面写真 (1/20) ……	29	第25図	遺構外出土遺物分布図 (1/150) ……………	54
第15図	縄文時代 328号土坑 a・b・ 332・333号土坑断面図 (1/40) ……	30	第26図	遺構外出土遺物 (1) (1/3) ……………	56
第16図	縄文時代 328号土坑 a・b・ 332・333号遺物分布図 (1/40) ……………	31	第27図	遺構外出土遺物 (2) (1/3・2/3) ……………	57
第17図	縄文時代 329・330・331号土坑・ 10号焼土範囲 (1/20・1/40) ……………	32	第28図	弥生時代遺構配置図(1/150) ……………	60
第18図	縄文時代 ビット (1) (1/40) ……………	36	第29図	弥生時代348号住居跡 断面図・遺物分布図(1/40) ……………	61
第19図	縄文時代 ビット (2) (1/40) ……………	37	第30図	弥生時代348号住居跡跡跡・ 遺物分布図・出土遺物(1/3・1/40) ……	62
第20図	縄文時代 ビット (3) (1/20・1/40) ……………	38	第31図	古代遺構外出土遺物(1/3) ……………	64
第21図	縄文時代 ビット (4) (1/20・1/40) ……………	39	第32図	近世以降 遺構平面・断面図 (1/40・1/80・1/150) ……………	65
			第33図	第1次・第3次・第8次・第10次調査縄文時代 遺構分布状況(1/400) ……	71

表 目 次

第1表	発掘調査工程表 ……………	4
第2表	整理調査工程表 ……………	5
第3表	北区道合遺跡 周辺の遺跡(1) ……………	15
第4表	北区道合遺跡 周辺の遺跡(2) ……………	16
第5表	遺構観察・土層説明一覧表 (1) ……………	41
第6表	遺構観察・土層説明一覧表 (2) ……………	42
第7表	遺構観察・土層説明一覧表 (3) ……………	43
第8表	遺構観察・土層説明一覧表 (4) ……………	44
第9表	遺構観察・土層説明一覧表 (5) ……………	45
第10表	遺構観察・土層説明一覧表 (6) ……………	46
第11表	遺構出土土器観察表 ……………	58
第12表	遺構出土土器観察表 ……………	58
第13表	遺構外出土土器観察表 (1) ……………	58
第14表	遺構外出土土器観察表 (2) ……………	59
第15表	遺構外出土土器観察表 ……………	59
第16表	348号住居跡遺構観察・土層説明一覧表 ……	63
第17表	348号住居跡出土遺物観察表 ……………	63
第18表	古代遺物観察表 ……………	64
第19表	近世以降の遺構観察・土層説明一覧表 ……	66

図版目次

図版 1	1 A区全景(南から)	5	P1956完掘状況(西から)
	2 A区全景(北から)	6	P1958貝層検出状況その1(南から)
図版 2	1 B-1区全景(北から)	7	P1958貝層検出状況その2(西から)
	2 B-2a区全景(北から)	8	P1958完掘状況(南から)
図版 3	1 B-2b区全景(北から)	図版10	1 P1959堆積状況(西から)
	2 C区全景(北から)	2	P1959完掘状況(西から)
図版 4	1 326号土坑完掘状況(南東から)	3	P1963堆積状況(西から)
	2 327号土坑土器出土状況(南から)	4	P1963完掘状況(西から)
	3 327号土坑堆積状況(南から)	5	P1970貝層検出状況(西から)
	4 327号土坑完掘状況(南東から)	6	P1970完掘状況(西から)
	5 328号土坑a・b検出状況(南東から)	7	P1972貝層検出状況(東から)
図版 5	1 328号土坑a・b検出状況(北西から)	8	P1972完掘状況(東から)
	2 328号土坑a堆積状況その1(南から)	図版11	1 P1973堆積状況(北から)
	3 328号土坑b堆積状況その2(東から)	2	P1973貝層検出状況その1(南東から)
	4 328号土坑b堆積状況その1(西から)	3	P1973貝層検出状況その2(北西から)
	5 328号土坑b堆積状況その2(西から)	4	P1973完掘状況(北西から)
図版 6	1 328号土坑b堆積状況その3(北から)	5	P1975堆積状況(西から)
	2 328号土坑b獣骨出土状況(西から)	6	P1975貝層検出状況(東から)
	3 328号土坑b獣骨出土状況その2(西から)	7	P1975貝層堆積状況(東から)
	4 328号土坑調査風景(北西から)	8	P1975完掘状況(東から)
	5 328号土坑a・b・332号・333号土坑 完掘状況(北西から)	図版12	1 P1976堆積状況(東から)
図版 7	1 329号土坑堆積状況(西から)	2	P1976完掘状況(東から)
	2 329号土坑完掘状況(西から)	3	P1977堆積状況(南東から)
	3 330号土坑遺物出土状況(西から)	4	P1977完掘状況(南東から)
	4 330号土坑完掘状況(西から)	5	P1978堆積状況(南東から)
	5 331号土坑完掘状況(西から)	6	P1978完掘状況(東から)
	6 332号土坑完掘状況(西から)	7	P1979堆積状況(南から)
	7 333号土坑検出状況(南西から)	8	P1979貝層検出状況(南から)
	8 333号土坑完掘状況(西から)	図版13	1 P1979貝層堆積状況(東から)
図版 8	1 10号焼土範囲検出状況(東から)	2	P1979完掘状況(南から)
	2 10号焼土範囲堆積状況(東から)	3	P1980貝層堆積状況(東から)
	3 10号焼土範囲完掘状況(西から)	4	P1980完掘状況(東から)
	4 P1949貝層検出状況(東から)	5	P1981堆積状況(南西から)
	5 P1949貝層堆積状況(東から)	6	P1981完掘状況(南西から)
	6 P1949完掘状況(東から)	7	P1983堆積状況(西から)
	7 P1952貝層検出状況(南から)	8	P1983完掘状況(西から)
	8 P1952貝層堆積状況(西から)	図版14	1 P1984堆積状況(東から)
図版 9	1 P1952完掘状況(南から)	2	P1984完掘状況(東から)
	2 P1954堆積状況(東から)	3	P1985堆積状況(南西から)
	3 P1954獣骨出土状況(東から)	4	P1985完掘状況(西から)
	4 P1956堆積状況(西から)	5	P1986堆積状況(南西から)
		6	P1986完掘状況(南西から)

	7	P1989堆積状況(北から)		6	P2016堆積状況(東から)
	8	P1989完掘状況(北西から)		7	P2016完掘状況(東から)
図版15	1	P1990堆積状況(北東から)		8	P2017・2018堆積状況(西から)
	2	P1990完掘状況(北西から)	図版21	1	P2017完掘状況(西から)
	3	P1992堆積状況(北から)		2	P2018完掘状況(北から)
	4	P1992遺物出土状況(北から)		3	P2019堆積状況(東から)
	5	P1992貝層検出状況(北から)		4	P2019完掘状況(東から)
	6	P1992貝層堆積状況(東から)		5	P2021堆積状況(北から)
	7	P1992鹿角出土状況(東から)		6	P2021完掘状況(北から)
	8	P1992完掘状況(北から)		7	P2025堆積状況(南から)
図版16	1	P1993堆積状況(北から)		8	P2025完掘状況(南から)
	2	P1993完掘状況(北から)	図版22	1	P2026堆積状況(東から)
	3	P1994堆積状況(南から)		2	P2026完掘状況(東から)
	4	P1994完掘状況(南から)		3	P2028堆積状況(東から)
	5	P1995堆積状況(北から)		4	P2028完掘状況(東から)
	6	P1995完掘状況(北から)		5	P2029堆積状況(東から)
	7	P1996堆積状況(南から)		6	P2029完掘状況(東から)
	8	P1996完掘状況(南から)		7	P2033堆積状況(南東から)
図版17	1	P1997堆積状況(西から)		8	P2033完掘状況(南東から)
	2	P1997貝層検出状況(西から)	図版23	1	348号住居跡検出状況(東から)
	3	P1998堆積状況(北から)		2	348号住居跡床面検出状況(東から)
	4	P1998貝層検出状況その1(北から)	図版24	1	348号住居跡完掘状況(東から)
	5	P1998貝層検出状況その2(北から)		2	348号住居跡P1堆積状況(南から)
	6	P1998完掘状況(北から)		3	348号住居跡P1土器出土状況(南東から)
	7	P2000堆積状況(南西から)		4	348号住居跡P1完掘状況(南東から)
	8	P2000完掘状況(南西から)		5	348号住居跡P2堆積状況(南東から)
図版18	1	P2001堆積状況(東から)	図版25	1	348号住居跡P2完掘状況(南西から)
	2	P2001完掘状況(東から)		2	348号住居跡P3堆積状況(南西から)
	3	P2002人骨検出状況その1(南西から)		3	348号住居跡P3完掘状況(南西から)
	4	P2002人骨検出状況その2(南西から)		4	348号住居跡拡張部検出状況(東から)
	5	P2002人骨検出状況その3(南西から)		5	348号住居跡拡張部P4堆積状況(東から)
図版19	1	P2002人骨検出状況その4(南西から)		6	348号住居跡拡張部跡検出状況(東から)
	2	P2002完掘状況(南西から)		7	348号住居跡拡張部床面検出状況(東から)
	3	P2003堆積状況(南西から)		8	348号住居跡拡張部完掘状況(東から)
	4	P2003完掘状況(南西から)	図版26	1	376号溝堆積状況(東から)
	5	P2007堆積・完掘状況(東から)		2	376号溝完掘状況(東から)
	6	P2011堆積状況(南から)		3	377号溝堆積状況(東から)
	7	P2011完掘状況(南から)		4	377号溝完掘状況(東から)
	8	P2012堆積状況(東から)		5	3号竪跡検出状況(東から)
図版20	1	P2012完掘状況(東から)		6	3号竪跡完掘状況(東から)
	2	P2013堆積状況(南東から)		7	P1946(近世以降)完掘状況(西から)
	3	P2013完掘状況(南東から)		8	P1955(近世以降)完掘状況(西から)
	4	P2015堆積状況(東から)	図版27	1	327号土坑出土遺物
	5	P2015完掘状況(東から)		2	328号土坑a出土遺物

- 3 328号土坑b出土遺物
- 4 328号土坑一括出土遺物
- 5 330号土坑出土遺物
- 图版28 1 333号土坑出土遺物
- 2 P1952出土遺物
- 3 P1953出土遺物
- 4 P1958出土遺物
- 5 P1959出土遺物
- 6 P1963出土遺物
- 7 P1973出土遺物
- 8 P1975出土遺物
- 9 P1977出土遺物
- 10 P1978出土遺物
- 11 P1983出土遺物
- 12 P1992出土遺物
- 图版29 1 遺構外出土遺物(1)
- 图版30 1 遺構外出土遺物(2)
- 2 弥生時代348号住居跡出土土器
- 3 古代出土土器

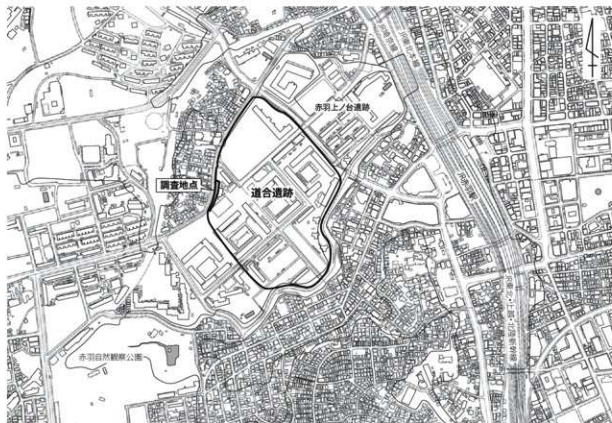
I 発掘調査の概要

1 調査に至る経緯

北区道合遺跡（北区 No.49 遺跡）は、JR 京浜東北線 赤羽駅の西約 400m の場所に位置し、地形的には武蔵野台地東端部の赤羽台地上に所在する。道合遺跡は赤羽消防署赤羽台出張所建設に先立つ調査が平成 6 年 1 月に行われ（第 1 次調査）、その後、独立行政放任都市再生機構（以下、UR 都市機構という。）の赤羽台団地の建替事業に先立って北区教育委員会の指導の下、国際文化財株式会社によって試掘調査が平成 13 年 2 月～7 月にわたって実施されている。その結果、この赤羽台には多時期にわたる遺構や遺物が遺存していることが明らかとなり、面積 12,500m²が道合遺跡として登録された。

道合遺跡の調査は 1～9 次調査まで行われ、今回の調査は第 10 次調査となる。

今回の調査は東京都第六建設事務所（以下、都六建という。）による東京都市計画道路補助線街路第 85 号線（赤羽台Ⅱ期）の整備事業に伴う埋蔵文化財の事前調査として行われた。この整備事業に伴い、都六建は東京都教育委員会教育長宛てに「法第 94 条 1 項の規定に基づく届出」を提出した。この地点は周知の埋蔵文化財の包蔵地であるため、その範囲について東京都教育委員会（以下、「都教委」という。）は北区教育委員会（以下、「区教委」という。）によって平成 13 年 2 月～7 月にかけて実施された試掘調査の結果から、事前の発掘調査が必要である旨を都六建に回答した。



第 1 図 遺跡位置図 (1/10,000) (国土地理院基盤地図情報データから作図)

都六建と都教委・区教委は協議を行い、本件の発掘調査は東京都が担当することとし、公益財団法人東京都教育支援機構（以下、「都支援機構」という。）が調査を実施することとなった。これを受け、都六建、都教委及び都支援機構の間で「東京都都市計画道路補助線街路第 85 号線（赤羽台Ⅱ期）の整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」が令和 4 年 11 月 1 日に締結され、令和 4 年 11 月 25 日に、都六建と都支援機構との間で委託契約が交わされた。

発掘届は、東京都埋蔵文化財センター（以下、「都埋文」という。）が令和 4 年 12 月 15 日付けて区教委・都教委に提出した（4 ス文事理文第 2402 号）。また令和 4 年 12 月 28 日に都教委から、都埋文に発掘調査の通知（4 教地管理第 3665 号）がなされた。

準備工は令和 4 年 3 月 14 日より開始し、残土の仮置き、緊急車両出入口の確保、安全面の確保から、調査範囲は 3 分割して行うこととし、まず A 区とした調査範囲の北側から 3 月 24 日に舗装盤切断を開始した。舗装盤切断後、3 月 27 日から表土掘削を実施し、発掘調査が開始された。

2 調査の方法

調査対象地は、東京都遺跡地図に「道合遺跡（北区No 49 遺跡）」として登録された範囲内の南東側に位置し、調査対象面積は約 625m²である。

調査の方法は、区教委と東京都教育庁地域支援部管理課との協議・指導の上決定し、発掘調査の作業手順については、都埋文の作業工程水準表および掘削作業標準に従って実施した。

また調査にあたり月に一回程度、都六建、都教委・区教委と都埋文の四者で、赤羽台二丁目分室において定例会議を行い、発掘調査の進捗状況や調査工程等を確認し、調査状況を把握・共有し、調査を円滑に進めるための協議を行なった。

1) 発掘調査

調査区設定

調査区は、世界測地系を基準として先行調査により道合遺跡全体を 5 × 5 m 区画に設定されたものを踏襲した。方眼の起点は北西位置とし、先行調査で東から西へアルファベット表記、北から南へアラビア数字表記されているものを用い、その方眼 1 単位を 1 グリッドとした。区画名は起点が 1 A で、道合遺跡第 10 次調査は南北 57 ～ 71、東西 H ～ M グリッドに該当する。調査対象範囲は、工程の関係上、北側を A 区、その南側を B 区とし、B 区は掘削土の移動の関係で B-1 ・ B-2 区と細分したが、B-2 区についてはさらに B-2a 区、B-2b 区と分けて調査を行っている。そして B 区の南側を C 区とした。

座標軸の基点（原点）は、調査区を包括するグリッド域南西端の A-1 杭を 0 基点原点杭とし、世界測地系（日本測地系 2000）に基づく座標値は、平面直角座標 X = -24345.000 ・ 北緯 35° 46' 49.82964"、Y = -10900.000 ・ 東経 139° 42' 45.94770"、真北 0° 04' 13.78"を示す。

掘削

掘削は、表土から縄文時代の層序と思われる黒褐色土直上まで重機により掘削を行った。攪乱されていた部分については重機で GL-1.5 m まで掘削を行った。遺構については人力掘削による遺構検出、遺構・遺物の記録作業（実測・写真撮影、サンプル採取等）を実施した。遺構番号は、道合遺跡全体で用いられている遺構別の通し番号を踏襲している。整理する上で遺構として捉えられなかったもの

については欠番とし、原則として遺構番号・記号の振替を行わなかった。

記録保存－遺物取上

遺物の取り上げ方法は、包含層出土、遺構出土ともに光波測量機器（トータル・ステーションシステム）を利用して、その出土位置を記録している。遺構等の実測に関しても光波測量機器を活用し、そこで得られた三次元データについては、発掘調査整理支援システムで処理する方法を採用して、作業の省力化とデータの信頼性の確保を図った。表土や攪乱層、明らかに混在していると判断される遺物については一括遺物として取り上げた。

記録保存－図面

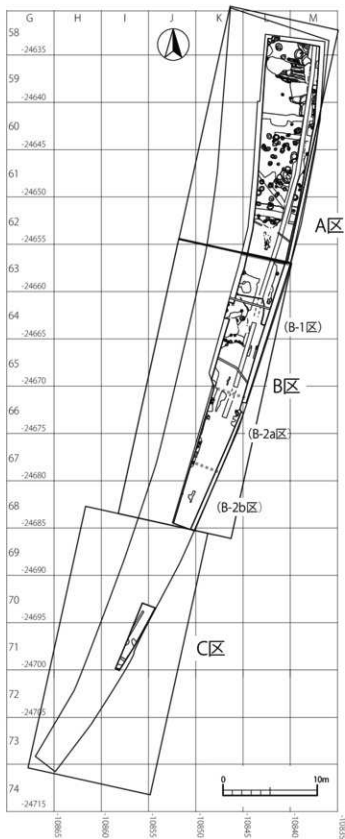
図面作成は遺構図及び貝層堆積図の作成は、平面図については光波測量機器（トータル・ステーションシステム）による計測、記録を中心に、土層堆積状況等の断面図については写真測量・光波測量機器（トータル・ステーションシステム）・手書きによる作図を併用している。なお手書き図面については、作図の縮尺を1/20、1/10として遺構の様相に合わせて縮尺を随時選択した。

記録保存－写真撮影

一眼レフ35mmフィルムカメラによるモノクロネガフィルム撮影及びカラーリバーサルフィルム撮影と、一眼レフデジタルカメラによる撮影を併用した。

記録保存－貝層サンプルの採取

本調査では、土坑内やピット内から貝層が検出されたものがあり、土坑についてはセクションベルトの貝層を層序ごとに採取した。またセクションベルト周辺の貝層については深度10cmごとに採取している。ピット内から検出された貝層については、基本的には半裁しながらサンプルを採取した後、層序を確認し、その後層序ごとにサンプル採取を実施している。



第2図 グリッド・調査区割設定図 (1/400)

第1表 発掘調査工程表

		令和4年度			令和5年度			
工区	工程	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	準備工	■						
A区	表土掘削		■					
	遺構掘削		■	■	■			
	測量		■	■	■			
B区	表土掘削				■	■	■	
	遺構掘削				■	■	■	■
	測量				■	■	■	■
C区	表土掘削					■		
	遺構掘削					■		
	測量					■		
	一次整理					■	■	■

2) 整理調査

(1) 一次整理

一次整理は主に貝層の洗浄が中心で、採取した貝層サンプルの袋ごとに乾燥させ、乾燥重量を計測した後にウォーターセパレーターによって水洗洗浄を行い、洗浄後は乾燥させて、内容物の粗分類を行っている。他にも土器等の出土遺物の洗浄作業を行っている。

(2) 二次整理

コラムサンプルの分類・計量・計測

採取した貝層サンプル内の貝を種別ごとに分類し、分類後は重量を計測、そしてマガキ・ハマグリで左右の判別と大きさが把握できるものについては、それらの記録を行ってデータ化している。

遺物

出土土器・石器は注記、分類後、拓影図・断面実測、実測等を行った。拓影図・断面図はコンピューター上で合成、トレースし図化を行った。石器は手実測した図面をスキャナーで取り込んだ後、トレースを行い図化している。

図化した遺物については種別ごとに遺物図版として作成している。またこれらの遺物については台帳により管理し、掲載遺物については観察表を作成した。

図面

全体図は光波測量機器（トータル・ステーションシステム）により作成されたものを整理・修正、トレースし、個別遺構図面・遺物分布図についても同様に整理・修正、トレースを行っている。土坑の貝層堆積状況は発掘調査時に写真実測したものと手実測したものを観察記録と合わせて作成し、整理、修正を経てトレースを行った。その後トレース図を基に遺構図版を作成している。遺構図面は台帳作成を行い、報告書に掲載する遺構のデータについては規模や検出グリッド、土層説明等、遺構観察表を作成している。

写真

写真は遺構等記録写真の整理、写真台帳の作成を経て、報告書に掲載する遺構写真を抽出し、明度などの調整を経て遺構写真図版を作成した。また遺物写真は掲載遺物を中心に二次整理作業の中で写真撮影を行い、整理、修正を行った後に遺物写真図版を作成している。

報告書編集

Microsoft Wordで作成した調査報告書の原稿と掲載する遺構・遺物のトレース図、写真図版を編

第2表 整理調査工程表

工程	作業内容	令和5年度					令和6年度			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
遺物整理	貝分類	■■■■■								
	貝計測			■■■	■■■					
	貝の台帳作成	■■■■■								
	遺物分類		■■■							
	拓本・実測		■■■	■■■						
	トレース			■						
	観察表作成			■	■					
	版組				■					
	写真撮影				■					
遺構整理	写真図版					■				
	図面修正	■■■■■								
	図面作成		■■■	■■■						
	トレース		■■■	■■■						
	版組				■■■	■■■				
	写真整理	■■■■■								
編集	写真図版			■						
	原稿執筆			■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■			
	編集					■■■■■	■■■■■	■■■■■		
その他	校正							■■■■■	■■■■■	
	移管作業							■		

集ソフト（Adobe Indesign CC）に貼り付け、文章とともにレイアウトして編集し、印刷業者に入稿した。その後校正作業を経て報告書の刊行となった。

その他

発掘調査の記録類及び作成データ、出土遺物については都教委に移管後、区教委に移譲された。

3 調査の経過

本調査に係わる準備工は令和5年3月16日に着手した。まず場内整備を実施し、その後A区から3月24日から舗装盤切断を行い、3月27日から切断した舗装盤の撤去とともに表土掘削を開始した。調査対象範囲が狭小であったため掘削発生土は調査区北側に1t土嚢に収めて仮置きした。

調査対象範囲は緊急車両の出入口の確保や発生土の仮置き、安全面の確保から、A区・B区（B-1区・B-2a・b区）・C区に分割し、A区から開始している。なお歩道部分については、遺構の広がりが見られないことやインフラの敷設による削平が想定されることを踏まえ、都教委・区教委と協議を行った結果、調査不要との判断がなされた。

発掘調査にあたっては、調査対象範囲が歩道に接している点、近隣にスーパーがあり人通りが多いこと、都道を挟んで西側には住宅がある地区であるため、振動や騒音に配慮するとともに、安全対策と合わせ、周辺住宅等に砂塵が飛散ないように調査区をブルーシート等で養生し、掘削土を入れた1t土嚢は、調査区北側にできる限り歩道から離れた位置に仮置きする等、対策を徹底した。

A区の舗装盤撤去及び碎石の除去後、GL-約0.5mで、縄文土器の破片や部分的に焼土粒が混じる黒褐色土が検出され、また逆位に据えられている状況が伺える縄文時代後期前半の土器が出土した。さらに破砕した貝が集中している箇所も見受けられた。だがこの黒褐色土の上層部分は後世の転圧により硬化しており、この土層での遺構の確認は出来なかった。A区は随所に近代以降の攪乱が認められ、その部分については重機及び人力でGL-1.5mの深度まで掘り下げて、層序や遺構の確認を行っ

ている。検出された黒褐色土について、セクションベルトを南北・東西の任意の位置に設定して残しながら人力により掘り下げながら遺構の確認を行った。A区の南側では近世以降の溝状遺構が検出され、中央部～北側付近の黒褐色土下層の暗褐色土からは土坑、ピットが認められた。先に触れた破砕貝の集中が看取された地点では、長軸3.7m×短軸1.8m×深度0.4mの範囲で多量のヤマトシジミ、ハマグリが廃棄された土坑が検出されている。ピットは73基検出され、検出されたピットの覆土に貝層が含まれているものも14基認められている。またピットの中には人骨が検出されたものもある。

A区の調査は6月29日に終了し、埋戻しは土壌を乾燥させながら7月12日に完了、アスファルト舗装を7月19日に終了した。

B区は北側をB-1区、南側をB-2区とし、南側のB-2区北側、B-2a区の調査を5月24日から舗装切断を開始し、舗装盤の撤去後、26日から表土掘削を開始した。A区と類似した黒褐色土も遺存していたが、多くの範囲が近代以降の攪乱を受けており、ピット22基の検出にとどまっている。なお、A区で検出されたピットと同様に、覆土に貝が含まれているものも1基検出されている。調査は6月16日に終了した。このB-2a区の埋戻しは、B-2b区の調査時掘削発生土を利用して行った。B-2b区は、部分的にローム土が検出されたもののほぼ近代以降の攪乱を受けており、ピット1基が検出されるにとどまった。B-2a・b区は7月26日に埋戻しが完了している。

C区は防塵舗装の切断を7月4日に行った後、7月5日から人力により掘削を行った。C区の掘削発生土はB-2b区に1t土嚢に収めて仮置きした。C区は北側が近代以降の攪乱を受けていたが、南側でA区で検出されたものと類似する近世以降の溝状遺構が検出されている。C区の調査は7月12日に終了し、9月1日に埋戻しを完了した。C区の北側のスーパーマルエツ搬入口部分については、B-2b区南側やC区掘削部分北側の様相から攪乱されている可能性が極めて高く、都教委・区教委と協議を行った結果、調査終了扱いとすることとなった。

B-1区は7月19日から仮囲い、舗装切断を開始し、7月27日から表土掘削を開始した。B-1区も近代以降の攪乱を受けている箇所が多数見られたが、弥生時代後期の住居跡が検出されている。この住居跡は歩道部分の西側に展開していたため、沿道掘削協議が必要となった。協議申請後に許可が下りた後、住居跡が延伸している部分のみ、掘削・調査を9月5・6日に行い、9月7日から埋戻しを行った。B区・C区の舗装は9月14・15日に行い、全工程が終了した。

本調査の埋蔵物発見届および保管証は、令和5年9月17日付(5学埋文第2353号)にて、発見届については警視庁滝野川警察署長に、保管証については区教委を経由して、それぞれ東京都教育委員会教育長にそれぞれ提出している。

埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属については、令和6年2月22日(5教地管理第4394号)にて、東京都教育委員会教育長より東京都埋蔵文化財センター所長宛に通知された。

一次整理は令和5年7月6日から貝層のコラムサンプルの乾燥→計量→洗浄を開始し、令和4年9月14日に終了した。その後令和5年9月15日で調査現場事務所を撤収し、豊島区北大塚に所在する大塚分室に整理作業事務所を移動した。令和5年9月19日から二次整理作業として、洗浄済サンプルの種別の分類、計量、計測並びに遺構測量データの整理と検出遺構の精査、記録写真の整理やデジタル処理、出土遺物の分類と実測、トレースや写真撮影を実施している。それらを道合遺跡第10次調査発掘調査報告書としてまとめるために、遺構及び遺物図版の作成や各種観察表の作成、版

組み、原稿執筆及び編集を行った。大塚分室での作業は令和6年1月31日まで行った。

出土遺物等の移管については、令和6年3月27日付（5学理文 第2681号）にて東京都教育庁地域教育支援部長に提出した。また、出土した遺物および写真、図面など各種記録一式について、令和6年3月27日に区教委の立会いのもと、北区王子収蔵庫に収納された。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

道合遺跡は北区赤羽台一・二丁目に所在し、武蔵野台地の北東端、荒川を臨む標高 20～25 m 前後の本郷台北部に位置する。いわゆる「赤羽台」で、現在の JR 赤羽駅西口から約 300m 西方の崖線上に立地している。

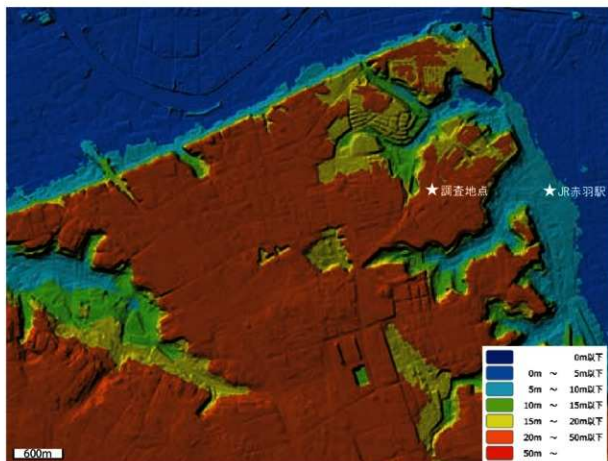
本遺跡の立地する武蔵野台地は、南を多摩川、北を荒川が流れ、東西約 50km、南北約 20km の広さを持つ洪積台地である。西端の青梅付近を起点に、東へ同心円状の等高線をもって標高を減じながら展開する扇状地形で、この台地内には綾瀬川・黒目側・白子側・石神井川・神田川・目黒川・野川などの河川が流下し、谷を形成している。武蔵野台地を構成する段丘面は、形成時期の順に多摩面（T 面）・下末吉面（S 面）・武蔵野面（M 面）・立川面（Tc 面）などに区分され、各段丘面に多摩・下末吉・武蔵野・立川などの関東ローム層が堆積する。本遺跡は武蔵野面の M2 面（6 万年前）に含まれている。従って本遺跡は、武蔵野面 M2 面の本郷台に所在する。この本郷台は JR 王子駅付近で東へ流れる石神井川により分断され、台地南側の上野台は谷端川によって西側の豊島台と分断されている。本郷台の東側には、後水期における有楽町海進最盛期に奥東京湾化した際、海成層によって埋没した沖積地である東京低地が展開している。本郷台北側は十条台と本遺跡の所在する赤羽台に分けられており、この赤羽台は、南の石神井川と北の荒川に挟まれた半島状の台地である。赤羽台の西側には出井川によって開析された樹枝状の小支谷が発達し、東側は北から八幡谷、亀ヶ池谷、稲付谷と呼ばれる小支谷が西側に貫入している。八幡谷と亀ヶ池谷に挟まれた赤羽台地上に、本遺跡は立地している。

2 歴史的環境

遺跡が所在する赤羽台からは旧石器時代から近世にかけて数多くの遺跡が確認されている。ここではこれらの遺跡について、東京都教育委員会 2009「東京都遺跡地図」に拠って各時代別に赤羽台の遺跡を中心に概観し、触れていきたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、赤羽台では道合遺跡第 2 次調査で後世の遺構から角錐状石器・ナイフ形石器・石核・剥片などが出土しているが、文化層からの出土は認められない。第 3 次調査では槍先形尖頭器が出土している。西に近接する大六天遺跡（北 12）ではⅣ・Ⅴ層、Ⅶ～Ⅸ層から石器が出土している。八幡谷を挟んだ赤羽台遺跡（北 5）八幡神社地区ではⅢ～Ⅴ層、Ⅸ・Ⅹ層から、星美学園地区ではⅣ・Ⅸ層、国立王子病院地区ではⅦ～Ⅸ層で石器が出土している。赤羽台縁辺から西側には桐ヶ丘遺跡（北 8）、小豆沢東原・小豆沢宮の前遺跡（板 105）があり、桐ヶ丘遺跡では都営桐ヶ丘二丁目団地地区でⅣ～Ⅹ層から石器が出土している。南東側の十条台では加賀一丁目遺跡（板 112）・十条台遺跡群（北 19）、上野台北部では西ヶ原遺跡群（北 27）飛鳥山遺跡・田端町遺跡（北 31）で旧石器時代の遺跡が認められる。



第3図 武蔵野台地 標高図 (国土地理院色別標高図をもとに作図)

縄文時代

(1) 草創期

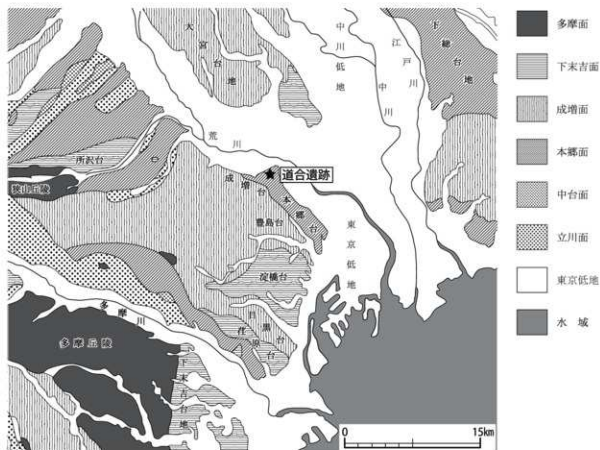
赤羽台では赤羽台遺跡(北5)から有茎尖頭器が出土している。十条台では十条久保遺跡(北47)上野台北部では西ヶ原遺跡群(北27)西ヶ原貝塚から有舌尖頭器が出土している。

(2) 早期

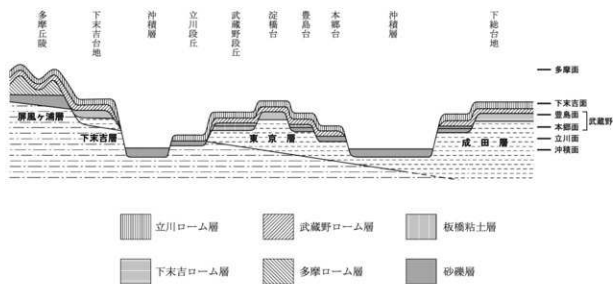
本遺跡では早期後半の炉穴群の検出や土器が出土している。また赤羽台周辺では、赤羽台遺跡(北5)からは早期後半の炉穴や土器が非常に多く出土している。他に早期の遺跡は島下遺跡(北13)、桐ヶ丘遺跡(北8)、小豆沢東原・小豆沢宮ノ前遺跡(板105)、小豆沢貝塚(板104)等がある。十条台では清水坂遺跡(北18)、上野台北部では、西ヶ原遺跡群(北27)の飛鳥山遺跡・田端西台通遺跡(北41)・東谷戸遺跡(北44)、染井遺跡(豊5)、崖線下の低地では中里遺跡(北30)が挙げられる。

(3) 前期

本遺跡では2次・4次調査で前期初頭と中葉の集落が検出されており、中葉の地点貝塚も認められる。本遺跡西側の大六天遺跡(北12)では、前期中葉から後葉の住居跡・柱穴群・竪穴状遺構などが検出されている。赤羽台周辺では、赤羽台遺跡(北5)、袋低地遺跡(北4)、小豆沢宮ノ前遺跡(板105)、小豆沢貝塚・小豆沢宮ノ前遺跡(板104)等がある。十条台では十条台遺跡群(北19)(宿遺跡・亀山遺跡)、上野台北部では、西ヶ原遺跡群(北27)(飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社前遺跡・



第4図 武蔵野台地地形区分(『東京の自然史増補第二版』貝塚爽平(1978)より再トレースし、作成)



第5図 武蔵野台地地形区分断面図(『関東ロームの諸問題』関東ローム研究グループ(1956)より再トレースし、作成)

西ヶ原貝塚・田端町遺跡（北31）・田端不動坂遺跡（北32）・田端西台通遺跡（北41）、崖線下の低地では中里遺跡（北30）がある。

（4）中期

本遺跡では中期の遺構や遺物はあまり見られないが、赤羽台周辺に目を向けると、赤羽台遺跡（北5）、袋低地遺跡（北4）、袋西浦遺跡（北48）、大六天遺跡（北12）、桐ヶ丘遺跡（北8）、小豆沢宮ノ前遺跡（北105）、小豆沢貝塚（板104）等がある。十条台では十条台遺跡群（北19）南橋遺跡・十条久保遺跡（北47）、上野台北部では、西ヶ原遺跡群（北27）・田端町遺跡（北31）・中里峽上遺跡（北40）・田端西台通遺跡（北41）・東谷戸遺跡（北44）が挙げられる。一方、崖線下の低地では中里遺跡（北30）・栄町貝塚（北51）など、大規模な貝塚形成が認められる。

（5）後期

本遺跡では第1次調査でピット群・土坑・地点貝塚が検出されている。第3次調査では住居跡が2軒と土坑やピット、ピット内貝層及び地点貝塚の検出と土器等の遺物の出土が見られる。第3次調査に近接する第8次調査でも、土坑内に貝層が堆積した後期の遺構が検出されている。十条台では、十条台遺跡群（北19）（南橋遺跡）・十条久保遺跡（北47）、上野台北部では、西ヶ原遺跡群（北27）（飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社前遺跡・七社神社裏遺跡・西ヶ原貝塚）・東谷戸遺跡（北44）・中里峽上遺跡（北40）・田端不動坂遺跡（北32）、崖線下の低地では、中里遺跡（北30）、栄町貝塚（北51）が挙げられる。学史上著名な西ヶ原貝塚は、馬蹄形を呈す貝層が形成された貝塚であり、後期の集落が確認されている。

（6）晩期

本遺跡周辺の赤羽台では、赤羽台遺跡（北5）、袋低地遺跡（北4）、袋西浦遺跡（北48）、小豆沢貝塚・小豆沢宮ノ前南遺跡（板104）等があり、石神井川流域には加賀一丁目遺跡（板112）、滝野川八幡社裏貝塚（北25）、氷川神社裏貝塚（豊1）がある。上野台北部では、西ヶ原遺跡群（北27）（飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・西ヶ原貝塚）、崖線下の低地では、中里遺跡（北30）栄町貝塚（北51）が認められる。

弥生時代

（1）前期

前期の遺跡は非常に少なく、袋低地遺跡（北4）、小豆沢宮ノ前遺跡（板105）、久保田遺跡（板172）があるが、十条台及び上野台北部では発見されていない。

（2）中期

中期の遺跡は、本遺跡の第3次調査で堅穴住居跡が検出されている。赤羽台周辺では、赤羽台遺跡（北5）の星美学園地区で集落と墓域が認められ、十条台では十条台遺跡群（北19）南橋・亀山遺跡において環濠集落が、宿遺跡では方形周溝墓が検出されている。上野台北部では、西ヶ原遺跡群（北27）の飛鳥山遺跡から環濠集落、御殿前遺跡では方形周溝墓が検出されている。また中里遺跡（北30）では土器が出土し、田畑不動坂遺跡（北32）では集落が展開する。

（3）後期

本遺跡では第2次・3次調査で後期後半から古墳時代初頭の集落が検出され、隣接する赤羽上ノ台遺跡（北9）第2次調査では方形周溝墓が認められている。赤羽台周辺の遺跡では、赤羽台遺跡（北5）

の星美学園地区で環濠集落及び方形周溝墓が検出され、また西側の王子病院地区では大規模集落が展開する。十条台には十条台遺跡群（北19）の南橋遺跡・宿遺跡、十条久保遺跡（北29）、上野台北部には西ヶ原遺跡群（北27）の飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社前遺跡・七社神社裏遺跡、中里峡上遺跡（北40）、田端町遺跡（北31）、田端西台遺跡（北41）、田畑不動坂遺跡（北32）が分布するなど、遺跡数が多い。

古墳時代

（1）弥生時代終末～古墳時代初頭、前期

赤羽台周辺では、赤羽台遺跡（北5）の八幡神社地区では集落が、星美学園地区で方形周溝墓が続くが、国立王子病院地区や本遺跡では遺跡は見られなくなる。十条台では十条台遺跡群（北19）の南橋遺跡・宿遺跡、十条久保遺跡（北47）で集落が継続し、石神井川流域で加賀一丁目遺跡（板112）がある。荒川右岸の自然堤防上には志茂遺跡（北35）で円形周溝墓、豊島馬場遺跡（北42）で集落と墓域が形成される。上野台北部では西ヶ原遺跡群（北27）（飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社前遺跡・七社神社裏遺跡）・田端西台通遺跡（北41）からは集落が、田端不動坂遺跡（北32）等がある。

（2）中期

赤羽台周辺では稲付公園遺跡（北16）がある。十条台では十条台遺跡群（北19）南橋遺跡で集落が発見されている。荒川右岸の自然堤防上には遺構を伴う遺跡は認められないものの、都民ゴルフ場遺跡（北36）、宮堀北遺跡（北43）より遺物が出土している。

（3）後期

本遺跡及び周辺では、ミタマ古墳（北10）、天王塚古墳（北11）、大塚古墳（北14）が挙げられる。円墳15基が確認されているが、未調査のものを含めるとさらに増加するものと推定される。周辺では最大規模の群集墳である。十条台では十条台古墳群（北45）、富士塚古墳（北20）、王子稲荷裏古墳（北22）が、上野台北部では飛鳥山古墳群（北46）・甲冑塚古墳（北28）・田端西台通遺跡（北41）があり、石神井川右岸には四本木稲荷古墳（北24）、滝野川古墳（北26）がある。集落遺跡は本遺跡第2次・4次調査で6世紀前半の集落が検出されている。赤羽台では赤羽台遺跡（北5）で集落が、袋低地遺跡（北4）、袋西浦遺跡（北48）で遺構が検出されている。石神井川流域には下十条遺跡（北39）がある。十条台では十条台遺跡群（北19）南橋遺跡、低地では、宮堀北遺跡（北43）で遺跡が確認されている。上野台北部では西ヶ原遺跡群（北27）の飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社前遺跡・七社神社裏遺跡、中里峡上遺跡（北40）、田端町遺跡（北31）、田畑不動坂遺跡（北32）等がある。

【古代】

（1）奈良時代

古代の赤羽台・十条台・上野台は武蔵国豊島郡に含まれる範囲である。本遺跡では赤羽上ノ台遺跡（北9）を含めて集落が展開する。赤羽台周辺では赤羽台遺跡（北5）国立王子病院地区や桐ヶ丘遺跡（北8）で掘立柱建物・竪穴住居跡、特殊遺構、溝等の集落が検出されている。小豆沢東原・小豆沢宮ノ前遺跡（板105）にも集落がある。また袋低地遺跡（北4）、稲付城址（北15）がある。他に堂山横穴墓（北3）、赤羽台横穴墓群（北7）も認められる。十条台では十条台遺跡群（北19）の南橋遺跡・宿遺跡、

十条久保遺跡（北47）、その西側の下十条遺跡（北39）、加賀一丁目遺跡（板112）で集落が展開し、荒川の自然堤防上には宮堀北遺跡（北43）、豊島馬場遺跡（北42）、荒川右岸に志茂遺跡（北35）がある。そして十条台小学校横六墓（北21）がある。上野台北部には西ヶ原遺跡群（北27）の飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社遺跡・西ヶ原遺跡で集落が展開する。また中里峽上遺跡（北40）、田畑町遺跡（北31）、田端西台通遺跡（北41）、田畑不動坂遺跡（北32）で集落が検出されている。

（2）平安時代

本遺跡では集落が継続し、赤羽台周辺では赤羽台遺跡（北5）で集落が認められる。桐ヶ丘遺跡（北8）、小豆沢東原・小豆沢宮ノ前遺跡（板105）も集落が継続し、本遺跡に隣接する大六天遺跡（北12）でも住居跡が検出されている。

十条台北側では、十条台遺跡群（北19）南橋遺跡・宿遺跡、十条久保遺跡（北47）で集落が継続し、石神井川流域の下十条遺跡（北39）、久保田遺跡（板172）も同様である。荒川右岸の低地では、袋低地遺跡（北4）、浮間遺跡（北1）、舟橋遺跡（板134）、宮堀北遺跡（北43）、神谷遺跡（北50）がある。中里遺跡（北30）でも集落が見られ、多量の墨書土器が出土している。上野台北部では、西ヶ原遺跡群（北27）飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・七社神社前遺跡、田端町遺跡（北31）・田端不動坂遺跡（北32）・中里峽上遺跡（北40）・田端西台通遺跡（北41）で集落が継続する。

中世

赤羽台周辺では赤羽台遺跡（北5）から地下式墳や骨蔵器が検出されている。また稲付城址（北15）もある。荒川右岸の低地には袋西浦遺跡（北48）、袋低地遺跡（北4）、豊島馬場遺跡（北42）、中里遺跡（北30）で遺構及び遺物が検出されている。石神井川流域には板橋区№165遺跡（板165）、仲宿遺跡（板170）、久保田遺跡（板172）等が認められ、十条台では十条台遺跡群（北19）南橋遺跡・宿遺跡、十条久保遺跡（北47）、加賀一丁目遺跡（板112）があり、十条久保遺跡（北47）では、鎌倉街道中ツ道の道路跡が検出されている。上野台北部では西ヶ原遺跡群（北27）飛鳥山遺跡・御殿前遺跡、東谷戸遺跡（北44）、中里峽上遺跡（北40）、田端町遺跡（北31）、田端不動坂遺跡（北32）、中里峽上遺跡（北40）・田端西台通遺跡（北41）田畑不動坂遺跡（北32）、道灌山遺跡（荒4）がある。



第6図 周辺の遺跡 (1/50,000)

第3表 北区道合遺跡周辺の遺跡(1)

区名	番号	遺跡名	種別	立地	時代
足立区	1	都民ゴルフ相違跡	包蔵地	低地	弥生/古墳
荒川区	1	諏訪台/日暮里延命院日塚遺跡跡	包蔵地・日塚	台地緑沼	縄文(後期～晩期)
荒川区	4	酒蔵山遺跡	集落	台地緑沼	旧石器/縄文(前期～後期)/弥生/奈良/平安/中世/近世
板橋区	104	小豆沢貝塚/小豆沢宮ノ前遺跡	包蔵地・集落・貝塚	台地緑沼	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
板橋区	105	小豆沢東原/小豆沢宮ノ前遺跡	集落	台地	縄文(後期)/弥生/古墳/奈良/平安
板橋区	110	稲村遺跡	包蔵地	台地	縄文
板橋区	111	稲荷台遺跡	包蔵地	台地	縄文(早期～後期)
板橋区	112	加賀一丁目遺跡	集落 包蔵地 屋敷 その他(防衛器械火薬製造所跡、庭園)	台地	旧石器/縄文(早・前)/弥生/古墳/奈良/近世/その他(近代)
板橋区	170	仲宿遺跡	包蔵地	台地	縄文(早期)/古墳/中世/近世
板橋区	172	久保山遺跡	包蔵地・集落	台地	旧石器/縄文/弥生/奈良/平安/中世/近世]
板橋区	174	山之上遺跡	集落	台地	縄文(中期)/近世
北区	1	浮間遺跡	包蔵地	低地	弥生/平安/中世]
北区	2	浮間伏桑動内遺跡	包蔵地	低地	弥生
北区	3	豊山横穴墓	横穴墓	台地斜面	古墳/奈良
北区	4	袋地遺跡	包蔵地・日塚	低地階高地	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	5	赤羽台遺跡	集落	台地緑沼	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	6	赤羽台古墳群	古墳	台地緑沼	古墳
北区	7	赤羽台横穴墓群	横穴墓	台地斜面	奈良
北区	8	柳ヶ丘遺跡	集落	台地緑沼	旧石器/縄文(早期・中期～後期)/弥生/古墳/奈良/平安
北区	9	赤羽上ノ台遺跡	集落	台地緑沼	縄文(早期)/弥生/奈良/平安
北区	10	ミタマ古墳	古墳	台地	古墳
北区	11	天王塚古墳	古墳	台地	古墳
北区	12	大六天遺跡	集落跡	台地緑沼	旧石器/縄文(前期)/平安/近世
北区	13	葛下遺跡	包蔵地	台地	縄文(早期～後期)/弥生
北区	14	大塚古墳	古墳	台地	古墳
北区	15	稲付城跡	集落・城跡	台地緑沼	古墳/奈良/中世
北区	16	柳ノ木遺跡	集落	台地緑沼	古墳
北区	17	柳ノ木遺跡	包蔵地	谷	縄文/弥生
北区	18	清水池遺跡	集落・日塚	台地緑沼	縄文(早期～前期)/弥生
北区	19	十条台遺跡群	集落・その他の墓	台地緑沼	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良/平安/近世
北区	20	富士塚古墳	古墳	台地緑沼	古墳
北区	21	十条台小字横穴墓	横穴墓	台地斜面	奈良
北区	22	王子稲荷古墳	古墳	台地緑沼	古墳
北区	23	北区No.23 遺跡	古瓦出土地	台地・谷	中世
北区	24	四本木稲荷古墳	古墳	台地・谷	古墳
北区	25	廣野山八幡社裏日塚	日塚・集落	台地斜面	縄文(後期～晩期)/古墳
北区	26	廣野山古墳	古墳	台地	古墳
北区	27	西ヶ原遺跡群	集落・日塚・その他の墓・城跡	台地	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	28	甲賀塚古墳	古墳	台地	古墳
北区	29	武蔵司曹島跡跡	官衙	台地	古墳/奈良/平安
北区	30	中甲遺跡	包蔵地・日塚	低地階高地	縄文(早期～後期)/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	31	田沼町遺跡	集落	台地斜面	旧石器/縄文(前期・中期)/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	32	田沼不動取遺跡	集落	台地緑沼	縄文(前期)/弥生(中期～後期)/古墳/奈良/平安/中世/近世/近代
北区	33	熊野神社北方遺跡	包蔵地	低地階高地	弥生
北区	34	熊野神社遺跡	包蔵地	低地階高地	弥生
北区	35	志茂遺跡	集落	低地	弥生/古墳/奈良/平安
北区	36	都民ゴルフ相違跡	包蔵地	低地階高地	古墳
北区	37	曹島清光池跡	城跡	低地	中世
北区	38	廣野山城跡	城跡	台地緑沼	中世
北区	39	下十条遺跡	集落	台地緑沼	縄文/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	40	中里塚上遺跡	集落・日塚	台地	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/近世
北区	41	田沼西行通1号古墳	古墳	台地	古墳
北区	41-3	田沼西行通2号古墳	古墳	台地	古墳
北区	41-4	田沼西行通3号古墳	古墳	台地	古墳
北区	41-5	田沼西行通4号古墳	古墳	台地	古墳
北区	41	田沼西行通遺跡	集落・日塚・古墳	台地	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	42	曹島兜場遺跡	集落	低地	弥生(後期)/古墳/奈良/平安/中世/近世
北区	43	空堀北遺跡	包蔵地	低地	古墳/奈良/平安
北区	44	東谷川遺跡	集落	谷	縄文(早期～後期)/弥生/近世
北区	45	十条台古墳群	古墳群	台地	古墳
北区	46	鶴島山古墳群	古墳群	台地	古墳
北区	47	十条久保遺跡	集落	台地・谷	縄文(後期)/弥生(後期)/奈良/平安/中世/近世
北区	48	袋内西遺跡	包蔵地	低地	縄文(中期)/古墳/中世/近世
北区	49	道合遺跡	集落	台地	縄文(早期～前期・後期)/弥生/古墳/奈良/平安/近世
北区	50	神谷遺跡	包蔵地	低地	縄文/平安/近世
北区	51	栄町日塚	日塚	低地階高地	縄文
台東区	1	南玄寺日塚	包蔵地・日塚	台地緑沼	縄文(中期～後期)/近世
台東区	2	天王寺日塚	包蔵地・日塚	台地緑沼	縄文(後期)/古墳
台東区	3	御林山古墳	古墳	台地緑沼	古墳

第4表 北区道合遺跡 周辺の遺跡 (2)

区 名	番号	遺跡名	種 別	立 地	時 代
台東区	4.1	上野忍回遺跡群	包蔵地・集落・社寺・屋敷・その他(墓・その他(花弁園))	台地	旧石器/縄文(早期~晩期)/弥生(後期)/古墳/奈良/平安/中世/近世/近代
台東区	4.5	上野忍回遺跡群	包蔵地・集落・貝塚・社寺	台地	旧石器/縄文/古墳/奈良/平安/中世/近世
台東区	4.7	上野忍回遺跡群	包蔵地・集落・社寺	台地	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/近世
台東区	4.8	上野忍回遺跡群	包蔵地・集落・社寺	台地/台地斜面	旧石器/縄文/弥生(後期)/古墳/奈良/平安/中世/近世
台東区	4.9	上野忍回遺跡群	包蔵地・集落・社寺	台地	縄文/古墳/奈良/平安/近世
台東区	5	台東区5-5 遺跡	古墳	古墳	古墳
台東区	6	新取貝塚	貝塚	台地	縄文(後期)/弥生(後期)
台東区	10	鶴島(切通し北)貝塚	貝塚	台地縁辺	縄文(前期~晩期)
台東区	13	鞍塚古墳	古墳	台地	古墳
台東区	14	板岩台古墳	古墳	台地	縄文/古墳/奈良/平安/近世
台東区	30-1	谷中丸町回遺跡	集落・屋敷	台地	縄文(中期)/古墳/奈良/平安/近世
台東区	30-2	谷中丸町回遺跡	包蔵地・屋敷	台地	縄文(早期~後~晩期)/弥生(後期)/古墳/奈良/平安/近世/近代
台東区	35	茅町遺跡	包蔵地・集落・屋敷・その他(邸宅)	低地	縄文(前期~晩期)/弥生/平安/近世
豊島区	1	東川神社裏貝塚	包蔵地・貝塚	台地斜面	縄文(前期~晩期)/弥生/平安/近世
豊島区	2	池袋東貝塚	包蔵地・貝塚	台地縁辺	縄文(前期)/古墳/奈良/平安/中世
豊島区	3	学院大学前辺遺跡	包蔵地	台地縁辺	旧石器/縄文(後期)
豊島区	5	荒井遺跡	包蔵地・集落・貝塚・屋敷(大名屋敷・その他(武家))	台地	縄文(早期~晩期)/弥生(後期)/古墳/中世/近世
豊島区	6	栗崎遺跡	包蔵地・集落・屋敷(武家屋敷・その他(町屋))	台地	縄文(中期~後期)/弥生(後期)/近世
豊島区	7	北大塚遺跡	包蔵地・屋敷(大名屋敷)	谷	縄文/古墳/近世
豊島区	8	新込一丁目遺跡	包蔵地・集落・その他(町屋)	台地縁辺	縄文(中期)/弥生(後期)/近世
豊島区	9	新込古墳	古墳	台地縁辺	古墳
豊島区	11	高松遺跡	包蔵地	台地縁辺	縄文(中期?)/平安?/近世
豊島区	12	藤司が谷遺跡	包蔵地・その他(町屋)	台地斜面	縄文(早期)/平安/中世/近世
豊島区	13	東池袋遺跡	包蔵地	谷	縄文/近世
豊島区	14	旧須賀寺境内遺跡	社寺・屋敷	台地斜面	近世
豊島区	15	橋本遺跡	集落	台地縁辺	近世
豊島区	16	千早遺跡	包蔵地	台地	縄文/古墳
豊島区	17	南池袋遺跡	包蔵地・屋敷	台地	縄文/近世
文京区	1	大塚遺跡	集落・屋敷	谷	縄文/古墳/近世
文京区	2	大塚古墳	古墳	台地	古墳?
文京区	3	大塚三丁目遺跡	包蔵地・貝塚?・屋敷・その他(村)	台地・谷	縄文/古墳/中世/近世
文京区	11	伝通町裏貝塚	包蔵地・集落・貝塚?・社寺・屋敷	台地縁辺	縄文/弥生/古墳/近世
文京区	12	久保町遺跡	貝塚・屋敷	台地	縄文/近世
文京区	13	曙町古墳	古墳	台地	古墳?
文京区	14	新取遺跡	包蔵地・集落・貝塚・屋敷	台地	旧石器/縄文(中期~晩期)/弥生/近世
文京区	15	富士神社古墳	古墳	台地	古墳
文京区	16	上高土前町遺跡	包蔵地・集落	台地	縄文/弥生/古墳/奈良/平安/近世
文京区	19	戸崎町遺跡	包蔵地・屋敷	台地	縄文/近世
文京区	21	小石川植物園内貝塚・原町遺跡	包蔵地・集落・貝塚・屋敷群	台地縁辺	旧石器/縄文(中期~晩期)/近世
文京区	22	原町遺跡	貝塚・屋敷	台地縁辺	縄文/近世
文京区	23	白山神社古墳	古墳	台地縁辺	古墳
文京区	24	白山二丁目南遺跡	包蔵地	台地縁辺	縄文/近世
文京区	25	千駄木貝塚	集落・貝塚・その他(墓・屋敷)	台地縁辺	旧石器/縄文/弥生(後期)/近世
文京区	26	林町遺跡	包蔵地・集落・屋敷	台地	旧石器/縄文(中期)/弥生/奈良/近世
文京区	27	新込神町貝塚	集落・屋敷	台地	縄文/近世
文京区	28	弥生町遺跡群	貝塚	台地縁辺	縄文/弥生/近世
文京区	33	弓町遺跡	包蔵地・集落・屋敷	台地	旧石器/縄文/弥生(後期)/奈良/平安/中世/近世
文京区	37	鶴山古墳	古墳	台地	古墳
文京区	40	鶴島(切通し北)貝塚	貝塚	台地縁辺	縄文(前期~晩期)
文京区	47	本郷台遺跡群	包蔵地・集落・貝塚・その他(墓・社寺・屋敷・その他(町屋))	台地	旧石器/縄文/弥生/古墳/平安/近世
文京区	51	西砂町(貞節)遺跡	集落・屋敷	台地	旧石器/縄文(早期~晩期)/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世
文京区	55	新込道分町南遺跡	集落・屋敷・その他(町屋・道路跡)	台地	縄文/近世
文京区	59	新龍町遺跡	包蔵地・集落・屋敷	台地	旧石器/縄文/奈良/平安/近世
文京区	64	新込道分町遺跡	包蔵地	台地	近世
文京区	68	新込富士前町遺跡	包蔵地・社寺・屋敷・その他(町屋)	台地	縄文/平安/近世
文京区	69	小日向町遺跡	包蔵地・集落・社寺	台地	縄文/古墳/奈良/近世
文京区	74	龍岡町遺跡	集落・屋敷	台地	縄文(前期~晩期)/弥生/平安/近世
文京区	81	小石川御茶屋跡	集落・その他	台地	縄文/近世
文京区	97	団子坂上遺跡	包蔵地・集落・社寺・屋敷・その他(町屋)	台地	旧石器/縄文(中期)/弥生(中期)/平安/近世
文京区	107	小日向三丁目東遺跡	包蔵地・集落・屋敷	台地縁辺	縄文/古墳/奈良/近世
文京区	118	小日向一・二丁目南遺跡	包蔵地・集落・その他(墓・社寺・屋敷・その他(町屋))	台地縁辺	縄文/古墳/奈良/平安/中世/近世

III 基本層序

第10次調査の調査対象範囲は道合遺跡の西端に位置し、都道を挟んだ西側には八幡谷が入り込む、台地の縁辺部である。遺跡の現地表面の標高はA区の最北部で20.9m、C区の最南部で21.3mである。

土層堆積状況の観察は、調査区の西壁を中心に行っている。今回の調査では、過去の道合遺跡調査で見られた近現代のI-1～I-4層はガス管や水道管が敷設され、アスファルトや砕石等の舗装がなされていたため、B区でI-3層が一部観察されたほかは削平されており、I-5層から観察された。縄文時代の層序であるII層は、第6次調査でみられたように近世の耕作土であるI-5層により削平されている箇所も認められたが、平成28・29年度第6次調査よりもII層は削られておらず、平成29年度の第8次調査の南側の様相と類似して、II層が遺存している。I-5層上部やII層の上部で砕石層との境目付近の層序は、現代の舗装工事による転圧の影響を受け、硬化している部分も広い範囲で認められた。

今回の調査では調査区西壁ではIII層上まで、調査区中央部付近の攪乱部分についてはIV層まで掘削を行い、層序の観察を実施しているが、I-5層以下の層は道合遺跡第2～8次調査で確認されたものとほぼ同様の土層である。従って今回の調査で確認された層位の説明について、今までの調査成果に準拠して土層説明を行っていく。

【土層説明】

- 0層 アスファルト舗装 現地表面
- 0'層 砕石層 舗装下に敷設された砕石。
- I-3層 整地土 米軍接収時の整地層か。
- I-5層 黒褐色土(7.5YR2/3)締りはややあり。1～10mm前後のロームブロックを含む。近世から近代の耕作土・遺構覆土。層の上部では、転圧による土壌の硬化が伺える。
- II-1層 黒褐色土(10YR3/1)可塑性・粘性・締りあり。1～3mm大のローム粒を3～5%含む。I-5層により削平されたものと思われ、今回の調査では検出されなかった。
- II-2層 黒褐色土(10YR3/1)締りあり。1～2mm大のローム粒を3～5%、橙色スコリアを1%前後含む。この層序もI-5層に削平されている可能性が高く、検出されなかった。
- II-3層 暗褐色土(10YR3/3)締りあり。粒子やや粗い。1～5mm大のローム粒を3～10%、橙色スコリアを1%前後含む。層の上部では、転圧による土壌の硬化が伺える。
- II-4a層 黒褐色土(10YR2/3)可塑性・粘性・締りあり。1～2mm大の赤褐色スコリアを3～5%含む。暗褐色土、褐色土が僅かにブロック状に含まれる。
- II-4b層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)可塑性・粘性・締りあり。1～2mm大の赤褐色スコリアを3～5%含む。黒褐色土、暗褐色土、褐色土がブロック状、斑紋状に含まれる。漸移層である。
- III層 褐色土(7.5YR4/4～4/6)締り・粘性あり。下層と比べるとやや軟質で締りもや

や弱い。1mm前後の赤色スコリアを1%前後、微細な黑色スコリアを3%含む。

IV層 褐色土(7.5YR4/6) 締め・粘性あり。微細～2mm大の黑色スコリアを3%、1mm大の赤色スコリアを1%前後含む。

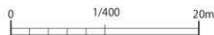
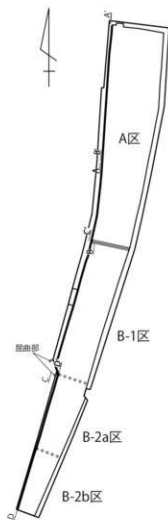
なお隣接する第8次調査のI・II層はI-5層、III層はII-3層、IV層はII-4a層、V層はII-4b層、VI・VII層はIII層と同質の層である。

A区では調査区北側に近世以降の耕作土であるI-5層が観察されたが、A区中央部付近では見られず、縄文時代の層であるII-3層が堆積している状況である。A区の南側に目を転じると、再びI-5層が堆積し、近世以降の溝状遺構やピット等が散見された。A区北側のI-5層が堆積している部分では、畝跡が確認された。B区では、現代の削平により、III層あるいはその下層まで攪乱を受けている部分が多かったが、B-1区南端からB-2区にかけてI-5層の堆積が確認された。B-2区の南側からC区の北側ではGL-1.5mまで攪乱を受けており、近代以前の堆積層が確認されなかったが、C区南端でI-5層は確認されなかったものの溝状遺構が検出されている。B-2区からC区の北側付近の削平から全体を伺うことは困難だが、このようにI-5層とII-3層の堆積状況や平面的な分布の在り方、遺構分布の様相は、あるいは近世以降の土地利用の在り方を示唆しているのかもしれない。

II-4a層は黒褐色土が主体だが、暗褐色土や褐色土が僅かに斑紋状に混じり、漸移層として捉えたII-4b層は、特にA区中央部付近では斑紋状を呈しており、層上部から下部にかけてグラデーションのように色調が変化する、一般的な漸移層とは様相が異なる印象が見受けられる。

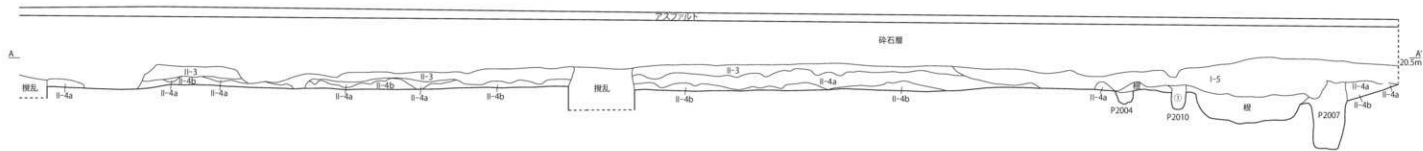
第9図に今回の調査と、第6次・8次調査の層序記録を抜粋した柱状図を作成した。

この図からは、C区から北東に至るにつれて地形が低くなる様相が伺える。第3図の色別標高図において看取されるように、第6次調査範囲の北東側に浅い谷が僅かに入る地形の変化が柱状図に反映されているものと思われる。赤羽台の北東側は複数の浅い谷が入り組んでおり、ミクロ的には狭小な舌状

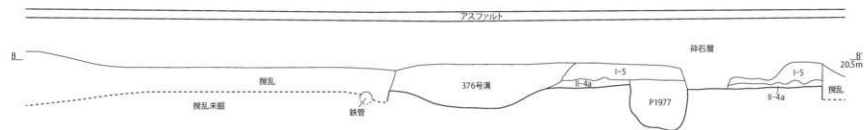


第7図 調査区層序記録位置 (S=1/400)

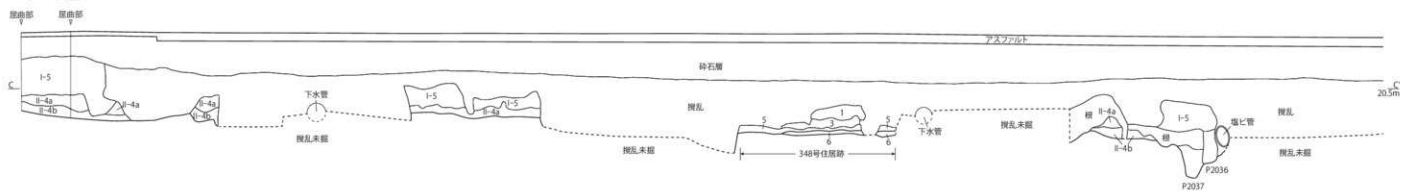
A区 西壁・北



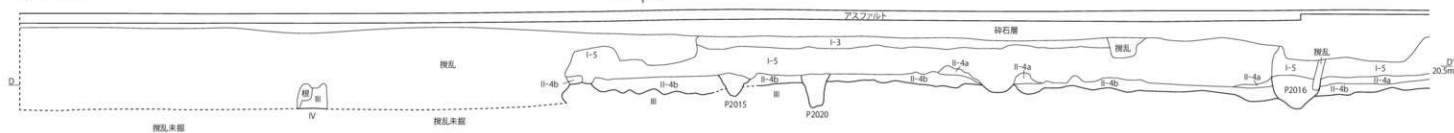
A区 西壁・南



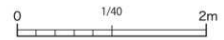
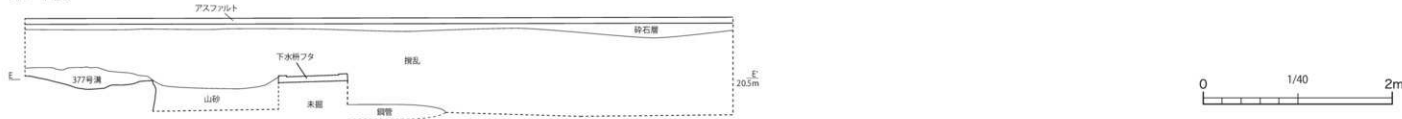
B-1区 西壁



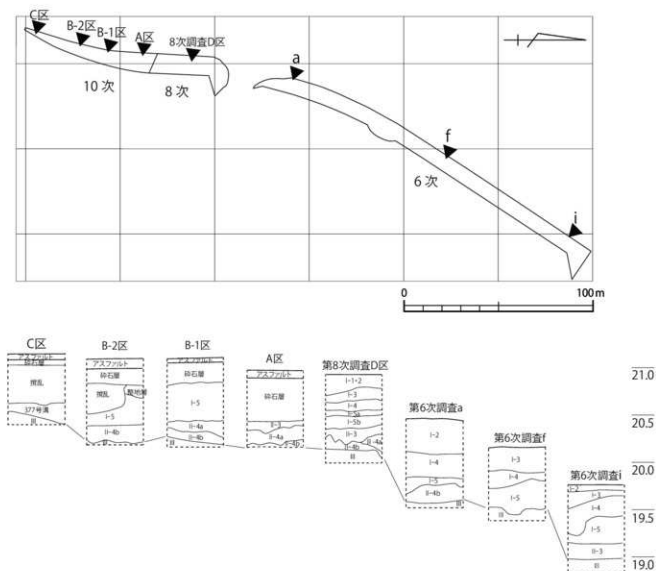
B-2区 西壁



C区 西壁



第8図 調査区西壁土層断面図 (1/40)



第9図 層序柱状図位置 (1/3000)・柱状図 (1/40)

台地が形成され、マクロ的には赤羽台の西側の台地の縁辺部である。従って第6・8次調査及び今回の調査は、台地の縁辺部を横断し、かつ狭い舌状台地上を縦断した調査範囲であったと言える。

IV 遺構と遺物

今回の調査（道合遺跡第10次調査）で検出された遺構は縄文時代、弥生時代、近世以降で、遺物は縄文時代、弥生時代、古代、近世以降のものである。本報告では検出された遺構図面と図示可能な縄文時代、弥生時代、古代の遺物を抽出して掲載した。

遺構番号については第2～9次調査時に連番で用いられた、各々の遺構種別の番号に続けて付している。なおピットについては時代・時期に関わらず、遺構番号を付与しているため、時代別報告の中では遺構番号が前後する場合がある。発掘作業段階、整理作業段階で遺構と認定できなかったものについては除外し、欠番とした。

遺物については数量的にはそれほど多くなく、小片が圧倒的に多かったが、縄文時代早期後葉・中期・後期前葉・中葉の土器・石器、弥生時代後期の土器、古代の土器が出土している。なお弥生時代の住居跡の覆土から縄文時代後期の土器が多数出土しているが、遺構の時期と性格を鑑みて、それらの縄文土器は遺構外遺物として取り扱い、掲載している。

以下、検出された遺構・遺物を列挙し、次に時代ごとの遺構と遺物について述べていく。

《縄文時代》

遺構 土坑－9基 ピット85基

遺物 土器 早期後葉、中期、後期前葉・中葉
石器 打製石斧・磨製石斧、石鏃、楔型石器

《弥生時代》

遺構 住居跡－1軒

遺物 土器 後期直口壺

《古代》

遺構 無し

遺物 土器 土師器甕・須恵器片

《近世》

遺構 溝2条 畝跡1基 ピット10基

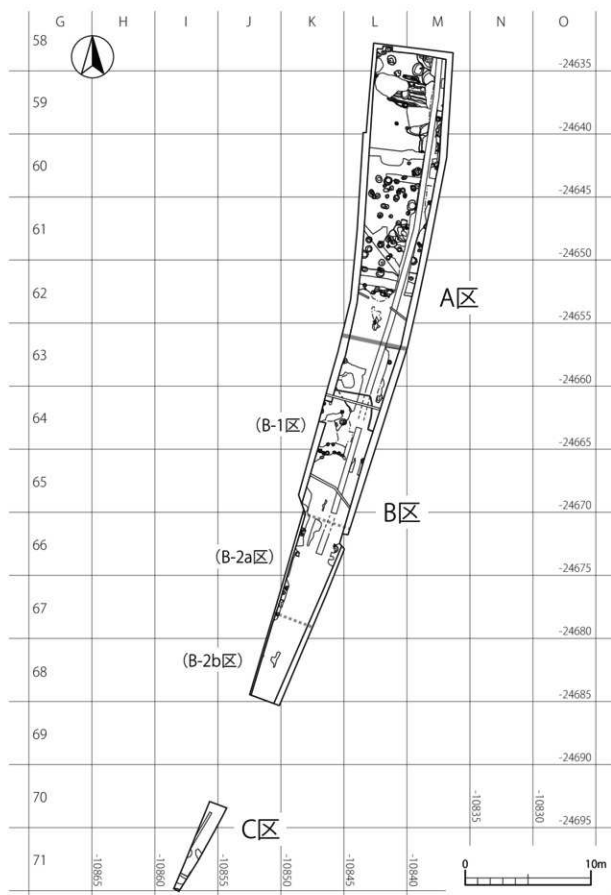
遺物 磁器・陶器・土器

1 縄文時代

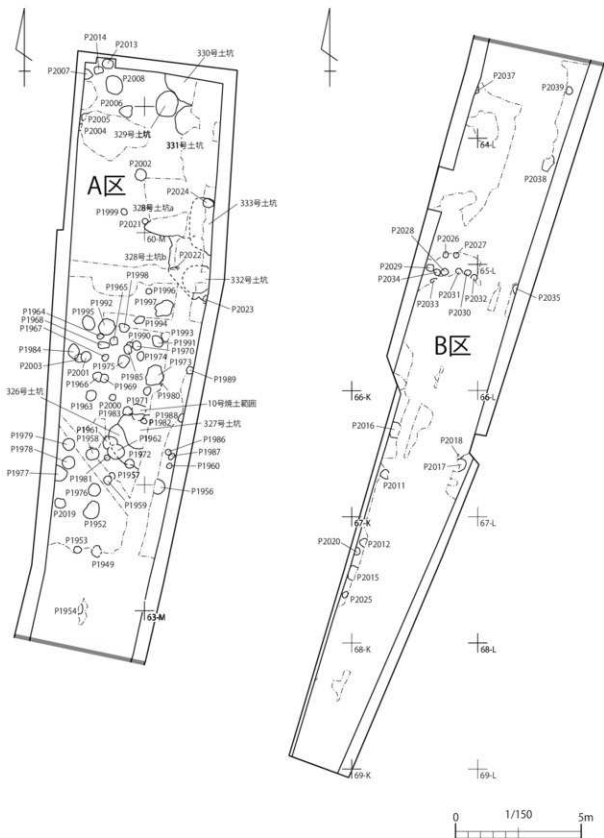
今回の調査で検出された縄文時代の遺構は、後期前葉の土坑、ピットである。遺物は土器2530点、28702.6g、石器17点、317.5g、礫119点、3206.9gで、合計2666点、32227.0gを測る。それらの所属時期は早期後葉～後期中葉までの幅にわたるが、検出遺構については覆土内から出土した土器の様相から、中心となる時期は後期前葉である。

1) 遺構（第10～22図、第5～10表、図版4～22）

縄文時代の遺構はA区が中心で、B区はB-1区・B-2a区北側の攪乱を免れた部分から検出されている。B-2b区南側～C区北側の攪乱により削平されていたこともあり、遺構は検出されていない。土



第10図 遺構全体図 (S=1/300)



第 11 图 縄文時代遺構分布图 (1/150)

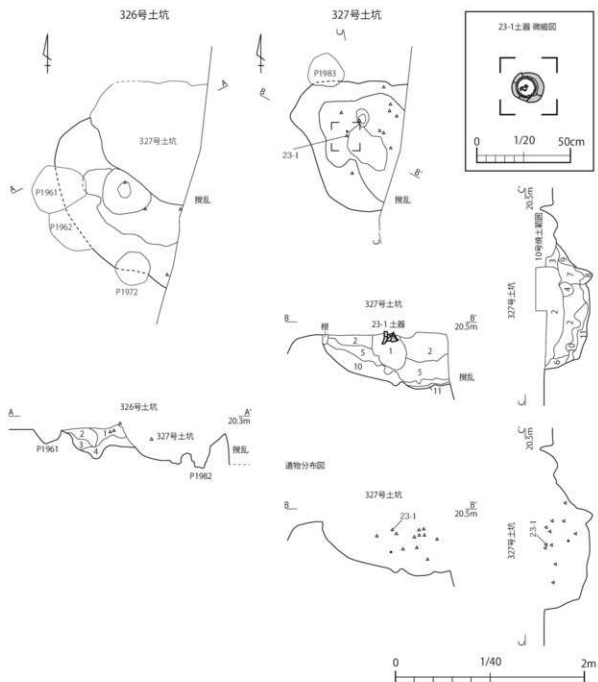
坑やピットの中には貝層が観察されるものがあり、また人骨が埋葬されているピットも検出されている。

A 土坑（第12～17図、第5・6表、図版4～7）

今回の調査で発見された縄文時代の土坑は9基である。根による攪乱と判断されるものについては除外している。中には貝が含まれているものもある。

326号土坑（第12図、第5表、図版4）

A区61-Lグリッドから検出された。平面形態は327号土坑に壊されているが、やや不定形な楕円形を呈していると思われる。規模は長軸197.8cm、短軸69.2cm、深さ35.0cmである。確認面はII-4b層だが、東側のガス管による攪乱部分の除去を行ったところ土層断面の観察により検出された。



第12図 縄文時代 326・327号土坑 (1/20・1/40)

遺構底面及び壁面はやや不安定な様相で、風倒木痕の可能性もある。遺物は縄文土器の小破片が4点41.2g出土している。

327号土坑(第12図、第5表、図版4)

A区61-L・61-Mグリッドから検出された。規模は長軸145.0cm、短軸136.0cm、深さ66.0cmである。326号土坑を切る形で形成されている。確認面はII-3層で、アスファルト舗装の下層に敷設されていた碎石を除去した直下の層序で逆位に据えられた様相の土器が検出され、また326号土坑と同様に、東側のガス管による攪乱部分の除去を行って遺構の範囲及び堆積が観察された。遺物は縄文土器が11点670.5g出土している。前述した逆位に据えられている土器は縄文時代後期堀之内2式で、胴部～底部にかけて欠損しているが、後世の削平によるものか否かは判然としない。土坑の覆土上層から出土している。

328号土坑a・b(第13～16図、第5表、図版4～6)

A区60-Mグリッドから検出された。遺構の中央部付近は南北に走る現代のガス管により、遺構北側付近は東西の攪乱により削平されている。確認面は327号土坑と同様II-3層で、碎石を除去した直下で貝殻の散布が認められ、周辺の攪乱の除去を行って遺構の範囲及び堆積状況、深度を確認した。土層中には貝が多く含まれている。この328号土坑は当初は住居跡や土坑等の可能性を捉えていたが、ピットや床面等、住居跡に付随する遺構は見られなかったため、不定形ではあるが土坑とした。また堆積状況や貝の分布範囲等を確認した結果、2つの遺構に分かれるものと捉えている。だが層序から重複関係や時期差を捉えることが困難であり、北側を328号土坑a、南側を328号土坑bとした。

328号土坑aの規模は長軸115.2cm、短軸111.6cm、深さ63.2cm、328号土坑bの規模は長軸206.0cm、短軸140.4cm、深さ80.4cmを測る。

328号土坑aの形態は、ガス管による攪乱のため西側の様相は不明だが、不定形な楕円形を呈しているものと想定される。断面形態は東西セクションA-A'から、東側から西側に緩やかに傾斜する。貝層の堆積はヤマトシジミ及びハマグリが中心で、東から西に向かって破碎の少ない貝が多く層厚が増すが、ガス管の手前になると層厚がやや薄くなり、破碎した貝が増えて散漫な状態が看取される。ガス管の攪乱を挟んで西側には貝は堆積していない。南北のセクションB-B'では北側が攪乱により削平されているが、概ね貝層及び土層がレンズ状に堆積している様相が伺える。A-A'、B-B'ともに破碎の少ないヤマトシジミ・ハマグリが含まれているのは5層と10層である。

328号土坑aの貝層は、遺構の長軸・短軸に20cm幅のセクションベルトを設定し、層序ごとにサンプリングした。セクションベルト以外の貝層は深度10cmごとに掘削し、サンプルを採取した。遺物は土器177点2339.3g出土し、14点を図示した。他に礫11点206.0g、獣骨18点が出土した。

328号土坑bの形態は東側の堆積があまり明瞭ではないが、緩やかなC-C'やH-H'の堆積から貝層は東側から西側へ堆積し、調査区外に貝層が伸びている。またD-D'やF-F'の堆積は北側の攪乱により不明だが、南から北に延びる様相が伺える。328号土坑aのA-A'と比較すると、浅い土坑で貝層の堆積も薄い。貝はヤマトシジミが中心でハマグリも多く含まれる。328号土坑aと同様の組成と思われる。土坑の平面形態は平面分布と堆積状況から長楕円形を呈するものと想定される。

328号土坑bについても貝層のサンプリングを実施した。ガス管の攪乱西側と東西に横走る攪乱の北側に20cm幅のセクションベルトを設定し、分層後に層序ごとにサンプリングした。それ以外

の範囲の貝層は深度10cmごとに掘削、サンプルを採取している。遺物は土器が93点1201.8g出土し、6点を図示した。他に礫6点134.8g、獣骨18点の出土も見られる。328号土坑a・bともに貝層サンプルの水洗選別を行ったが、獣骨及び魚骨等が多く検出されており、詳細についてはV章自然科学分析に掲載した。

328号土坑a・bの形成過程は、aは13～16層等、一次堆積層が形成された後、ヤマトシジミ・ハマグリ主体の10～12層が形成され、8・9層は主に10層が何らかの営力により東側に流れたものと思われる。さらにヤマトシジミ・ハマグリ中心の5層が形成され、東側に流れたものが4層、その後ヤマトシジミ・ハマグリ3層が東側に流れた層が2層で、1層は2・3層の上層の土壌と混在したものと捉えている。

328号土坑bは12層等の一次堆積層の形成後に6～8層といったヤマトシジミ・ハマグリ主体の層が堆積し、貝の含有が少ない4・5層が堆積した後、破砕貝の多い3層、ヤマトシジミ・ハマグリを多く含む2層が形成されたものと考えられる。この328号土坑bの貝層の下部には別の土坑、332号土坑が検出され、貝層下部ではないが、328号土坑a東側の下部にも東側に展開すると推測される333号土坑が看取される。

332号・333号土坑の存在と328号土坑a・bの貝層の堆積状況から、埋設箇所の凹みを貝の廃棄の場として利用したと推察され、貝の廃棄を目的として意図的に掘削したものではない可能性が示唆される。

329号土坑（第17図、第5表、図版7）

A区58-M・59-Mグリッドから検出された。遺構の中央部付近は根による攪乱が看取された。楕円形で規模は長軸105.2cm、短軸82.0cm、深さ15.6cmである。遺構の底面にも部分的に根によるものと思われる凹みが観察されている。確認面はII-4a層で、遺物は縄文時代後期前葉の土器の小破片が10点72.6g出土している。

330号土坑（第17図、第5表、図版7）

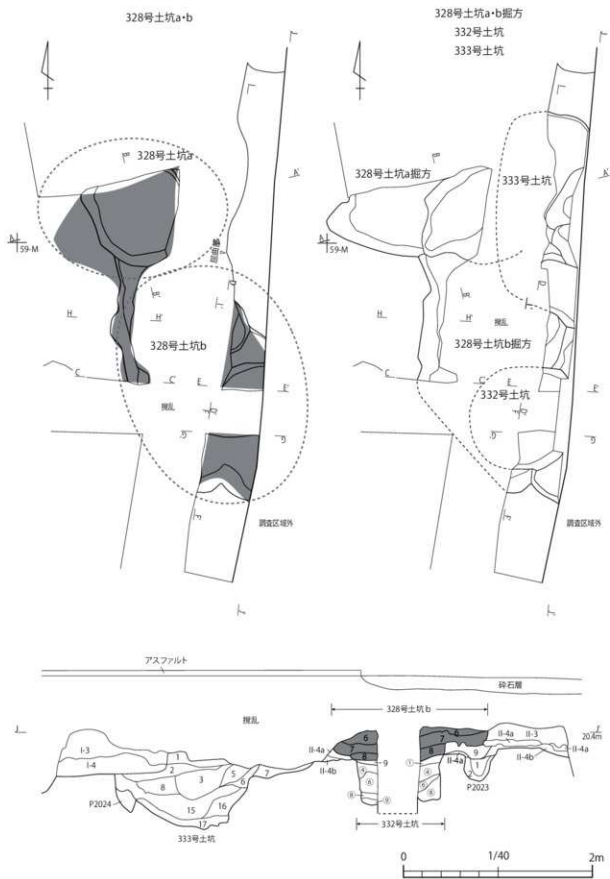
A区58-Mグリッド検出。東側は攪乱されており、北側は調査区外である。1/4程度残存している。形態は楕円形と想定され、規模は確認状況で長軸163.6cm、短軸103.6cm、深さ27.0cmである。遺構の底面は凹凸が激しく、根による攪乱を受けている可能性もある。確認面はII-4a層で、遺物は縄文時代中期後半、後期前葉の土器の破片が32点826.0g、礫1点16.8gが出土し、4点を図示した。

331号土坑（第17図、第5表、図版7）

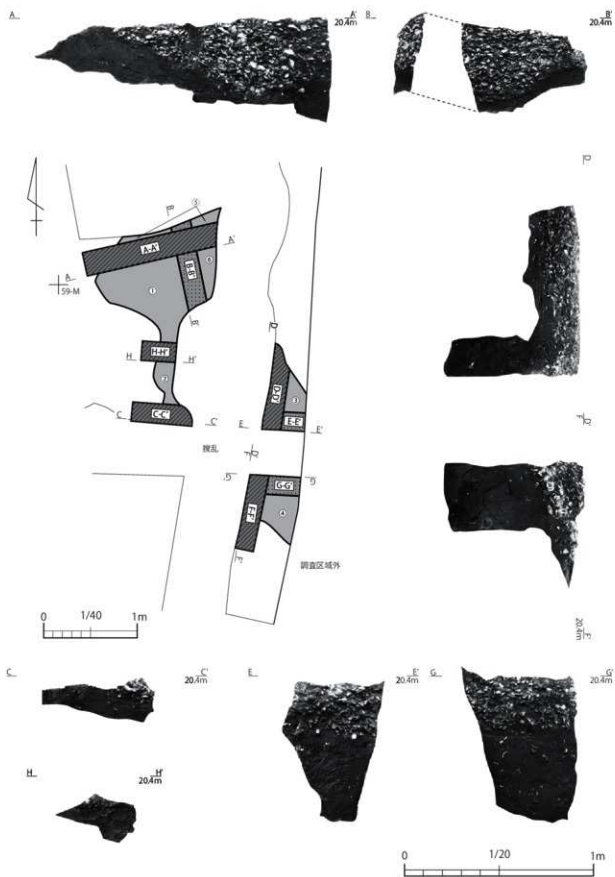
A区59-Mグリッドから検出された。330号土坑と近接し、遺構の北東側、南東は攪乱により壊されている。規模は遺存している状態で長軸120.0cm、短軸87.2cm、深さ15.6cmである。規模や形態、深度等、330号土坑と類似する。確認面はII-4a層で、遺物は縄文土器が1点出土した。

332号土坑（第13～16図、第5表、図版6・7）

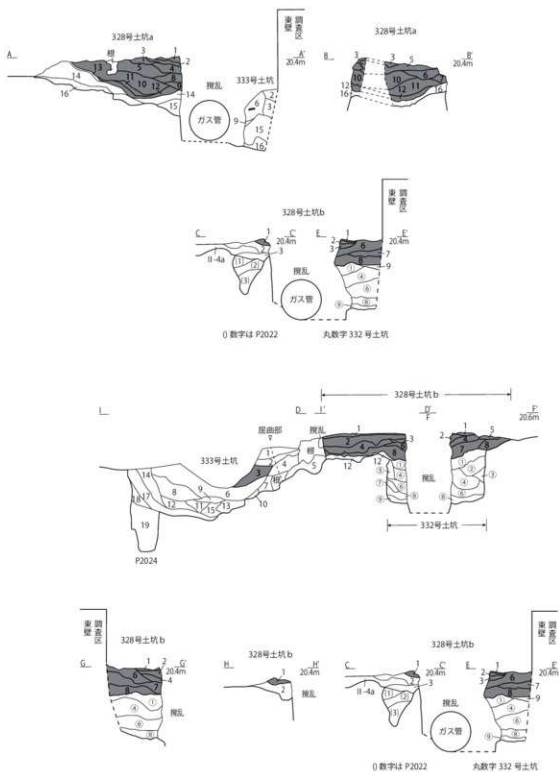
A区60-Mグリッドから検出された。328号土坑bの下部に形成されている。西側は南北に走るガス管に、中央部付近は攪乱に壊され、また332号土坑の東側は調査区外に延伸するため、全体像は不明である。覆土にはごく僅かに破砕貝が混じる。確認できた規模は長軸117.2cm、短軸52.0cm、深さ83.6cmである。特徴的なのは壁面がほぼ垂直に立ち上がる形態である。遺物は土器が1点、獣骨が2点出土している。



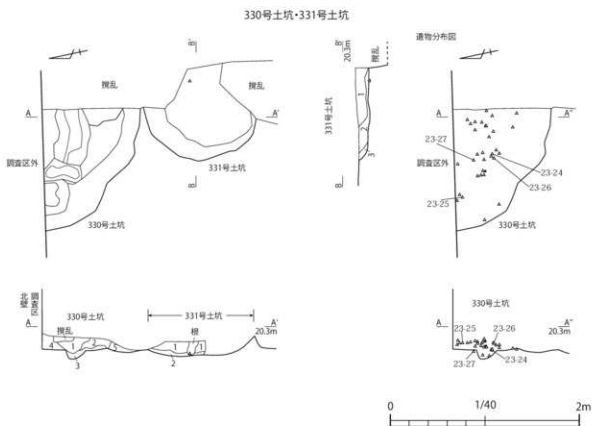
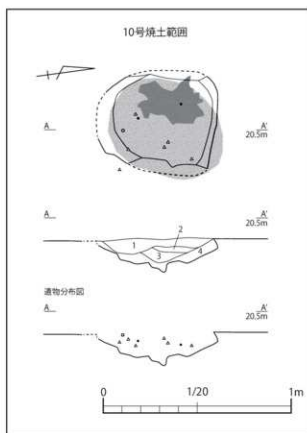
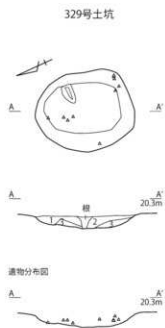
第 13 図 縄文時代 328 号土坑 a・b・332・333 号土坑平面図及び東壁断面図 (1/40)



第 14 図 縄文時代 328 号土坑 a・b サンプル採取位置図 (1/40)・貝層断面写真 (1/20)



第 15 図 縄文時代 328 号土坑 a・b・332・333 号土坑断面図 (1/40)



第 17 図 縄文時代 329・330・331号土坑・10号焼土範圍 (1/20・1/40)

333号土坑（第13～16図、第6表、図版6・7）

A区60-Mグリッドから検出された。328号土坑aの東側に形成されている。覆土の上層は近世以降の耕作土及び現代の攪乱により削平され、西側はガス管により壊されている。確認できた規模は長軸224.0cm、短軸40.8cm、深さ83.2cmである。断面はレンズ状の堆積で覆土の中には3・8・17層等、大型のロームブロックを多く含んでおり、人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は土器が93点1201.8g、礫が3点59.9gで、土器は4点を図示した。僅かに早期後葉の土器が認められるが、中心は後期前葉の堀之内1・2式である。

B 焼土範囲

10号焼土範囲（第17図、第6表、図版8）

A区61-L・61-Mグリッドから検出された。確認面はII-3層で、規模は長軸67.8cm、短軸43.0cm、深さ17.0cmである。上層は転圧により硬化している。焼土はブロック状または焼土粒が多量に分布している状態のもので、燃焼面は観察されなかった。遺物は土器が6点42.6g、石器が1点5.0g、礫が2点14.0gが出土している。

C ビット（第18～22図、第6～10表、図版8～22）

縄文時代のビットはA区・B区から85基検出されている。前述したように覆土に貝層を含むものや、人骨が出土したものも認められた。貝層を含むビットは合計15基で、主にA区の中心部よりも南側で検出されたが、B区でも1基検出されている。ここでは主に特徴的なビットを抽出して記述するが、他は図及び観察・土層説明一覧表、写真図版を参照されたい。

P1949（第18図、第6表、図版8）

A区62-Lグリッドから検出された。検出面は上層が攪乱により削平、東西は近世のビットに切られていたが、遺構下部は残存している。規模は長軸44.3cm、短軸36.0cm、深さ27.6cmである。ヤマトシジミを中心にハマグリを少量含む貝層があり、遺物は縄文土器が2点11.5g、獣骨が1点出土している。

P1952（第18図、第6表、図版8・9）

A区62-Lグリッドから検出された。規模は長軸73.2cm、短軸54.2cm、深さ46.9cmである。6層にヤマトシジミ・ハマグリを含む。7層が堆積した後、6層としたヤマトシジミ・ハマグリが廃棄されたものと思われる。遺物は小片だが数量的には多く、縄文土器が56点696.5g出土し、2点を図示した。また獣骨2点をドット上げしている。

P1956（第18図、第6表、図版9）

A区61-M・62-Mグリッドから検出された。東側をガス管により壊されている。規模は長軸60.4cm、短軸43.2cm、深さ64.4cmを測る。筒状の断面形態で、レンズ状堆積を呈する覆土はロームブロックを含む層が観察されるなど、人為的に埋め戻された様相が伺える。遺物は土器が8点72g出土している。

P1958（第18図、第6表、図版9）

A区61-Lグリッドから検出された。南西側を攪乱で削平されている。規模は長軸52.0cm、短軸44.4cm、深さ79.6cmである。堆積状況は9・10層が形成された後、8層である貝層が埋められたものと思われる。6層とした貝層は8層の頂部が崩れたものであろうか。貝層はヤマトシジミが中心で、

ハマグリがそれに続く。遺物は土器が 15 点 186.2g で 1 点を図示した。また獣骨 2 点をドット上げしている。

P1963 (第 18 図、第 7 表、図版 10)

A 区 61-L グリッドから検出された。規模は長軸 44.5cm、短軸 41.0cm、深さ 42.8cm である。堆積状況は遺構廃絶後に 8・9 層が形成された後、6・7 層の貝層が埋められて堆積したと思われる。貝層の貝は風化し、ヤマトシジミの破砕貝が中心でハマグリとそれらの破砕貝が混ざる。遺物は土器が 16 点 116.5g 出土し、1 点を図示した。

P1970 (第 19 図、第 7 表、図版 10)

A 区 60-L グリッドから検出された。規模は長軸 37.0cm、短軸 32.8cm、深さ 20.0cm で、ピットの深度は浅いものではあるが、3 層にヤマトシジミ及びハマグリとそれらの破砕貝を多く含んでいる。貝層の貝は風化が進んでいる。遺物は土器が 16 点 101.3g、礫が 2 点 17.5g が出土している。

P1972 (第 18 図、第 7 表、図版 10)

A 区 61-L グリッドから検出された。規模は長軸 37.6cm、短軸 35.2cm、深さ 57.2cm を測る。貝層は 4～6 層に堆積しているが、風化、破砕しているものが多い。遺物は土器が 5 点 83.5g、獣骨等が 4 点出土している。

P1973 (第 19 図、第 7 表、図版 11)

A 区 61-M グリッドから検出された。規模は長軸 88.4cm、短軸 65.2cm、深さ 72.4cm のやや大型のピットである。1 層に焼土粒が多く看取されたため、A-A' の軸で半裁、断面を記録した後に完掘を試みたところ、半裁した軸とは異なる箇所でも小規模な貝層が検出された。この貝層については B-B' として新たな軸を設定して断面を記録し、別個の層番号を付している。貝層はヤマトシジミが多く、ハマグリを僅かに含む。堆積状況は B-B' の 3・4 層の上に山状に 1・2 層の貝層が形成されている。また前述したように、観察された焼土粒は 1～3 層まで含まれている。遺物は小片が多いが土器が 86 点 1373.2g で 6 点を図示した。他に礫が 2 点 30.8g、獣骨が 7 点出土している。

P1975 (第 19 図、第 7 表、図版 11)

A 区 60・61-L グリッドから検出された。規模は長軸 50.4cm、短軸 40.8cm、深さ 70.0cm である。ピット内の貝層の包含が非常に多く、遺構底面まで 6・8 層の貝層が見られ、その後 1～5 層が堆積する。貝層はヤマトシジミが中心で、ハマグリを少量含む。遺物は土器が 66 点 751.3g 出土し 3 点を図示した。他に礫が 10 点 184.2g、獣骨が 5 点出土した。

P1979 (第 19 図、第 8 表、図版 12)

A 区 61-L グリッドから検出された。規模は長軸 48.0cm、短軸 45.6cm、深さ 72.8cm である。A-A' の軸で半裁、断面記録後に完掘を試みたが、半裁した軸と異なる箇所でも貝層が検出された。この貝層には B-B' として別の軸を設定して記録した。貝層の貝は風化、破砕したヤマトシジミが中心でハマグリと破砕貝が混在する。貝層は遺構の中心部に形成されていて、ピットがある程度埋没した後に貝が廃棄された可能性が窺える。貝層内には土器等の遺物が混在し、土器は 10 点 184.2g、他に獣骨が 3 点、人骨が 1 点出土している。人骨は脆弱で、風化が著しい。この人骨について、国立科学博物館 梶ヶ山真里氏によると、部位は右大腿骨遠位端部で、骨端含む長さは 10cm 程度、保存関節部分も大きく、間接窩が広いとされ、成人男性のものであるとの所見である。また礫が 1 点 153.0g が出土している。

P1980 (第19図、第8表、図版13)

A区61-Mグリッドから検出された。東側と遺構上部をガス管敷設時の掘削により攪乱されている。現存している規模は長軸24.0cm、短軸8.4cm、深さ28.0cmである。3層及び遺構底面の4層に貝層が堆積し、3層はヤマトシジミを中心にハマグリを僅かに含んでいる。4層はヤマトシジミ及びハマグリを構成される。

P1992 (第20図、第8表、図版15)

A区60-Lグリッドから検出された。北側が攪乱により削平されている。現存している規模は長軸68.8cm、短軸60.0cm、深さ45.6cmである。1～3層は焼土粒が観察され、特に3層に非常に多く含まれる。またこの1～3層には縄文土器の割と大型の破片が多く含まれ、下層になるにつれて小破片になる。7・12層に貝層が堆積し、その間に焼土粒を含む8層が間層として堆積している。7層はヤマトシジミ・ハマグリを主体とし、8層の焼土粒を含む層を挟んで12層に貝層が形成される。8層は破砕貝が中心である。遺物は土器が38点962.5g出土し、4点を図示した。他に礫1点、鹿角が1点出土している。

P1997 (第21図、第9表、図版17)

A区60-Mグリッドから検出された。規模は長軸80.8cm、短軸56.8cm、深さ31.2cmを測る。風化が著しく破砕したヤマトシジミ及びハマグリを1層に含んでいる。半蔵、完掘時に遺構の底面の凹凸が激しく、遺構が根によって攪乱されている可能性が高い。遺物は土器が2点、17.6g、礫が1点、34.4g、獣骨が3点出土している。

P1998 (第20図、第9表、図版17)

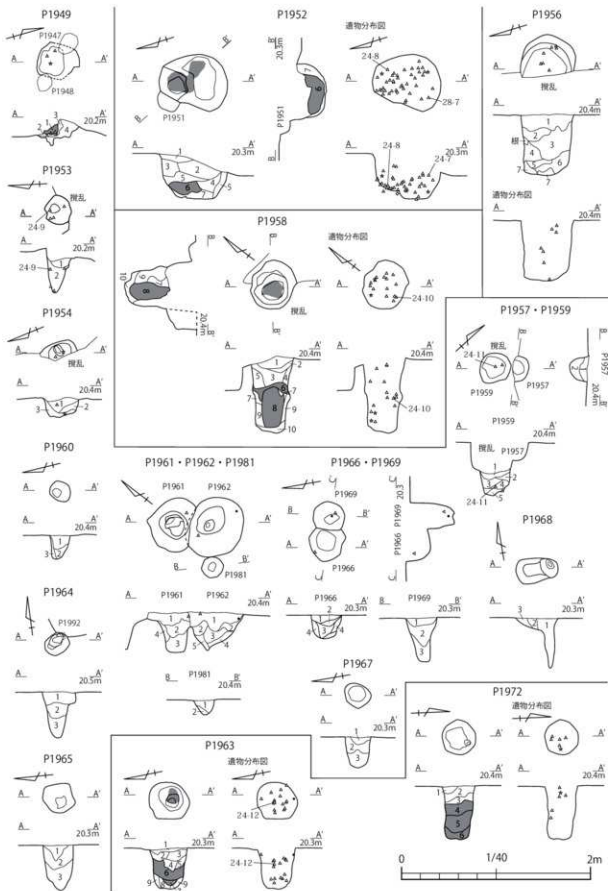
A区60-Lグリッドから検出された。規模は長軸41.2cm、短軸33.2cm、深さ53.6cmである。最下層の7層にヤマトシジミを中心にハマグリを少量含む貝層が堆積し、また炭化物粒子を含んでいる。遺構内からは土器等の人工遺物の出土は見られない。

P2002 (第21図、第9表、図版18・19)

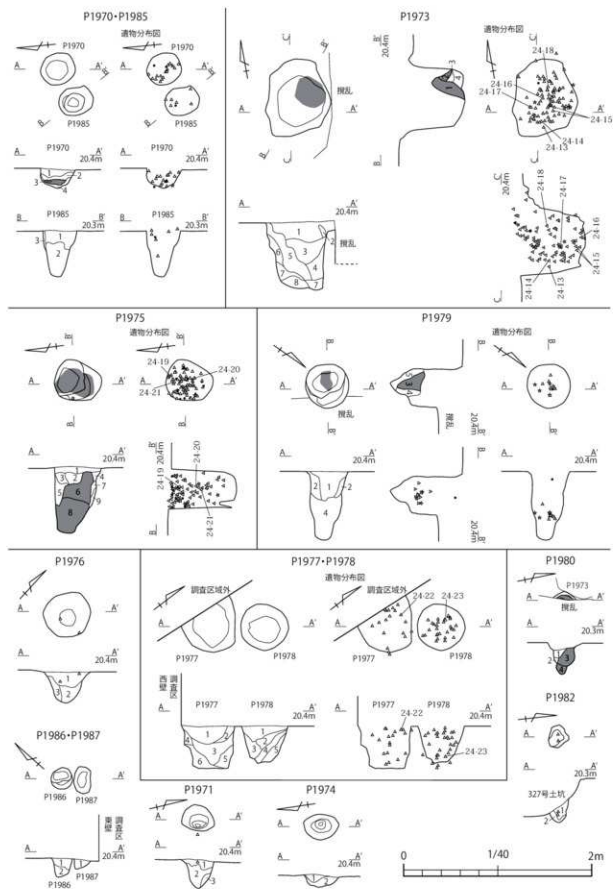
A区59-L・59-Mグリッドから検出された。規模は長軸48.0cm、短軸45.0cm、深さ32.2cmである。ピット内からは人骨が検出されている。検出された人骨は非常に脆弱で、風化が著しい。人骨の詳細については国立科学博物館舘ヶ山真里氏により、「付編2.道合遺跡出土の人骨」の中で述べられているが、その所見の一部を述べると、P2002から出土した人骨はその形態的な特徴から縄文時代のもので、壮年の男性が埋葬されているとされている。またこのピット内からは、右鎖骨が2点出土していることから、少なくとも2体の人骨がP2002に収められていることが明らかとなった。ピット内の覆土は4層に分かれる。またピットの断面形態を見ると、印象的にはいわゆる柱穴のようなピットとは異なる円柱状の形態で、壁面がほぼ垂直に立ち上がる状況が看取された。遺物は人骨の他、縄文土器の小片が3点18.1gが出土している。

P2018 (第22図、第10表、図版20・21)

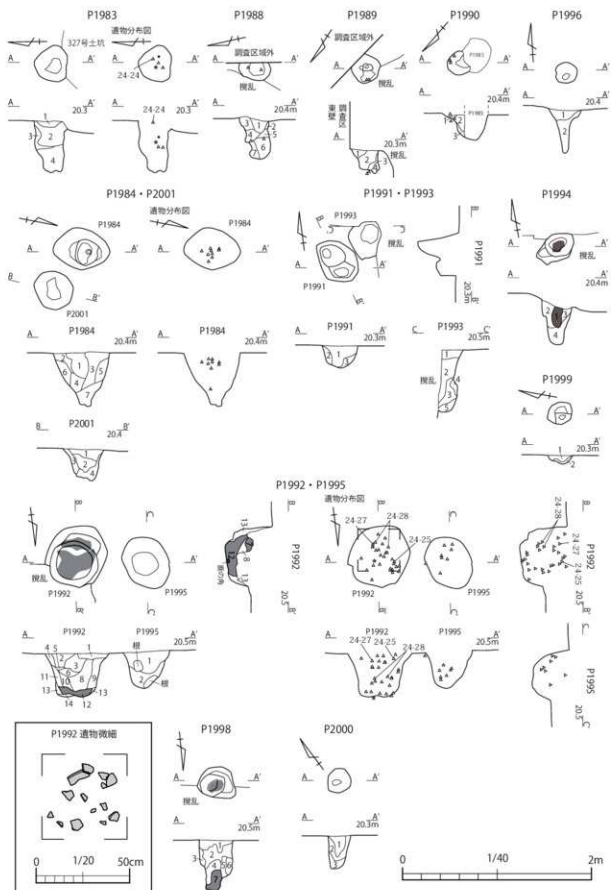
B区66-Kグリッドから検出された。東側をガス管による攪乱で壊され、南側はP2017に切られている。規模は長軸26.0cm、短軸18.8cm、深さ28.4cmである。ピットの中心部付近の、1層とした層序に破砕、風化したヤマトシジミを散漫に含んでいる。遺物は土器の小片が2点12.4g、獣骨が1点出土した。



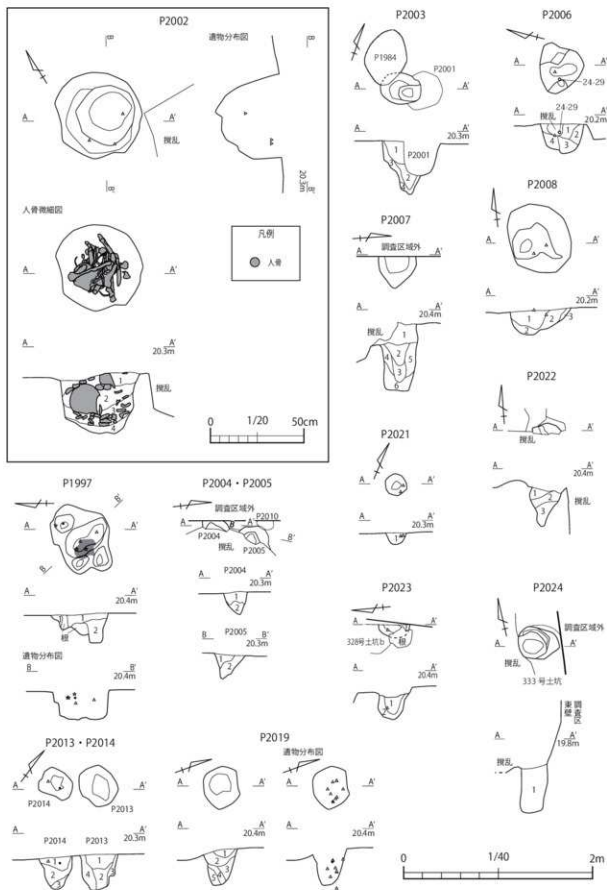
第18図 縄文時代ピット (1) (1/40)



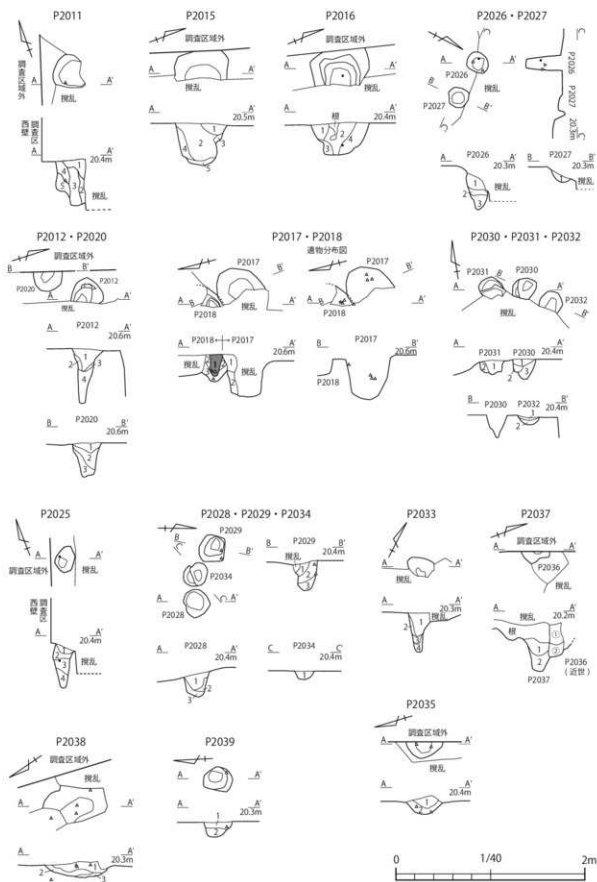
第19図 縄文時代ピット (2) (1/40)



第20図 縄文時代ピット(3) (1/20・1/40)



第 21 図 縄文時代ピット (4) (1/20・1/40)



第 22 図 縄文時代ピット (5) (1/40)

第5表 遺構観察・土層説明一覧表(1)

探検 番号	調査 番号	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色 調	土 質
12	4	326号土坑	A	61-L	197.8	69.2	35.0	1層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり、2~4mmの褐色スコリアを1%以下含む。
								2層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり、褐色土のブロックを10%、10mm前後のローム粒子を1%含む。
								3層期 (10YR4/6)	粘性ややあり、締りあり、暗褐色土のブロックを10%含む。
								4層期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり、黄褐色土のブロックを3%含む。
12	4	327号土坑	A	61-L 61-M	145.0	136.0	60.0	1層期 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり、10mm前後のローム粒子を3%、暗褐色土のブロックを20%含む。
								2層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。2mm前後の褐色スコリア、ローム粒子を1%以下含む。
								3層期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり、暗褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
								4層期 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり、10mm~20mm前後の褐色土のブロックを10%、2mm前後の褐色スコリアを1%以下含む。
								5層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはややある。暗褐色土のブロックを20%含む。
								6層期 (10YR4/4)	粘性・締り共に有り。暗褐色土のブロックを40%含む。
								7層期 (10YR2/2)	粘性弱い締りは強い。0.5~2mmの褐色スコリアを1%、5~10mmのローム粒子を3%含む。逆位の埋設土層あり。
								8層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり、褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
								9層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり、褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ30%含む。
								10層期 (10YR2/3)	粘性ややあり、締りあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
								11層期 (10YR3/3)	粘性あり、締りややあり。2~5mmのローム粒子を3%含む。黄褐色土のブロックを1%以下含む。
13 ~ 16	4 ~ 6	328号土坑a	A	60M	115.2	111.6	63.2	1層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリを5%、ヤマトシジミの破砕貝を20%含む。
								2層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリ、ハマグリ破砕貝を20%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を10%含む。
								3層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリ、ハマグリ破砕貝を30%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を20%含む。
								4層期 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり、ハマグリ、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を10%含む。
								5層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリを40%、ヤマトシジミを20%含む。
								6層期 (10YR3/4)	粘性・締りともに強い。ハマグリ、ヤマトシジミ破砕貝を50%含む。
								7層期 (10YR2/3)	粘性・締りともにややあり。ハマグリを10%、ヤマトシジミを5%含む。
								8層期 (10YR3/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリ、ヤマトシジミ破砕貝を20%含む。
								9層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリ、ヤマトシジミ破砕貝を5%含む。
								10層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはややある。ハマグリ、ヤマトシジミをそれぞれ40%含む。
								11層期 (10YR3/4)	粘性ややあり、締りあり。ハマグリを5%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を10%含む。
								12層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり、ハマグリ破砕貝を5%、ヤマトシジミ破砕貝を10%含む。黄褐色土のブロックを3%含む。
								13層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。ヤマトシジミ破砕貝を3%含む。
								14層期 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり。貝殻片を1%、黄褐色土のブロックを1%含む。
								15層期 (10YR2/2)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを5%含む。
								16層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土・黄褐色土のブロックを10%ずつ、貝殻片を1%以下含む。
13 ~ 16	4 ~ 6	328号土坑b	A	60M	206.0	140.4	80.4	1層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリを5%、ヤマトシジミを10%、ヤマトシジミ破砕貝を20%含む。
								2層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリ、ハマグリ破砕貝を5%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を10%含む。
								3層期 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり。ハマグリ破砕貝を5%、ヤマトシジミ破砕貝を20%含む。
								4層期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはある。ハマグリ破砕貝を3%、ヤマトシジミ破砕貝を5%含む。
								5層期 (10YR3/3)	粘性ややあり、締りあり。ハマグリ破砕貝を3%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を30%含む。
								6層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。ハマグリ破砕貝を20%、ヤマトシジミ破砕貝を20%含む。
								7層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。ハマグリ、ハマグリ破砕貝を20%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を30%含む。
								8層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。ハマグリ、ハマグリ破砕貝を10%、ヤマトシジミ、ヤマトシジミ破砕貝を20%含む。
								9層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。ヤマトシジミ、ハマグリ破砕貝を5%含む。
17	7	329号土坑	A	58M 59M	105.2	82.0	15.6	1層期 (10YR3/4)	粘性あり、締りややあり。2~5mmの焼土粒を3%含む。10mm前後のローム粒子を1%含む。
								2層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを10%含む。
								3層期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
17	7	330号土坑	A	58M	163.6	103.6	27.0	1層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。2~4mmの褐色スコリア、ローム粒子をそれぞれ1%含む。
								2層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを5%含む。
								3層期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。2mm前後のローム粒子を3%、暗褐色土のブロックを5%含む。
								4層期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを10%、黄褐色土のブロックを30%含む。
								5層期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを40%含む。
17	7	331号土坑	A	59M	120.0	87.2	15.6	1層期 (10YR3/3)	粘性弱い締りはある。2~4mmの褐色スコリアを1%、3~5mmのローム粒子を3%含む。
								2層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。
								3層期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
								① 5層期 (10YR2/2)	粘性弱い締りはある。貝殻片を3%含む。
13 ~ 16	6 ~ 7	332号土坑	A	60M	117.2	52.0	83.6	② 5層期 (10YR2/3)	粘性ややあり、締りあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、10~15mm前後の黄褐色土のブロックを5%含む。
								③ 5層期 (10YR3/2)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを40%、貝殻片を1%含む。
								④ 6層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにややあり。10~15mm前後の黄褐色土のブロックを3%、貝殻片を1%以下含む。
								⑤ 6層期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
								⑥ 6層期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。5~10mmのローム粒子を1%、貝殻片を1%以下含む。
								⑦ 6層期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%含む。
								⑧ 5層期 (10YR2/2)	粘性・締りともにあり。5~10mmのローム粒子、褐色土のブロックを3%含む。
								⑨ 6層期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを40%含む。

第6表 遺構観察・土層説明一覧表(2)

探検 番号	探検 区	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色 調	土 質
13 6 ~ 7	A	333号土坑	60M	224.0	40.8	83.2	1層 (10YR3/3)	粘性ややあり、締りあり。径1mm以下の白色粒子を1%以下、磁鉄屑を1%含む。	
							2層 (10YR3/2)	粘性・締りともにあり。径2mmの褐色スコリアを1%、磁鉄屑を3%含む。	
							3層 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。径2mmの褐色スコリアを1%、磁鉄屑を3%含む。	
							4層 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。径2~4mmの褐色スコリアを5%、ローム粒子を3%含む。	
							5層 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを40%含む。	
							6層 (10YR3/3)	粘性強い締りはある。径5~30mmのロームブロックを5%含む。	
							7層 (10YR5/8)	粘性弱く締りはある。黒褐色土のブロックをそれぞれ5%ずつ含む。	
							8層 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックをそれぞれ5%ずつ含む。	
							9層 (10YR4/4)	粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを10%含む。	
							10層 (10YR4/6)	粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを40%含む。	
							11層 (10YR5/8)	粘性ややあり、締り強い。褐色、暗褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。	
							12層 (10YR4/6)	粘性・締りともにややあり。黄褐色土のブロックを30%、暗褐色土のブロックを10%含む。	
							13層 (10YR5/8)	粘性あり、締りややあり。褐色土のブロックを10%含む。	
							14層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%、暗褐色土のブロックを5%含む。	
							15層 (10YR5/8)	粘性あり、締りややあり。暗褐色土のブロックを20%、褐色土のブロックを10%含む。	
							16層 (10YR5/8)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%含む。	
							17層 (10YR5/8)	粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを20%含む。	
							18層 (10YR5/8)	粘性・締りともにややあり。黄褐色土のブロックを10%含む。	
							19層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを5%含む。P2024覆土	
17	A	10号焼土範囲	61L 61M	67.8	43.0	17.0	1層 (10YR3/4)	粘性強い締りは強い。充填された。0.5~1mmの褐色スコリア、白色粒子を1%含む。10~20mmの焼土塊を20%含む。	
							2層 (10YR2/3)	粘性強い締りは強い。焼土を40%、白色粒子を1%含む。	
							3層 (10YR3/3)	粘性強い締りはややある。暗褐色土のブロックを20%、白色粒子を1%以下含む。	
							4層 (10YR2/3)	粘性ややあり、締りあり。焼土を1%、白色粒子を1%以下含む。	
18	A	P1949	62L	44.3	36.0	27.6	1層 (10YR3/3)	粘性強い締りはある。2~3mmのローム粒を5%、ヤマトシジミを60%含む。土層、動物骨を含む。	
							2層 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを40%含む。	
							3層 (10YR3/3)	粘性ややあり、締りあり。1mm以下のローム粒を1%含む。	
							4層 (10YR4/6)	粘性強い締りはある。暗褐色土のブロックを10%含む。	
18 8 ~ 9	A	P1952	62L	73.2	54.2	46.9	1層 (10YR3/2)	粘性・締りともにあり。1~3mmの褐色スコリアを3%含む。	
							2層 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり。1~3mmの褐色スコリアを3%、ローム粒子を1%含む。	
							3層 (10YR3/4)	粘性・締りともにややあり。3~5mmの褐色スコリアを1%、3~5mmの黄褐色土のブロックを10%含む。	
							4層 (10YR2/3)	粘性強い締りはややある。3mm前後の褐色スコリアを1%、3~5mmの黄褐色土のブロックを5%含む。	
							5層 (10YR2/3)	粘性・締りともに強い。1mmの褐色スコリアを1%、焼土、貝殻片を1%含む。	
6層 (10YR2/3)	粘性・締りともにややあり。ハマグリ・ヤマトシジミを70%、焼土を3%含む。								
7層 (10YR2/2)	粘性・締りともにあり。5~10mmの黄褐色土のブロック、貝殻片を3%含む。								
18	A	P1953	62L	31.4	25.8	46.0	1層 (7.5YR3/6)	粘性ややあり、締りあり。10mm前後のローム粒子を3%含む。	
							2層 (7.5YR4/6)	粘性・締りともにあり。1~3mmのローム粒子を5%、1mm以下の褐色スコリアを1%含む。	
18	A	P1954	62L 63L	39.2	16.8	21.4	1層 (10YR3/2)	粘性ややあり、締りあり。0.5mmの褐色スコリアを1%含む。	
							2層 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。1~3mmの褐色スコリア、ローム粒子を1%含む。	
							3層 (10YR4/6)	粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを40%、黄褐色土のブロックを10%含む。	
18	A	P1956	61M 62M	60.4	43.2	64.4	1層 (10YR3/4)	粘性・締りともにややあり。10mm前後の褐色土のブロックを5%含む。	
							2層 (10YR4/4)	粘性あり、締りややあり。1mmの褐色スコリアを1%以下、2~5mmのローム粒子を10%含む。	
							3層 (10YR4/6)	粘性あり、締りややあり。10mm前後の黄褐色土のブロックを5%含む。	
							4層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。1~2mm前後のローム粒子を3%含む。	
							5層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。1mmのローム粒子を1%含む。	
							6層 (10YR4/6)	粘性あり、締りややあり。1mmのローム粒子を1%以下含む。	
							7層 (10YR3/3)	粘性あり、締りややあり。10mmの褐色土を3%含む。	
18	A	P1957	61L	27.4	17.2	18.8	1層 (10YR3/4)	粘性ややあり、締りあり。0.5~1mmの褐色スコリアを1%以下含む。	
							2層 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。10~20mm前後の黄褐色土のブロックを5%、2~5mmのローム粒子を3%含む。	
18	A	P1958	61L	52.0	44.4	70.6	1層 (10YR2/3)	粘性強い締りはある。2mmの褐色スコリアを3%、2mmの炭化物粒子を1%含む。	
							2層 (10YR3/3)	粘性強い締りはある。2mmの褐色スコリアを1%、3~5mmの黄褐色土のブロックを5%含む。	
							3層 (10YR3/3)	粘性強い締りはある。3mm前後のローム粒子を3%含む。	
							4層 (10YR3/3)	粘性強い締りはある。褐色土のブロックを30%含む。	
							5~10層 (10YR3/3)	粘性ややあり、締りあり。黒褐色土のブロックを30%、黄褐色土のブロックを10%含む。	
							6層 (10YR3/3)	粘性強く、締りはややある。黄褐色土のブロックを10%、ハマグリ・ヤマトシジミを10%含む。	
18	A	P1959	61L	35.9	31.5	58.3	7層 (10YR2/3)	粘性あるが、締りは強い。ヤマトシジミを5%、ハマグリを10%、褐色土を20%含む。	
							8層 (10YR2/3)	粘性あるが、締りは強い。黒褐色土・褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。	
							9層 (10YR3/4)	粘性あるが、締りは強い。黒褐色土・褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。	
							10層 (10YR4/4)	粘性あるが、締りは強い。黒褐色土・褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。	
							1層 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。5~10mmの黄褐色土のブロックを30%含む。	
							2層 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。10~20mmの黄褐色土のブロックを20%含む。	
18	A	P1960	61M	23.7	19.8	24.7	3層 (10YR5/8)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%、褐色土のブロックを10%含む。	
							1層 (10YR3/3)	粘性・締りともにややあり。1~3mmのローム粒子を3%、褐色土のブロックを10%含む。	
							2層 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。1mmのローム粒子を3%、褐色土のブロックを30%含む。	
							3層 (10YR4/4)	粘性あり、締りややあり。暗褐色土のブロックを30%含む。	
							4層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。0.5~2mmのローム粒子を1%含む。	
18	A	P1961	61M	57.7	45.6	41.8	1層 (10YR2/3)	粘性・締りともにあり。2~3mmのローム粒子を3%含む。	
							2層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%含む。	
							3層 (10YR5/8)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%、褐色土のブロックを10%含む。	
							1層 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。1mmのローム粒子を3%、褐色土のブロックを30%含む。	
18	A	P1961	61M	57.7	45.6	41.8	2層 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。1mmのローム粒子を3%、褐色土のブロックを30%含む。	
							3層 (10YR4/4)	粘性あり、締りややあり。暗褐色土のブロックを30%含む。	
							4層 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%含む。	

第7表 遺構観察・土層説明一覧表(3)

探検 番号	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色 調	土層説明
18 -	P1962	A	61M	66.8	55.4	39.5	1層 (10YR3/4)	粘性ややあり、締りあり。1mmのローム粒子を3%、1mmの褐色スコリアを1%以下含む。
							2層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土。黄褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
							3層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。1mmの褐色スコリアを1%以下、暗褐色土のブロックを10%、黄褐色土のブロックを30%含む。
							4層 (10YR5/6)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを20%含む。
							5層 (10YR5/8)	粘性あり、締り強い。褐色土のブロックを10%含む。
18 10	P1963	A	61L	44.5	41.0	42.8	1層 (10YR3/3)	粘性あり、締りややあり。0.5～2mmの褐色スコリア、ローム粒子をそれぞれ3%含む。
							2層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを30%含む。
							3層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。2mmの褐色スコリアを3%、褐色土のブロックを20%含む。
							4層 (10YR3/3)	粘性あり、締りややあり。1mm前後の褐色スコリアを1%以下、褐色土のブロックを10%含む。
							5層 (10YR4/6)	粘性ややあり、締りあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
							6層 (10YR3/3)	粘性ややあり、締りあり。褐色土のブロックを20%、貝殻片を10%含む。
							7層 (10YR2/3)	粘性・締りともややあり。ハマグリ・ヤマトシジミを80%含む。
							8層 (10YR2/3)	粘性・締りともややあり。貝殻片を3%含む。
9層 (10YR5/8)	粘性・締りともあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ30%含む。							
18 -	P1964	A	60L	26.3	21.1	48.8	1層 (10YR3/3)	粘性・締りともややあり。1～3mmのローム粒子、褐色スコリアを1%含む。
							2層 (10YR3/3)	粘性・締りともややあり。褐色土のブロックを10%含む。
							3層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
18 -	P1965	A	60L	36.0	29.3	47.5	1層 (10YR3/4)	粘性・締りともややあり。褐色土のブロックを10%含む。
							2層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。1～5mmのローム粒子を5%、褐色土のブロックを5%含む。
							3層 (10YR4/4)	粘性・締りともあり。1mm前後のローム粒子を1%、暗褐色土のブロックを30%含む。
18 -	P1966	A	61L	38.4	32.8	24.8	1層 (10YR3/4)	粘性ややあり、締りあり。1～3mmの褐色スコリアを3%、炭化植物子を1%含む。
							2層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。5～10mmの褐色土のブロックを1%含む。
							3層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを5%含む。
							4層 (10YR4/4)	粘性あり、締りややあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
							5層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
18 -	P1967	A	60L 60M	27.6	23.6	32.0	1層 (10YR3/4)	粘性・締りともややあり。褐色土・黄褐色土のブロックを10%含む。
							2層 (10YR3/4)	粘性・締りともややあり。褐色土のブロックを30%含む。
							3層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
18 -	P1968	A	60L	44.4	24.0	52.4	1層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを30%含む。
							2層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
							3層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
18 -	P1969	A	61L	34.8	29.2	47.0	1層 (10YR3/4)	粘性・締りともややあり。1～3mmの褐色スコリアを3%、ローム粒子を1%含む。
							2層 (7.5YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを20%含む。
							3層 (7.5YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを40%含む。ローム粒子を5%含む。
19 10	P1970	A	60L	37.0	32.8	20.0	1層 (10YR2/3)	粘性強い・締りはある。2～5mmの焼土粒を1%、5mmの炭化物粒子を1%以下、褐色土のブロックを1%含む。
							2層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。3mmのローム粒子、2mmの褐色スコリアを1%以下含む。
							3層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。ハマグリ・ヤマトシジミを80%含む。
							4層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを10%含む。
19 -	P1971	A	61M	35.2	26.4	30.4	1層 (10YR2/3)	粘性強い・締りはある。10～20mmの黄褐色土のブロックを3%、2mmの褐色スコリアを1%以下含む。
							2層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ30%含む。
							3層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
18 10	P1972	A	61L	37.6	35.2	57.2	1層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを30%含む。
							2層 (10YR2/3)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを1%、貝殻片を1%含む。
							3層 (10YR3/3)	粘性あり、締りややあり。褐色土のブロックを20%含む。
							4層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを10%、貝殻片を5%含む。
							5層 (10YR2/3)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを20%、貝殻片を5%含む。
							6層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを30%、貝殻片を5%含む。
19 11	P1973 A-A	A	61M	88.4	65.2	72.4	1層 (10YR2/3)	粘性ややあり、締り強い。2～20mmの黄褐色土のブロックを5%、焼土粒を1%含む。
							2層 (7.5YR4/6)	粘性強い・締りはある。暗褐色土のブロックを40%含む。
							3層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。2～20mmの黄褐色土のブロックを3%、焼土粒を3%含む。
							4層 (10YR3/4)	粘性あり、締りややあり。褐色土のブロックを10%、2mm前後のローム粒子を1%含む。
							5層 (10YR4/4)	粘性・締りともあり。2～10mmの黄褐色土のブロック1%、2mm前後の焼土粒を1%含む。
							6層 (10YR4/4)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
							7層 (7.5YR3/4)	粘性・締りともあり。2mm前後の焼土粒、炭化植物子を1%含む。
							8層 (10YR3/4)	粘性あり、締りややあり。褐色土のブロックを30%含む。
19 11	P1973 B-B	A	61M	35.8	28.8	34.4	1層 (10YR3/3)	粘性ややあり、締り強い。ハマグリ・ヤマトシジミの殻殻貝を50%含む。
							2層 (10YR3/4)	粘性・締り共に強い。ハマグリ・ヤマトシジミの殻殻貝を5%含む。
							3層 (10YR4/6)	粘性ややあり、締り強い。暗褐色土のブロックを20%、貝殻片を3%含む。
							4層 (10YR3/4)	粘性あるが、締りは弱い。貝殻片を1%含む。
19 -	P1974	A	60L 60M	37.6	27.2	13.2	1層 (10YR3/4)	粘性あり、締り強い。2mm前後の褐色スコリアを3%、ローム粒子を3%、褐色土のブロックを10%含む。
							2層 (10YR4/6)	粘性・締りともあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
19 11	P1975	A	60L 61L	50.4	40.8	70.0	1層 (10YR3/3)	粘性強い・締りはある。2～4mmの褐色スコリアを3%、ローム粒子を1%含む。
							2層 (10YR2/3)	粘性強い・締りはある。0.5～4mmの褐色スコリアを1%以下含む。
							3層 (10YR3/4)	粘性強い・締りはある。10～20mmの黄褐色土のブロックを10%含む。
							4層 (10YR3/4)	粘性強い・締りはある。褐色土のブロックを20%含む。
							5層 (10YR4/6)	粘性あり、締り強い。黄褐色土・暗褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
19 12	P1976	A	61L 62L	54.2	47.6	32.8	6層 (10YR3/4)	粘性あり、締りややあり。ヤマトシジミ、貝殻片を10%、褐色土のブロックを10%含む。
							7層 (10YR3/4)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを30%含む。
							8層 (10YR3/3)	粘性・締りともあり。褐色土のブロックを5%、貝殻片を5%含む。
							9層 (10YR5/6)	粘性あり、締りややあり。褐色土のブロックを10%含む。
							1層 (10YR4/4)	粘性・締りともややあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
2層 (10YR4/4)	粘性・締りともあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。							
3層 (10YR4/6)	粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを30%含む。							

第8表 遺構観察・土層説明一覧表(4)

探検 区 番号	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色 調	土層説明
19 12	P1977	A	61-L	64.8	47.2	44.8	1黒期 (10YR2/3)	粘性あり、締り強い。2～5mmの褐色スコリアを3%含む。
							2黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。1～3mmの褐色スコリア。褐色土のブロックを5%含む。
							3黒期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを20%含む。
							4黒期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを30%含む。
							5黒期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを40%。2面前後の褐色スコリアを3%含む。
							6黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
19 12	P1978	A	61-L	50.0	47.2	40.0	1黒期 (10YR2/3)	粘性・締りともに強い。2～4mmの褐色スコリアを1%以下、黄褐色土のブロックを3%含む。
							2黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。2～4mmの褐色スコリアを3%、黄褐色土のブロックを10%含む。
							3黒期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを10%含む。
							4黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。2～4mmの褐色スコリアを3%、暗褐色土のブロックを10%含む。
							5黒期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。2～4mmの褐色スコリアを1%以下、暗褐色土のブロックを40%含む。
19 13	P1979	A	61-L	48.0	45.6	72.8	1黒期 (10YR2/3)	粘性あり。締りややあり。1～3mmの褐色スコリア。ローム粒子を1%以下含む。
							2黒期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを1%含む。
							3黒期 (10YR2/3)	粘性あり。締り強い。ハマグリ・ヤマトシジミを10%含む。
							4黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを10%含む。
19 13	P1980	A	61-M	24.0	8.4	28.0	1暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。5～10mmの黄褐色土のブロックを5%含む。
							2暗期 (10YR4/6)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを40%含む。
							3黒期 (10YR2/3)	粘性あり。締りややあり。ハマグリ・ヤマトシジミを60%含む。
							4黒期 (10YR4/6)	粘性あり。締りややあり。破砕したハマグリ・ヤマトシジミを30%含む。
18 13	P1981	A	61-L	23.6	21.6	15.0	1暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを10%含む。
							2暗期 (10YR4/6)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
19 -	P1982	A	61-L	24.0	20.8	25.2	1黒期 (10YR2/3)	粘性・締りともに強い。3～5mmのローム粒子を3%含む。暗褐色土のブロックを10%含む。
							2暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを20%含む。
20 13	P1983	A	61-L	38.0	36.4	54.8	1黒期 (10YR4/4)	粘性弱い締りはある。2～5mmのローム粒子を10%含む。
							2黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。2～5mmのローム粒子。黄褐色土のブロックを10%含む。
							3黒期 (10YR4/6)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
							4黒期 (10YR4/6)	粘性あるが、締りは強い。黄褐色土のブロックを10%含む。
20 14	P1984	A	60-L	60.0	42.4	56.8	1黒期 (10YR2/3)	粘性ややあり。締りあり。0.5～2mmの褐色スコリアを1%以下、ローム粒子を3%含む。
							2黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを40%含む。
							3暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。1面前後の褐色スコリアを1%以下、5mmのローム粒子を10%、褐色土のブロックを10%含む。
							4暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。5mmのローム粒子を1%、褐色土のブロックを10%含む。
							5黒期 (10YR4/6)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
							6黄期 (10YR5/6)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを10%含む。
							7黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土。黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
19 14	P1985	A	60-L	36.0	29.2	48.0	1暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを30%含む。
							2暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを10%含む。
							3黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
19 14	P1986	A	61-M	23.2	22.4	20.0	1黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
							2暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを30%含む。
19 -	P1987	A	61-M	28.8	16.8	10.4	1暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土。黒褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
							1黒期 (10YR3/2)	粘性弱い締りは強い。2～5mmの褐色スコリア。ローム粒子を3%含む。
							2暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを10%含む。
							3暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。黄褐色土のブロックを10%含む。
							4黒期 (10YR4/4)	粘性あり。締りややあり。10mmのローム粒子を3%、褐色土のブロックを10%含む。
20 -	P1988	A	61-M	34.0	18.4	43.2	5暗期 (10YR3/4)	粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを30%含む。
							6黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを10%含む。
							7黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
							1暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。2mmの褐色スコリアを1%以下、褐色土のブロックを30%含む。
							2暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを30%、黄褐色土のブロックを10%含む。
20 14	P1989	A	61-M	29.6	26.8	24.4	3暗期 (10YR3/4)	粘性ややあり。締りあり。褐色土のブロックを40%含む。
							4黒期 (10YR4/6)	粘性・締りとももあり。黄褐色土のブロックを40%含む。
							1暗期 (10YR3/4)	粘性ややあり。締りあり。2mmのローム粒子を3%含む。
							2暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。2～5mmのローム粒子を5%含む。
20 -	P1990	A	60-L	26.0	24.0	24.0	3黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
							1黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
							2黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
20 15	P1991	A	60-M	51.6	30.6	23.2	3黄期 (10YR5/6)	粘性・締りとももあり。褐色土のブロックを10%含む。
							1黒期 (10YR2/3)	粘性ややあり。締りあり。5mm前後の炭化物粒子を1%以下含む。
							2黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。2～5mmの焼土粒を1%含む。
							3暗褐色 (7.5YR2/3)	粘性・締りとももあり。5～10mmの焼土粒を20%含む。
							4暗期 (10YR3/4)	粘性・締りとももあり。2mmの褐色スコリア。焼土粒を1%以下含む。
							5暗期 (10YR3/3)	粘性あり。締りややあり。2～5mmの焼土粒を5%含む。
							6暗期 (10YR3/3)	粘性・締りとももあり。2mmのローム粒子。焼土粒を1%以下含む。
							7黒期 (10YR2/3)	粘性弱い締りはややある。ハマグリ、ヤマトシジミを40%含む。
							8暗褐色 (7.5YR2/3)	粘性あり。締りややあり。2～5mmの焼土粒を5%含む。
							9黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。暗褐色土。褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。
							10黒期 (10YR2/3)	粘性・締りともに強い。黄褐色土のブロックを10%含む。
							11黒期 (10YR2/3)	粘性・締りとももあり。暗褐色土。褐色土のブロックを10%含む。粘性・締りともに弱い。
							12黒期 (10YR2/3)	粘性・締りともややあり。ハマグリ・ヤマトシジミを30%、黄褐色土のブロックを5%含む。
							13黒期 (10YR4/4)	粘性・締りとももあり。黄褐色土。暗褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
14黄期 (10YR5/8)	粘性・締り共にあり。黒褐色土。暗褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。							

第9表 遺構観察・土層説明一覧表(5)

探検 番号	図面 番号	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色 調	土層説明
								1黒色 (10YR2/3) 2黒色 (10YR2/3)	粘性・締りともにややあり。5mm前後のローム粒子を5%含む。 粘性・締りともにややあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、5mm前後のローム粒子を3%含む。
20	16	P1993	A	60M	42.4	38.8	65.6	3暗褐色 (10YR3/4) 4黒 (10YR4/4) 5黒 (10YR4/4)	粘性・締りともにややあり。褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。 粘性・締りともに強い。暗褐色土のブロックを30%含む。
20	16	P1994	A	60L	43.6	28.8	47.2	1暗褐色 (10YR3/4) 2暗褐色 (10YR3/4) 3暗褐色 (10YR3/3) 4暗褐色 (10YR3/3)	粘性・締りともに強い。黄褐色土のブロックを10%、貝殻片を10%含む。 粘性・締りともに強い。褐色土のブロックを20%含む。 粘性・締りともに強い。2～4mmのローム粒子を3%含む。 粘性・締りともに強い。褐色土のブロックを10%、2～4mmのローム粒子を1%含む。
20	16	P1995	A	60L	59.2	45.6	39.2	1黒色 (10YR2/3) 2暗褐色 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%含む。
20	16	P1996	A	60M	24.0	22.0	46.8	1暗褐色 (10YR3/4) 2暗褐色 (10YR4/4)	粘性・締りともに強い。褐色土のブロックを5%含む。 粘性・締りともにややあり。暗褐色土のブロックを40%含む。
21	17	P1997	A	60M	80.8	56.8	31.2	1暗褐色 (10YR3/3) 2暗褐色 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、2～10mmのローム粒子を1%含む。 粘性・締りともにややあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、2～10mmのローム粒子を3%含む。
20	17	P1998	A	60L	41.2	33.2	53.6	2黒 (10YR4/6) 3暗褐色 (10YR3/3) 4暗褐色 (10YR3/3) 5黄褐色 (10YR5/8) 6黒 (10YR4/6) 7暗褐色 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%、黄褐色土のブロックを1%含む。 粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを40%含む。 粘性・締りともに強い。2～10mmの炭化物粒子を1%、貝殻片を1%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを40%含む。 粘性・締りともにややあり。黄褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともに強い。ハマグリ、アマトシジメを40%、炭化物粒子を1%含む。
20	-	P1999	A	59L	28.4	22.4	8.8	1暗褐色 (10YR3/4) 2黒 (10YR4/4)	粘性・締りともに強い。褐色土のブロックを5%含む。 粘性・締りともにややあり。暗褐色土のブロックを40%含む。
20	17	P2000	A	61L	27.6	24.4	34.8	1黒色 (10YR2/2) 2暗褐色 (10YR4/4) 3暗褐色 (10YR3/4)	粘性・締りともにややあり。暗褐色土のブロックを20%含む。 粘性あり。締りややあり。暗褐色土のブロックを30%含む。 粘性・締りともあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、褐色土のブロックを20%含む。
20	18	P2001	A	60L 60M	10.6	9.5	8.2	1暗褐色 (10YR3/3) 2暗褐色 (10YR3/4) 3暗褐色 (10YR3/4) 4黒 (10YR4/6)	粘性弱い奇癖りはややある。20mm前後の黄褐色土のブロックを1%、褐色土のブロックを5%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
21	18 19	P2002	A	59L 59M	48.0	45.0	32.2	1暗褐色 (10YR3/3) 2暗褐色 (10YR3/4) 3黒 (10YR4/4) 4黒 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。骨粉、骨片を5%、人骨を60%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを5%、骨粉、骨片を5%、人骨を80%含む。 粘性あり。締りややあり。暗褐色土のブロックを30%、骨粉、骨片を5%、人骨を70%含む。 粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを10%、骨粉、骨片を3%含む。
21	19	P2003	A	60L 60M	43.6	33.2	55.6	1暗褐色 (10YR3/3) 2暗褐色 (10YR3/4) 3黒 (10YR4/6) 4黒 (10YR4/6)	粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを5%含む。 粘性あり。締りややあり。暗褐色土のブロックを20%含む。 粘性・締りともにややあり。暗褐色土のブロックを20%含む。 粘性あり。締りややあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
21	-	P2004	A	59L	29.6	8.8	24.4	1暗褐色 (10YR3/3) 2黄褐色 (10YR5/6)	粘性・締りともにあり。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。
21	-	P2005	A	59L	38.4	18.8	27.2	1暗褐色 (10YR4/4) 2黒 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを20%、暗褐色土のブロックを10%含む。
21	-	P2006	A	59L	54.4	46.4	31.2	1暗褐色 (10YR3/4) 2暗褐色 (10YR4/4) 3暗褐色 (10YR3/3) 4黄褐色 (10YR5/8)	粘性弱い奇癖りはややあり。3mm前後のローム粒子を1%含む。 2暗褐色 (10YR4/4) 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。2～5mmのローム粒子を3%、褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを10%含む。
21	19	P2007	A	58L	40.0	34.0	70.8	1黒褐色 (10YR3/2) 2暗褐色 (10YR3/4) 3暗褐色 (10YR3/4) 4暗褐色 (10YR3/4) 5暗褐色 (10YR4/4) 6暗褐色 (10YR4/6)	粘性弱い奇癖りはある。径1～3mmの褐色スコリアを1%、ローム粒子を3%含む。 粘性ややあり。締りあり。径2～4mmの褐色スコリアを1%、黄褐色土のブロックを30%含む。 3暗褐色 (10YR3/4) 粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを20%含む。 粘性・締りともに強い。褐色土のブロックを30%含む。褐色土のブロックを40%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。 粘性あり。締りややあり。暗褐色土のブロックを20%含む。黄褐色土のブロックを5%含む。
21	-	P2008	A	58L	78.8	62.8	26.0	1暗褐色 (10YR3/3) 2黒 (10YR4/4) 3黄褐色 (10YR5/6)	粘性ややあり。締りあり。黄褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを30%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%含む。
21	19 20	P2011	B	66K	38.8	28.0	40.2	1暗褐色 (10YR3/3) 2暗褐色 (10YR4/6) 3暗褐色 (10YR4/6) 4暗褐色 (10YR4/6) 5暗褐色 (10YR3/4)	粘性ややあり。締りあり。2mm前後の褐色スコリアを1%、褐色土のブロックを20%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。
21	19 20	P2012	B	67K	34.4	26.0	58.0	1暗褐色 (10YR3/4) 2暗褐色 (10YR3/4) 3黄褐色 (10YR5/6) 4黒 (10YR4/4)	粘性・締りともに強い。2mm前後の褐色スコリアを1%以下、5～10mmのローム粒子を10%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%含む。 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。 粘性・締りともにややあり。黄褐色土のブロックを20%、暗褐色土のブロックを10%含む。
21	20	P2013	A	58L	44.0	34.8	38.0	1黒色 (10YR2/3) 2暗褐色 (10YR3/3) 3暗褐色 (10YR3/4) 4暗褐色 (10YR4/6)	粘性ややあり。締り弱い。径1～3mmの褐色スコリアを1%以下含む。 粘性あり。締りややあり。黄褐色土・褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。 粘性・締りともにややあり。褐色土のブロックを20%含む。 粘性・締りともにあり。黄褐色土。暗褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
21	-	P2014	A	58L	36.8	26.8	33.6	1暗褐色 (10YR3/3) 2暗褐色 (10YR4/4) 3暗褐色 (10YR4/6)	粘性・締りともにややあり。5～10mmのローム粒子を5%含む。 粘性・締りともにあり。暗褐色土。黄褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。 粘性あり。締りややあり。黄褐色土のブロックを20%含む。

第10表 遺構観察・土層説明一覧表(6)

探検 番号	調査 区	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色 調	土層説明
22	20	P2015	B	67J 67K	57.6	28.0	44.0	1前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにややあり。3mmのローム粒子を3%含む。
								2前期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。2～4mmの褐色スクリア、ローム粒子を1%含む。
								3期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。3mm前後の褐色スクリア、ローム粒子を3%含む。
								4前期 (10YR3/6)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。
								5期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
22	20	P2016	B	66K	63.2	36.0	34.4	1期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%含む。
								2期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。3mm前後の褐色スクリアを1%以下含む。
								3期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを5%含む。
								4期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを10%含む。
22	20	P2017	B	66K	50.4	29.2	42.4	1前期 (10YR3/4)	粘性・締りともに強い。2～4mmの褐色スクリア、ローム粒子を3%含む。
								2期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを20%含む。
22	20	P2018	B	66K	26.0	18.8	28.4	1黒期 (10YR2/3)	粘性・締りともに強い。目録片を5%、黄褐色土のブロックを3%含む。
								2前期 (10YR3/3)	粘性弱い。目録片はあり。黄褐色土のブロックを5%含む。
								3期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。目録片を1%、黄褐色土のブロックを10%含む。
21	21	P2019	A	62L	45.6	36.0	38.0	1前期 (10YR3/3)	粘性・締りともに強い。3mm前後の褐色スクリアを1%含む。
								2前期 (10YR3/4)	粘性ややあり。締りあり。褐色土のブロックを20%含む。
								3期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%、20mm前後の黄褐色土のブロックを3%含む。
								4期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。10mm前後のローム粒子を1%含む。
								5期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
22	-	P2020	B	67K	31.6	20.4	36.0	1前期 (10YR3/3)	粘性・締りともにあり。2～4mmの褐色スクリアを1%以下、褐色土のブロックを10%含む。
								2前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%含む。
								3期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
21	21	P2021	A	59L 59M	24.0	21.6	12.4	1黒期 (10YR3/2)	粘性・締りともに強い。暗褐色土のブロックを20%、褐色土のブロックを30%含む。
21	-	P2022	A	60M	28.8	12.0	41.6	1期 (10YR4/6)	粘性・締り共にあり。黄褐色土のブロックを10%含む。
2	3期 (10YR4/4)	粘性ややあり。締りあり。黄褐色土のブロックを20%含む。							
3期 (10YR3/4)	粘性・締り共に強い。褐色土のブロックを30%含む。								
21	-	P2023	A	60M	32.8	12.4	26.0	1前期 (10YR3/3)	粘性・締りともに強い。ヤマトシジミの殻破片を10%、5～10mmのローム粒子を5%含む。
2	3期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。							
21	-	P2024	A	59M	44.8	32.0	47.2	1期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを5%含む。333号土坑19層。
22	21	P2025	B	67J	28.4	19.6	46.8	1黒期 (10YR3/2)	粘性・締りともにややあり。1～3mmのローム粒子を3%含む。
								2期 (10YR4/4)	粘性・締りともにややあり。暗褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
								3前期 (10YR3/4)	粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを20%含む。
								4期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを10%含む。
								5期 (10YR4/6)	粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを30%含む。
22	22	P2026	B	64K	24.4	20.0	38.8	1前期 (10YR3/3)	粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを20%含む。
								2前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを10%含む。
								3期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土、褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
22	-	P2027	B	64K	22.8	20.0	12.8	1期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを5%含む。
22	22	P2028	B	65K	30.0	23.6	26.8	1前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを3%含む。
								2期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
								3期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
22	22	P2029	B	65K	32.8	26.8	31.6	1前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを30%含む。
								2前期 (10YR3/3)	粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを20%含む。
								3期 (10YR4/6)	粘性あり。締りややあり。暗褐色土のブロックを30%含む。
22	-	P2030	B	65K	28.4	21.6	21.2	1前期 (10YR3/4)	粘性ややあり。締りあり。黒褐色土のブロックを5%、褐色土のブロックを20%含む。
								2期 (10YR4/6)	粘性ややあり。締りあり。暗褐色土のブロックを20%含む。
								3前期 (10YR3/4)	粘性ややあり。締りあり。褐色土のブロックを20%含む。
22	-	P2031	B	65K	29.2	21.6	15.2	1前期 (10YR3/3)	粘性ややあり。締りあり。褐色土のブロックをそれぞれ30%含む。
								2期 (10YR4/6)	粘性ややあり。締りあり。黄褐色土のブロックを10%含む。
22	-	P2032	B	65K	24.8	19.2	10.0	1前期 (10YR3/4)	粘性弱い。目録片はあり。2mm前後のローム粒子を5%含む。
								2期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを30%含む。
22	22	P2033	B	65K	29.6	19.6	41.2	1期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。黒褐色土のブロックを10%含む。
								2期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを5%含む。
								3期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。暗褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
								4期 (10YR4/6)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%含む。
22	-	P2034	B	65K	27.6	20.8	9.2	1前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。黒褐色土、黄褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
22	-	P2035	B	65L	38.8	17.2	19.6	1黒期 (10YR3/2)	粘性ややあり。締り強い。1mm前後の褐色スクリアを1%以下、黄褐色土のブロックを1%含む。
								2前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにややあり。暗褐色土のブロックをそれぞれ30%含む。
22	-	P2037	B	63K 63L	30.4	12.8	34.8	1前期 (10YR3/4)	粘性・締りともにあり。径10～20mmの黄褐色土のブロックを5%、褐色土のブロックを10%含む。
								2前期 (10YR3/4)	粘性・締り共に有り。径10～20mmの黄褐色土のブロック、褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
22	-	P2038	B	64L	68.0	39.2	17.2	1黒期 (10YR2/3)	粘性・締り粘性・締りともにややあり。黄褐色土のブロックを10%含む。
								2前期 (10YR3/4)	粘性・締りともに強い。褐色土のブロックを30%含む。
								3期 (10YR4/4)	粘性・締りともにあり。暗褐色土のブロックを10%含む。
22	-	P2039	B	63L	31.2	24.4	16.0	1黒期 (10YR2/3)	粘性・締りともに強い。黄褐色土のブロックを5%含む。
								2期 (10YR4/6)	2粘性・締りともに強い。黒褐色土のブロックを5%、黄褐色土のブロックを20%含む。

2) 遺物

出土した縄文時代の土器は縄文時代早期後葉条痕文系、中期後葉加曾利E式、後期初頭称名寺式、後期前葉堀之内1・2式、後期中葉加曾利B1・B2式が出土しているが、中心となるのは堀之内1・2式である。327号土坑以外の土器は小破片が多く、また石器の出土は非常に少ない。ここでは遺構出土の土器及び石器について触れていく。

A 土器（第23・24図、第11表、図版27・28）

327号土坑（第23図1、第11表、図版27）

第23図1は327号土坑の覆土上層に、あたかも逆位に据えられたかのような出土状況の土器である。推定口径は20.2cmで口縁部～胴部付近まで遺存している。器形は口縁部が外反し、口唇部が僅かに内側に折れる。器厚は口唇部付近4mm、最大で6mmを測り、全体的に薄手で小型の土器である。文様は口縁部直下と胴部に横位の細い沈線と区画して、その区画内を3単位の菱形文により施文し、その施文の外側を縄文LRで充填する。また菱形文内は多重沈線により充填される。口縁部直下と胴部は無文域である。堀之内2式である。

328号土坑a（第23図2～15、第11表、図版27）

第23図2は胴部破片で器厚はやや厚手、沈線により横位と縦位の施文がなされる土器である。縄文時代中期中葉の勝坂式と思われる。12層から出土した。

第23図3・4は堀之内1式で、3は口縁部の突起部分、頸部付近で屈曲が看取される。隆帯による貼り付けで突起が形作られ、頸部付近には横位の沈線が観察され、その上部に刺突による施文が見られる。頸部付近以下は器厚が薄く、器面は内外面ともに丁寧に磨かれている。10層から出土している。4は胴部破片でやや厚手である。地文にLR縄文、隆起線上に円形竹管による横位の連続刺突、斜位のやや深い沈線による施文がみられる。11層から出土した。第27図5～10は堀之内2式で、5は口縁部破片である。地文にRLの縄文と浅い沈線、隆起線上に刺突が看取され、器内面には沈線による渦巻文が施されている。器形は隆起線から口唇部にかけて僅かに内側に屈曲する。器外面は丁寧に磨かれている。8層から出土した。6は地文に縄文LR、口縁部直下に紐線文を持つ。口唇部内側直下には薄い凹線が横位に巡る。器厚は薄手で、器面は内外面ともに丁寧に磨かれており、焼成も硬質である。4層から出土した。7は口縁部直下に横位の隆起線が施され、隆起線の下に沈線が巡る。また隆起線上に刺突ないしは刻みが施される。口縁部の様相から内彎する器形と思われる。器内面は丁寧に磨かれている。8は胴部破片だが口縁部に近い部分と想定され、横位・斜位の沈線区画内には擦り消された縄文RLが散見される。また屈曲部のやや下部に隆起線が施され、その上に刻みを持つ。器内外面共に丁寧に磨かれている。9は注口土器の肩部～胴部破片である。肩部と胴部の境目付近で屈曲し、肩部は無文、胴部は細い沈線により区画され、その区画内を同様の工具により細い沈線で充填し、部分的に沈線間に刺突による施文を持つ。器外面は丁寧に磨かれているが、内面はあまり調整されていない。10は胴部破片で菱形文は見られないものの327号土坑第23図1の土器と類似するもので、沈線によるX字状の区画内を縄文RLで充填する。器内外面共に丁寧に成形されている。5層出土。11は沈線による施文で、沈線間を縄文RLが施文された後に擦り消されている。器内外面共に磨かれていて、器外面には成形後が連続的に看取される。12は横位の沈線による施文を持ち、器内外面は削り痕が顕著で、内外面共に丁寧に成形されている。7～9、11・12は10層から出土

した。13・14は後期中葉加曾利 B1 式である。13は口縁部で口縁部直下とその下の2段に紐線文が施されている。地文に縄文 RL が施文され、また器内面には横位の二条の凹線が巡る。器内面に二条の太沈線がある。14は胴部破片で、隆起線の上に刻みを持ち、隆起線の下に沈線が巡る。また横位の沈線により区画され、区画内を縄文 RL で充填する。15は底部で、網代痕は指頭により消されている。13～15はいずれも5層から出土している。

328号土坑 b (第23図18～22、第11表、図版27)

第23図18～20は堀之内1式である。18は口縁部破片で、口縁部直下に横位の沈線が巡り、沈線直下で肥厚して段を形成しながら内側に屈曲する。口唇部内側も肥厚して緩い段を持つ。器内外面共に丁寧に成形されている。4層から出土した。19・20は胴部破片で19は沈線施文で、器外面は丁寧に成形されているが、内面はあまり成形されていない。1層から出土した。20は地文に縄文 RL で沈線により区画される。器外面はあまり成形されていないが、内面は丁寧に成形されている。2層から出土した。21・22は堀之内2式の口縁部破片で、21は口縁部直下に横位の沈線が巡り、その下部には斜位の沈線施文が看取される。口唇部内側直下は僅かに肥厚し、凹線が巡る。器外面はあまり成形されていないが、器内面は丁寧に成形されている。5層から出土した。22は口縁部が内側に屈曲する。無文で器外面は削り痕が観察され、内面は丁寧に成形されている。6層から出土した。21・22の土器は器厚が薄手で、小型の土器と推察される。

328号土坑 a 一括 (第23図23、第11表、図版27)

第23図23は328号土坑 a の掘削中に出土したものである。層位不明。堀之内2式の口縁部破片で、口縁部直下に隆起線が配されていて、隆起線上部には沈線が巡る。隆起線には刻みが細かく施される。また横位の沈線が施されていて、その沈線間に縄文 LR 施文が看取される。口唇部内側は僅かに肥厚、屈曲する。器内外面ともに丁寧に成形され、器厚も薄い。

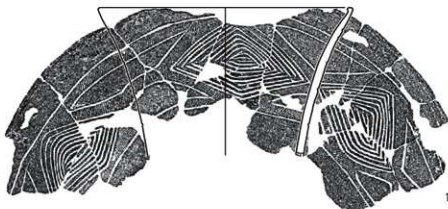
330号土坑 (第23図24～27、第11表、図版27)

第23図24は中期後葉の加曾利 E3 式の胴部破片で、地文に縄文 RL、沈線による区画を持つ。25は後期前葉堀之内1式の口縁部破片で、口縁部内側に凹線が一条巡り、僅かな段を持つような様相である。外面は縄文 LR が施文される。器内面は丁寧に成形されている。26は堀之内1式の大型の胴部破片で、器厚は厚く、破片の様相から胴部～底部近くの大型の土器と思われる。部分的に縄文 LR が施文される。器内外面ともに成形されているが、磨かれていない。27は堀之内2式の口縁部破片で、口縁部～波頂部には隆起線が貼り付けられる。文様は地文に縄文 RL、沈線により蕨手文が描かれる。頸部～口縁部にかけて外反する。器内外面はあまり成形されていない。

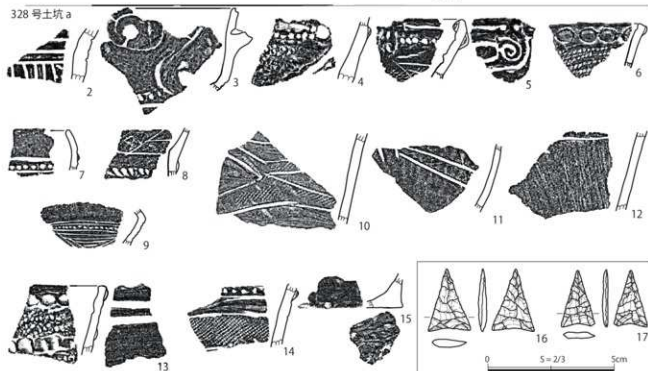
333号土坑 (第24図1～6、第11表、図版28)

第24図1は縄文時代早期後葉の条痕文系土器の胴部破片である。条痕は器内外面共に明瞭だが土器は摩滅している。胎土に繊維を多く含む。第24図2・3は堀之内1式で口縁部である。2は口縁部直下に横位の深い沈線が施文され、屈曲部には隆起線が施されている。頸部付近にも横位の沈線が巡る。器内外面ともに丁寧に成形されている。3は3単位の沈線と口縁波頂部に刺突文を持つ。口縁部には横位の凹線が巡る。縦位の沈線が変形していることから、施文後に成形が行われたものと推察される。器内面には磨かれた痕跡が看取される。4は胴部破片で、地文に縄文 LR を施文し、深い沈線により文様が描かれている。器内面は丁寧に成形されている。5・6は堀之内2式の口縁部破片で、

327号土坑



328号土坑 a



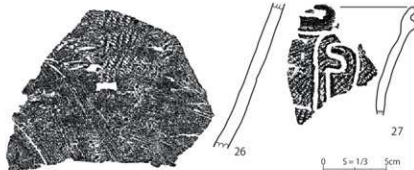
328号土坑 b



328号土坑 a一括



330号土坑



第23図 遺構出土遺物(その1) (1/3・2/3)

5は紐線文が口縁部直下に施され、頸部に二条の沈線の区画内に矢羽根状に縄文 RL が施文されている。口唇部は内側に屈曲し、頸部～口縁部にかけて器形が外反する。器内外面共に丁寧な成形され、器厚は薄手である。6は非常に薄手の土器で、口縁部直下に横位の隆起線が施され、その上に刻みが観察される。器内面に横位の隆起線が巡り、その両脇を2条の太沈線が巡る。器内外面共に丁寧に成形されている。

P1952 (第24図7・8、第11表、図版28)

第24図7は堀之内1式の口縁部で、波頂部である。隆起線が口縁部直下、波頂部付近に配され、部分的に隆起線に沿う沈線が観察される。波頂部に大きい刺突が看取される。器内面は丁寧に成形されている。8は堀之内2式の口縁部破片で、沈線が縦位に施される。器外面は丁寧に成形され、沈線が変形していることから施文後に成形が行われたことが窺える。また口唇部上は成形により僅かに稜が形成される。器内面は調整痕であろうか、横位の線状痕が認められる。

P1953 (第24図9、第11表、図版28)

第24図9は堀之内2式の口縁部破片で、角頭状の口唇部両端には稜線が形成されている。口縁部下に浅い円形刺突文が巡る。器内外面共に丁寧に成形されており、特に内面は磨かれている。

P1958 (第24図10、第11表、図版28)

第24図10は堀之内2式の口縁部破片で、波頂部には2単位の突起が付されているものと思われる。口唇部は内側に肥厚、屈曲し、頸部～口縁部にかけて外反する器形と推察される。地文に縄文 LR、口縁部直下に一条の沈線が巡る。菱形文内を沈線で充填しているものと思われる。口唇部上～器内面にかけて非常に丁寧に成形されており、内面には成形痕が観察される。

P1959 (第24図11、第11表、図版28)

第24図11は堀之内2式の口縁部破片の波頂部付近である。口縁部直下に深い沈線が巡り、その下には隆起線が巡る。また口縁部波頂部直下には穿孔がみられる。口唇部は内側に屈曲し、また刺突文が施されている。

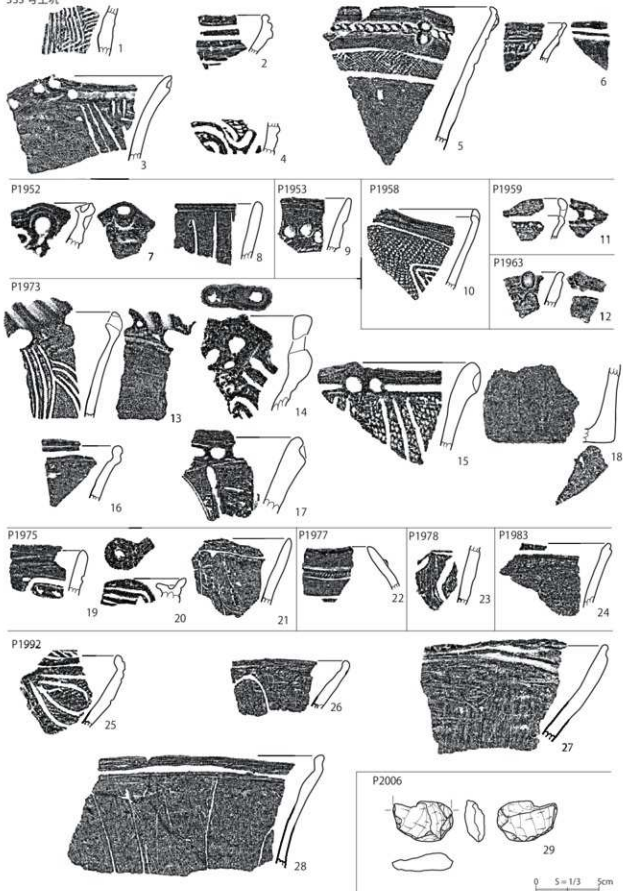
P1963 (第24図12、第11表、図版28)

第24図12は堀之内1式の口縁部破片で、波頂部付近にボタン状の貼付文が看取され、突起状の波頂部を形成する。また微隆起線による波状文が施文される。内面の口縁部直下には浅い凹線が巡る。

P1973 (第24図13～18、第11表、図版28)

第24図13～17は堀之内2式の口縁部破片で、13は口唇部上に連続した波状の突起が見られ、穿孔が2箇所看取される。施文は沈線で、その変形の在り方から施文後に成形が行われたものと示唆される。また器内面には刺突文が1箇所看取される。薄手の土器で、頸部～口縁部にかけて緩やかに外反し、口縁部直下で僅かに内側に屈曲する。器内外面共に丁寧に成形されている。14は口縁部破片の波頂部付近で、波頂部に2つの刺突と波頂部直下に穿孔が見られる。波頂部を起点として刺突→沈線が横位に二条巡り、その下部には曲線状の沈線が展開する。15は2単位の刺突が波頂部直下に施文され、横位の沈線が巡る。地文に縄文 RL が施され、3単位の沈線が垂下する。やや厚手で、器形は口縁部付近で肥厚、外反する。器内外面共に丁寧に成形されている。16は口縁部直下に凹線が巡り、段を持つ無文の口縁部破片である。器形は外反しながら口縁部直下で僅かに内側に屈曲し、また口唇部が内側に肥厚する。17は器形、施文等において15に類似するが、縄文が施文されてい

333号土坑



第24図 遺構出土遺物 (その2) (1/3)

ない。口縁部直下に刺突が巡り、太沈線と細沈線が垂下する。太沈線は変形しており、施文後に器外面が成形されたものと思われる。18は底部破片で、底部から胴部にかけてやや内彎する。器外面は丁寧に成形されている。

P1975 (第24図19～21、第11表、図版28)

第24図19は称名寺式の口縁部破片で、太沈線による区画内に刺突の充填が見られる。20は堀之内1式の口縁部付近の波頂部破片で、突起の上部に刺突、外面に沈線が施文される。また波頂部右側には穿孔による痕跡が看取される。21は堀之内2式の口縁部破片で、細く浅い沈線が口縁部直下に巡り、また細沈線により粗雑なU字状のモチーフが展開している。口唇部は外削状で、器形は頸部付近から僅かに外反する。器内外面共に丁寧に成形されている。

P1977 (第24図22、第11表、図版28)

第24図22は加曾利式B1式の鉢の口縁部破片で、口唇部の様相から内彎する形態を呈すると思われる。隆起線の上下両脇に沈線が沿わされていて、隆起線上には細かい刻みが施されている。また隆起線の下部には一条の沈線が伺える。器内外面共に丁寧に成形されている。

P1978 (第24図23、第11表、図版28)

第24図23は称名寺式の胴部破片で、横位の沈線と太沈線による曲線的な施文が観察される。

P1983 (第24図24、第11表、図版28)

第24図24は堀之内1式の口縁部破片で、口縁部直下に深い沈線が巡り、段を持つ。頸部から口縁部にかけて外反する器形で、口唇部は若干内側に肥厚する。器外面は丁寧に成形されているが、内面は口唇部直下のみまでられている。

P1992 (第24図25～28、第11表、図版28)

第24図25・26は堀之内1式、27・28は堀之内2式の口縁部破片で、25は地文に縄文RLが施され、口唇部上には斜位の刻み、口縁部直下に細い沈線が横位に巡る。その下位に沈線により曲線的なモチーフが描かれている。器形は頸部～口縁部にかけて外側に開いているが、口唇部は内側に屈曲する。26は沈線により逆U字状のモチーフを描くもので、口縁部が僅かに内傾し、口縁部内側直下はごく浅い凹線状の調整が巡る。27・28は口縁部直下に凹線が巡り、27は口唇部上には爪形文が施され、器外面に縦位のケズリ痕、器内面に横位のケズリ痕が残存する。やや厚手で粗雑な作りの印象である。28はやや大型の土器と思われ、頸部～口縁部にかけて外反し、口縁部が若干内側に屈曲し、口唇部が内側に肥厚する。器外面口縁部直下は浅い凹線が横位に巡る。また縦位の細い沈線が垂下する。この沈線は変形しており、施文後に器外面の調整が行われたものと思われる。器内外面は良く磨かれているが、内面の頸部付近は何らかの付着物により白色化している様相が伺える。

B 石器 (第23・24図、第12表、図版27・28)

328号土坑a (第23図16・17、第12表、図版27)

第23図16・17は石鏃で、両側縁は直線状、基部は浅い弧状のもので、チャート製である。16は9層、17は12層の貝層サンプル内から出土している。

P2006 (第24図29、第12表、図版28)

第24図29は打製石斧の欠損したもので、刃部付近のみが遺存している。折れ面が観察され、使用、刃部再生あるいは製作途中で破損したものの可能性がある。片岩系の石質である。

3) 遺構外出土遺物(第25～27図、第13～15表、図版29・30)

遺構外出土遺物は1691点、15901.4g出土している。弥生時代の348号住居跡の覆土内に混在していた縄文土器についても縄文時代の遺構外遺物としてここで掲載した。所属時期は僅かに中期のものが看取されるが、大半は後期の堀之内1・2式が中心で、称名寺、加曾利B式が少量出土している。

A 土器(第26・27図、第13・14表、図版29・30)

第26図1は中期中葉勝坂式の胴部破片で、地文に縄文LR、横位の隆起線上に刻みが施され、隆起線の両脇には沈線が沿わされている。2・3は中期後葉加曾利E式の胴部破片で、地文に縄文LR、沈線が施文されているものである。2は垂下する沈線と弧状の沈線が横位に展開する連弧文土器である。3は縦位の沈線と縄文LRが施文される。4は称名寺式で、地文に細かい原体を用いた縄文LR、沈線により曲線的なモチーフを描いたものである。

5～16は堀之内1式で、5～12は口縁部破片である。5は肥厚する口唇部上及び口唇部直下の隆起線上に刻みが施され、また口縁部直下には縦長の刺突文が看取される。器形は外反するものと想定されるが、口唇部が内側に僅かに屈曲する。6～8は波状口縁の口縁部破片で、地文に6は縄文RL、7・8は縄文LRが施文されている。いずれも沈線によりモチーフが描かれるもので、6は器外面の口唇部直下に沈線が施されて、段差を持つ。器内外面共に丁寧に成形され、器内面には縦方向の成形痕が看取される。7は二条の沈線により逆U字状のモチーフを描き、区画内に沈線が垂下する。器形は僅かに内彎し、口唇部が肥厚する。8は波頂部から口縁部まで肥厚し、波頂部内面に円形刺突が観察される。9～11は地文に縄文LRを持つもので、9は口縁部直下に大型の刺突文が巡り、その直下で屈曲する。また縦位の沈線が観察される。口唇部は内面が外側に外反する。10・11は内面の口縁部直下に浅い凹線が巡る。10は口縁部内面にごく浅い凹線が巡り、凹線を起点として僅かに外反する。11は波頂部に突起を持つが、その突起の中央部に沈線が施されることで2単位の突起が形成される。やや薄手で外側に開く器形だが、口唇部は肥厚して内側に屈曲する。12は波頂部付近の破片で、沈線により曲線的なモチーフが描かれていれる。器形は外側に開くものの頸部付近から口縁部にかけて緩やかに内彎する。口唇部形態は先細り状である。

13～16は胴部破片で、13は地文に縄文LRが施され、曲線的な沈線が垂下する。蕨手文の可能性ある。14～16は沈線施文の土器で、14は若干くびれた胴部から頸部に向かって外側に開く器形である。また斜位、横位の沈線の交差部に粘土の貼付文が看取される。15は横位・縦位の沈線で文様が展開し、横位の沈線は単位の長い押引状を呈している。16は垂下する二条の沈線で、沈線が変形していないことから器外面の成形後に施文されたものと思われる。

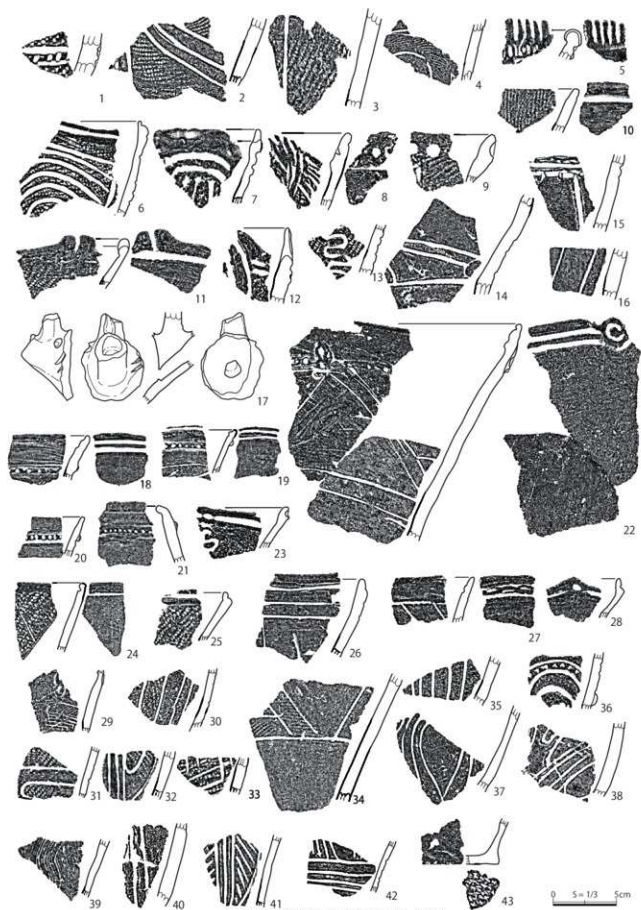
17～42は堀之内2式土器で、17は注口土器の注口部分である。注口部分の付け根付近に僅かに沈線が看取される。また釣手部分とその両脇に刺突文が施されている。18～28は口縁部破片で、18～21は隆起線上に刻みが施されるものである。18は内面に二条の凹線状の施文が施される。器形は外側に開く。器内外面共に丁寧に磨かれている。19は器外面に隆起線のほか、細沈線が横位・斜位に観察され、また内面には断面三角形の隆起線が巡り、その上下に沈線が施されている。その沈線施文により口唇部は内削状を呈している。20・21は隆起線上に刻みが施されるもので、文様構成はほぼ同様だが、20は薄手で隆起線の上部はなで付けられ、下部は沈線が沿わされていて器内外面共に丁寧に磨かれているが、21はやや厚手で口唇部形態が外削状を呈していて、端部が内側に屈



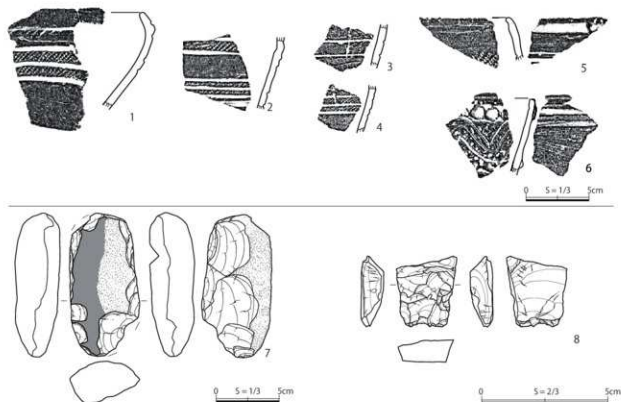
第25图 遺構外出土遺物分布図 (1/150)

曲する。また隆起線の上はなで付けられて器面に貼り付けられている。器内外面共に成形されているが、磨かれていない。22は大型の破片で、隆起線上に刻みと波頂部直下の隆起線と頸部以下に細沈線が施文されるもので、隆起線と沈線の交差部に突起が観察される。また口縁部内面端部には隆帯が巡り内側に肥厚するが、その隆帯上とその下部に凹線が沿わされている。器内外面共に丁寧に成形されているが、内面頸部以下に薄く白色の付着物が観察される。23～25は地文に縄文、沈線が施文されるもので、23・24は縄文RL、25は縄文LRである。23は波頂部に2単位の刺突文と沈線が口縁部に巡り、蕨手文が描かれる。器形は外側に開くものと思われ、また口唇部内面が僅かに肥厚する。24は斜位の沈線が看取され、口唇部内面には横位の沈線が巡る。器内面が丁寧に磨かれ、磨き痕が顕著に看取される。25は器外面の口唇部直下に沈線が施され、第26図6と同様に段差を持つような口唇部形態である。26～28は沈線により施文されるもので、26はやや厚手で、口縁部付近に横位の三条の沈線と頸部に縦位の沈線で文様が描かれる。また口唇部直下に巡る沈線を起点として、口唇部付近が僅かに内側に屈曲する。器形は外側に開きながら頸部付近で緩やかに内彎する。27は横位の沈線と斜位の沈線でモチーフが描かれるもので、内面に施された2条の沈線間に横方向の短沈線が看取される。短沈線施文により、横位の沈線が変形している。器形は僅かに外反し、口唇部形態は先細状である。器外面は丁寧に磨かれていて、磨き痕が看取される。28は薄手で小型の土器と思われ、波頂部直下に浅い刺突文が施され、波頂部を起点として口唇部直下に沈線が巡る。

29～43は胴部破片で、29は突起を持ち、器表面は沈線と縄文LRが施される。器内面には僅かに横位に巡る隆起線が看取され、突起と隆起線の在り方から口縁部近くの破片と推察される。器内外面共に磨かれている。30～34は沈線と縄文LRが施文され、35は沈線と縄文RLである。30～32は区画内を縄文で充填、33～35は地文に縄文を持つ。30は内面に薄く白色の付着物が看取される。31は胴部～頸部にかけての破片であろうか、僅かに外反する。33は格子状に沈線が施されるが、棒状の工具ではなく、先端が鋭利に尖っていて、かつ平坦な工具により施文された特徴的な沈線である。34は沈線区画内に縄文LRが観察されるが、横位の沈線の下部にも僅かに縄文が認められ、このことから成形時に地文として施文された縄文が擦り消されたものと思われる。35は僅かに地文に縄文RLが看取され、沈線に変形が認められないことから、縄文施文後に成形、その後沈線施文を行ったと思われる。36は沈線による円形ないしは弧状の区画内を半裁竹管による刺突文で充填する。また沈線施文の中央部には突起が貼り付けられている。器内面は磨かれていて、磨き痕が観察される。37～42は沈線施文である。37は沈線による曲線的なモチーフを描かれるものである。器外面は磨かれていて、磨き痕が看取される。器内面には白色の付着物が看取される。38は器内外面共に丁寧に成形されているが、沈線が変形しておらず、沈線の両端が盛り上がっていることから、施文前に成形されたものと想定される。39は半裁竹管により沈線を重層的かつ波状に描くもので、器内外面共に丁寧に成形されている。38と同様、施文前に成形されたものと思われる。40も同様に沈線の変形がなく、施文前に成形されたものと捉えられる。41は縦位と斜位の沈線区画内を沈線で充填する。器形は僅かに外反する。器内外面共に磨かれていて、内面には磨き痕が残る。器外面の沈線は変形していないことから、施文前に成形されたものであろう。42は薄手の土器で、器内外面共に丁寧に成形されている。沈線の様相から施文後に成形されたものと推察される。43は底部破片で、網代痕が看取される。



第26圖 遺構外出土遺物 (1) (1/3)



第27図 遺構外出土遺物(2) (1/3・2/3)

第27図1～4は加曾利B1式で1は口縁部～頸部、2～4は胴部破片である。いずれも沈線間を縄文LRで施文されるもので、1は口縁部が内側に屈曲する。

5・6は加曾利B2式の口縁部破片で、5は内面に突起、外面は縄文LRが施される。6は紐線文で、半裁竹管による波状の沈線が施文される。地文に縄文LRが施される。第27図1～6はいずれも器内外面が丁寧に磨かれている。

B 石器(第27図、第15表、図版30)

石器は2点抽出した。7は磨製石斧と思われ、表面に明瞭な磨面が形成される。刃部付近～右側縁にかけて剥離面が形成されているが、欠損及び破損に伴う刃部及び形態調整の痕跡と思われる。石質はホルンフェルスである。8は楔形石器で、刃部付近には使用によるものと思われる内側への湾曲が看取される。石質は頁岩である。

第 11 表 遺構出土土器観察表

種別 番号	調査 番号	調査 区	遺構	出土 層位	時期	種別	部位	型式	文様	色調	焼成	胎土
23-1	27-1	A	327号土坑	1	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、縄文LR	黒(7.5YR4/4)	普通	白色粒子、砂粒
23-2	27-2	A	328号土坑a	12	中期前室	深鉢	胴部	無文	沈線	明赤黒(5YR5/6)	良	チャート、砂粒、白色粒子
23-3	27-3	A	328号土坑a	10	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	隈巾	にぶい糖(7.5YR6/4)	普通	石炭
23-4	27-4	A	328号土坑a	11	後期前室	深鉢	胴部	堀之内1	隆起線、沈線、刺突、縄文線	明赤黒(5YR3/4)	普通	石炭、白色粒子
23-5	27-5	A	328号土坑a	8	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隈巾、沈線、縄文LR	黒色(5YR2/1)	普通	石炭、泥岩粒
23-6	27-6	A	328号土坑a	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	組紐文、縄文LR	黒色(7.5YR3/1)	良	石炭
23-7	27-7	A	328号土坑a	10	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隆起線、刺突、沈線	にぶい糖(7.5YR6/4)	良	石炭
23-8	27-8	A	328号土坑a	10	後期前室	深鉢	胴部	堀之内2	隆起線、刺突、沈線	黒色(7.5YR3/1)	良	石炭、白色粒子、泥岩粒
23-9	27-9	A	328号土坑a	10	後期前室	注口	胴部	堀之内2	沈線、刺突	黒色(5YR3/1)	普通	石炭、白色粒子
23-10	27-10	A	328号土坑a	5	後期前室	深鉢	胴部	堀之内2	沈線、刺突	明黄褐色(10YR 7/6)	良	石炭、チャート、砂粒
23-11	27-11	A	328号土坑a	10	後期前室	深鉢	胴部	堀之内2	沈線、縄文和	黒(7.5YR2/1)	良	石炭
23-12	27-12	A	328号土坑a	10	後期前室	深鉢	胴部	堀之内2	沈線	にぶい糖(7.5YR6/4)	良	石炭、白色粒子
23-13	27-13	A	328号土坑a	5	後期前室	深鉢	口縁部	加曾井B1	隈巾、縄文LR	灰黒(10YR4/2)	良	石炭、白色粒子
23-14	27-14	A	328号土坑a	5	後期前室	深鉢	胴部	加曾井B1	隆起線、刺突、沈線、縄文LR	黒色(7.5YR3/1)	普通	石炭、雲母
23-15	27-15	A	328号土坑a	5	後期	深鉢	底部	無文	にぶい赤黒(5YR5/4)	普通	石炭、白色粒子	
23-18	27-18	A	328号土坑b	4	後期	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線	黒色(7.5YR3/2)	良	石炭、白色粒子、赤褐色粒子
23-19	27-19	A	328号土坑b	1	後期前室	深鉢	胴部	堀之内1	沈線	にぶい糖(7.5YR5/3)	良	石炭、白色粒子
23-20	27-20	A	328号土坑b	2	後期前室	深鉢	胴部	堀之内1	沈線	黒(7.5YR7/0)	普通	石炭、白色粒子
23-21	27-21	A	328号土坑b	5	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	黒色(5YR2/2)	普通	石炭、砂粒
23-22	27-22	A	328号土坑b	6	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	無文	にぶい糖(7.5YR6/3)	良	石炭、白色粒子、泥岩粒
23-23	27-23	A	328号土坑a一括	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隈巾、沈線、縄文LR	黒色(5YR2/1)	普通	石炭、白色粒子、砂粒	
23-24	27-24	A	330号土坑	3	中期前室	深鉢	胴部	加曾井B3	沈線、縄文和	黒(7.5YR6/8)	普通	石炭、白赤赤褐色粒子
23-25	27-25	A	330号土坑	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線、縄文LR	明暗(7.5YR5/6)	普通	石炭、白色粒子
23-26	27-26	A	330号土坑	1	後期前室	深鉢	胴部	堀之内1	縄文LR	灰黒(5YR4/2)	普通	石炭、チャート、白色粒子
23-27	27-27	A	330号土坑	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隈巾、沈線、縄文和	灰黒(7.5YR4/2)	普通	石炭
24-1	28-1	A	333号土坑	5	早期後室	深鉢	胴部	糸痕文系	糸痕	明暗(7.5YR5/6)	良	繊維、泥岩粒
24-2	28-2	A	333号土坑	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	隈巾、沈線	にぶい赤黒(5YR4/3)	良	石炭
24-3	28-3	A	333号土坑	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線、刺突	黒(7.5YR4/3)	良	石炭、チャート
24-4	28-4	A	333号土坑	4	後期前室	深鉢	胴部	堀之内1	沈線、縄文LR	にぶい糖(7.5YR6/4)	良	砂粒、白色粒子
24-5	28-5	A	333号土坑	8	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隈巾、沈線、縄文和	黒色(5YR3/1)	良	石炭、金雲母、白色粒子
24-6	28-6	A	333号土坑	14	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隆起線、刺突	黒(7.5YR6/6)	良	石炭、白色粒子
24-7	28-7	A	P1952	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	隈巾、沈線	黒(5YR6/6)	良	石炭、白色粒子
24-8	28-6	A	P1952	7	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	黒(5YR6/8)	良	石炭、白色粒子
24-9	28-9	A	P1953	2	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	刺突	黒(7.5YR6/8)	良	石炭、白色粒子
24-10	28-10	A	P1958	8	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、縄文LR	明赤黒(5YR5/6)	良	石炭、白色粒子、雲母
24-11	28-11	A	P1959	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	隈巾、沈線、刺突	黒色(7.5YR3/2)	普通	石炭、砂粒
24-12	28-12	A	P1963	4	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	隈巾、内圧	にぶい糖(7.5YR6/3)	良	石炭
24-13	28-13	A	P1973	6	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	にぶい糖(7.5YR5/3)	良	石炭、白色粒子
24-14	28-14	A	P1973	5	後期前室	深鉢	胴部	堀之内2	沈線、刺突	黒(7.5YR6/8)	普通	石炭、白色チャート
24-15	28-15	A	P1973	8	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、刺突	黒(7.5YR6/6)	良	石炭、砂粒、チャート
24-16	28-16	A	P1973	8	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	灰黒(7.5YR5/2)	良	石炭、白色粒子
24-17	28-17	A	P1973	5	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、刺突	にぶい赤黒(5YR4/3)	普通	石炭、白色粒子
24-18	28-18	A	P1973	3	後期前室	深鉢	底部	堀之内2	無文	にぶい赤黒(5YR3/4)	普通	石炭、チャート、白色粒子
24-19	28-19	A	P1975	2	後期前室	深鉢	口縁部	株名寺新	沈線、刺突	黒(7.5YR6/8)	普通	石炭、白色粒子
24-20	28-20	A	P1975	6	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線	黒(7.5YR4/3)	普通	石炭、白色粒子
24-21	28-21	A	P1975	6	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線	黒色(7.5YR3/1)	普通	石炭
24-22	28-22	A	P1977	2	後期前室	鉢?	口縁部	加曾井B1	隈巾、内圧、沈線	明赤黒(5YR5/6)	良	石炭、白色粒子
24-23	28-23	A	P1978	5	後期前室	深鉢	胴部	株名寺	沈線	黒(7.5YR6/4)	普通	石炭、白色粒子
24-24	28-24	A	P1983	1	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	無文	黒色(7.5YR3/2)	良	石炭、砂粒
24-25	28-25	A	P1992	8	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線、縄文和	にぶい糖(7.5YR5/2)	普通	石炭、白色粒子
24-26	28-26	A	P1992	一括	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	刺突	黒(7.5YR6/8)	良	石炭、白色粒子
24-27	28-27	A	P1992	2	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	爪形文	暗黒(7.5YR3/3)	良	石炭、白色粒子、赤褐色粒子
24-28	28-22	A	P1992	2	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	にぶい糖(7.5YR3/4)	良	石炭、白色粒子

第 12 表 遺構出土土器観察表

種別番号	調査番号	調査区	遺構	順序	種別	材質	長×幅×厚(mm)	重量(g)
23-16	27-16	A区	328号土坑a	9	石蓋	チャート	25 × 17 × 3	0.8
23-17	27-17	A区	328号土坑a	12	石蓋	チャート	22 × 13 × 2	0.2
24-29	28-29	A区	P2006	1	打製石片	片岩系	32 × 48 × 16	25.1

第 13 表 遺構外出土土器観察表(1)

種別 番号	調査 番号	調査 区	グリッド	出土 層位	時期	種別	部位	型式	文様	色調	焼成	胎土
26-1	29-1	A	62 M	B-4b	中期前室	深鉢	胴部	無文	沈線、刺突、縄文LR	黒(7.5YR6/6)	普通	石炭、白色粒子、砂粒
26-2	29-2	A	60-1	B-4b	中期前室	深鉢	胴部	池田文	沈線、縄文LR	にぶい糖(7.5YR6/4)	良	石炭、白色粒子、砂粒
26-3	29-3	A	一括	一	早期後室	深鉢	胴部	加曾井E2	沈線、縄文LR	灰青黒(10YR8/3)	普通	石炭、白色粒子、泥岩粒
26-4	29-4	A	58 M	B-4a	後期前室	深鉢	胴部	株名寺中	沈線、縄文和	黒色(10YR2/3)	普通	石炭、白色粒子
26-5	29-5	A	59 M	B-4a	後期前室	深鉢	口縁部	堀之内1	刺突、沈線	明暗(7.5YR5/8)	良	白色粒子

第 14 表 遺構外出土土器観察表 (2)

検出番号	図取番号	調査区	グリッド	出土層位	時期	種別	部位	型式	文様	色調	構成	胎土
26-6	29-6	A	61-M	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線、縄文LR	褐色 (5YR4/1)	良	石英、白色粒子、砂粒
26-7	29-7	A	59-L	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線、縄文LR	明褐色 (7.5YR5/6)	普通	石英、白色粒子
26-8	29-8	A	58-M	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線	明赤褐色 (5YR5/6)	普通	石英、白色粒子、砂粒
26-9	29-9	A	58-M	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	刷文、縄文LR	暗赤褐色 (10YR3/6)	普通	石英、白色粒子、赤色粒子
26-10	29-10	A	58-M	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	縄文LR	明褐色 (7.5YR5/6)	良	石英
26-11	29-11	A	59-L	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	縄文LR	明赤褐色 (5YR5/6)	普通	石英、白色粒子
26-12	29-12	A	61-L	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内1	沈線	暗褐色 (10YR3/2)	普通	石英
26-13	29-13	A	一括	-	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内1	沈線、縄文LR	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	良	石英、白色粒子
26-14	29-14	B	67-K	II-4b	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内1	沈線、扉付	褐色 (7.5YR4/3)	良	石英、チャート、白色粒子
26-15	29-15	A	60-L	II-4b	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内1	沈線	明褐色 (7.5YR5/8)	普通	石英、白色粒子
26-16	29-16	A	61-M	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内1	沈線	明赤褐色 (5YR5/6)	良	石英、白色粒子、泥岩粒
26-17	29-17	A	60-M	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	黒褐色 (5YR3/1)	良	石英、白色粒子
26-18	29-18	A	一括	-	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	隆起線、押圧、縄文LR	褐色 (10YR4/4)	良	石英
26-19	29-19	B	64-K	II-4a	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	隆起線、沈線	黒褐色 (5YR2/1)	良	石英、白色粒子
26-20	29-20	A	61-L	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	隆起、押圧	明褐色 (7.5YR5/8)	良	石英
26-21	29-21	A	58-M	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	隆起、押圧	暗赤褐色 (5YR3/2)	良	石英、白色粒子
26-22	29-22	B	64-K	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	隆起、刷文、沈線	暗赤褐色 (5YR3/3)	良	石英、白色粒子
26-23	29-23	A	一括	-	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、縄文RL	暗褐色 (10YR3/2)	良	石英、長石、白色粒子
26-24	29-24	B	64-K	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、縄文LR	にぶい赤褐色 (5YR3/4)	良	石英
26-25	29-25	A	一括	-	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線、縄文LR	暗褐色 (10YR3/3)	良	石英、白色粒子
26-26	29-26	A	62-L	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	褐色 (7.5YR6/8)	良	石英、白色粒子
26-27	29-27	A	一括	-	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	良	石英、白色粒子
26-28	29-28	A	61-M	II-4b	後期前葉	深鉢	口縁部	堀之内2	沈線	褐色 (10YR4/4)	普通	石英
26-29	29-29	A	63-L	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	突起、沈線、縄文LR	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	普通	石英、白色粒子
26-30	29-30	A	61-L	II-4b	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、縄文LR	赤褐色 (5YR4/6)	良	石英、白色粒子、砂粒
26-31	29-31	A	一括	-	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、縄文LR	褐色 (10YR4/4)	良	石英、白色粒子
26-32	29-32	A	61-L	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、縄文LR	褐色 (7.5YR6/8)	良	石英、泥岩、白色粒子
26-33	29-33	B	66-K	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、縄文LR	暗褐色 (10YR3/2)	良	石英、白色粒子
26-34	29-34	A	58-M	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、縄文RL	暗褐色 (7.5YR3/2)	良	石英、白色粒子
26-35	29-35	A	61-M	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、縄文LR	褐色 (7.5YR6/8)	普通	石英、白色粒子
26-36	29-36	A	61-M	II-4b	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線、刺突	にぶい褐色 (5YR5/3)	良	石英、白色粒子
26-37	29-37	A	61-L	II-4b	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線	暗赤褐色 (5YR3/2)	良	石英、白色粒子
26-38	29-38	A	62-L	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線	明褐色 (7.5YR5/8)	良	石英、白色粒子
26-39	29-39	A	一括	-	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	平行沈線	明赤褐色 (5YR5/8)	普通	石英、白色粒子、泥岩粒
26-40	29-40	A	61-M	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線	灰褐色 (5YR5/2)	良	石英、白色粒子、泥岩粒
26-41	29-41	A	62-L	II-4a	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線	褐色 (7.5YR4/4)	良	石英、白色粒子、泥岩粒
26-42	29-42	A	61-M	II-4b	後期前葉	深鉢	腹部	堀之内2	沈線	灰褐色 (7.5YR4/2)	良	石英
26-43	29-43	B	64-K	348 任	後期前葉	深鉢	底部	堀之内2	刷代画	暗赤褐色 (5YR3/2)	普通	石英、白色粒子
27-1	30-1	B	64-K	348 任	後期前葉	深鉢	加管利B1	沈線、縄文LR	褐色 (7.5YR4/3)	普通	石英、長石、白色粒子	
27-2	30-2	B	64-K	348 任	後期前葉	深鉢	加管利B1	沈線、縄文LR	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	良	石英、白色粒子	
27-3	30-3	A	一括	348 任	後期前葉	深鉢	加管利B1	沈線、縄文LR	赤褐色 (5YR4/6)	良	石英、白色粒子	
27-4	30-4	A	一括	348 任	後期前葉	深鉢	加管利B1	沈線、縄文LR	明赤褐色 (5YR5/8)	良	石英、白色粒子	
27-5	30-5	B	64-K	348 任	後期前葉	深鉢	加管利B2	突起、縄文LR	暗赤褐色 (5YR3/4)	普通	石英	
27-6	30-6	B	64-K	348 任	後期前葉	深鉢	加管利B2	隆起線、平行沈線、縄文LR	黒褐色 (5YR2/1)	良	石英、白色粒子	

第 15 表 遺構外出土土器観察表

検出番号	図取番号	調査区	グリッド	層位	種別	材質	形状	寸法 (mm)	重量 (g)
27-07	30-7	A区	61-M	II-4a	磨製石斧	ホルンフェルス	114 × 56 × 36	265.2	
27-08	30-8	A区	61-L	II-4a	楔型石器	頁岩	27 × 24 × 9	8.3	

2 弥生時代

今回の調査で検出された弥生時代の遺構は、B区から検出された弥生時代後期の348号住居跡である。南東側、南側は攪乱により、東側部分は歩道部分に近接しているため、全体像は明らかではないが、遺存している部分の覆土の堆積は厚く、住居跡内からは床面とみられる硬化面とビット、炉跡が検出された。遺物は弥生土器で、13点257.2gを測る。

1) 遺構 (第28～30図)

A 住居跡 (第28～30図・第16表・図版23～25)

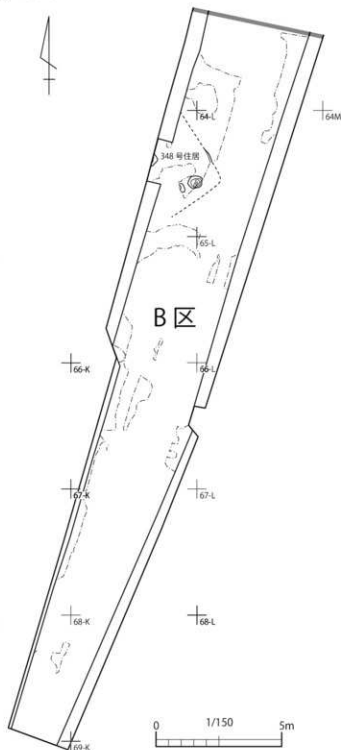
348号住居跡 (第29・30図・第16表・図版23～25)

B区北側B-1区から弥生時代の住居跡である348号住居跡が検出された。覆土内に非常に多くの縄文後期の土器が含まれていたが、床面直下のビット内から弥生時代後期の直口壺の口縁部～頸部の破片が出土し、弥生時代後期の遺構とした。グリッドは64-K・Lである。規模は遺存状態で最大長軸269.6cm、短軸227.6cm、深度は45.2cmを測る。住居跡は西側の歩道部分まで延伸し、沿道掘削協議後に拡張して調査を行ったところ、炉跡が検出された。住居跡は北東側・南側が攪乱により削平されている。

2) 遺物

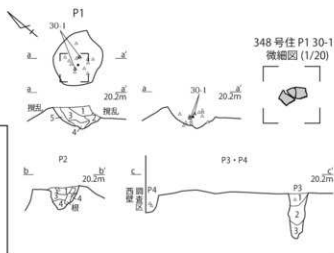
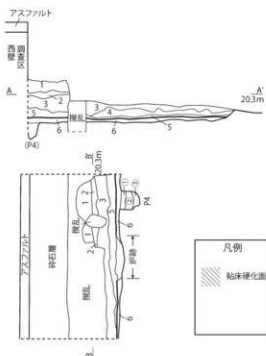
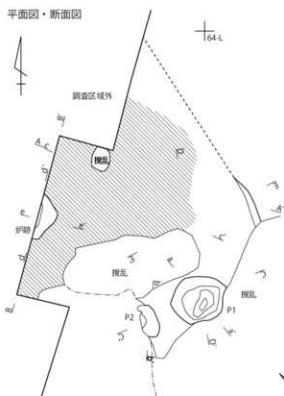
A 土器 (第30図1、第17表、図版30)

弥生時代の遺物は13点出土したが、図示できたのは第30図1の348号住居跡P1内から出土した直口壺の口縁部～頸部破片である。64-K・Lグリッドから出土した。復元口径は19.2cmで、器形は頸部から外反し、口縁部付近で垂直に立ち上がる様相である。文様はRの網目状燃糸文が施文される。器外面には不正円形に二か所赤彩が施され、口縁部から頸部の境目付近には不規則ながら僅かな無文域が形成されている。焼成は良好で、器内面は丁寧に成形されており、全面的に赤彩が施されている。

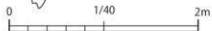
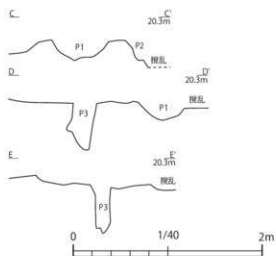


第28図 弥生時代遺構配置図 (1/150)

平面図・断面図

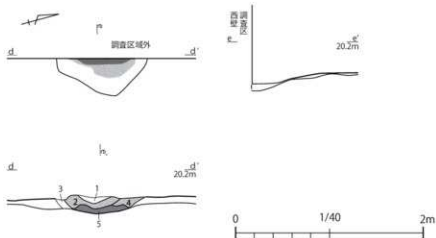


掘方

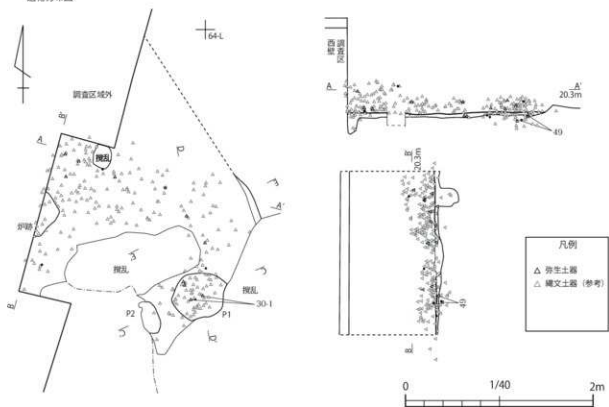


第29図 弥生時代348号住居跡断面図・遺物分布図(1/40)

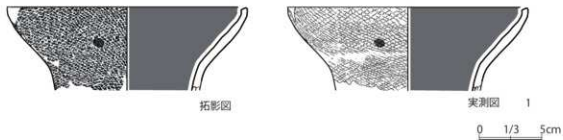
炉跡



遺物分布図



348号住P1出土土器(1/3)



第30図 弥生時代348号住居跡炉跡・遺物分布図・出土遺物(1/3・1/40)

第16表 348号住居跡遺構観察・土層説明一覧表

棟間 番号	遺構 番号	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色調	土層説明	
29 + 30	348号住居	B	64-K 64-L	269.6	227.6	45.2	1階席 (10YK3/3)	粘性強いが締りはある。2~4mmの褐色スコリアを1%以下含む。 2階席 (10YK3/4) 粘性・締りともにややあり。径2mmの褐色スコリアを1%以下、暗褐色土のブロックを5%含む。 3階席 (10YK3/3) 粘性ややあり、締りあり。径2mmの褐色スコリアを1%以下、暗褐色土のブロックを5%含む。 4階席 (10YK3/4) 粘性・締り共にややあり。褐色土のブロックを10%、黄褐色土のブロックを30%含む。 5階席 (10YK2/3) 粘性・締りともにあり。褐色土・黄褐色土のブロックを10%ずつ含む。 6階席 (10YK3/3) 粘性あり、締り強い。褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを30%含む。床面下掘方。	
							1階席 (10YK3/3)		粘性・締りともにややあり。径1mmの焼土粒を1%前後含む。
							2階席 (10YK3/4)		粘性あり。締りややあり。褐色土のブロックを20%、焼土のブロックを10%含む。
							3階席 (10YK3/4)		粘性・締りともにややあり。褐色土のブロックを10%、黄褐色土のブロックを1%含む。
							4階席 (10YK3/4)		粘性・締りともにややあり。黄褐色土・褐色土のブロックを10%、焼土のブロックを5%含む。
							5階席 (5YR4/8)		粘性無いが締りは強い。焼土、暗褐色土のブロックを5%含む。懸焼面。
29	348号住居 P1	B	64-K 64-L	61.6	47.0	33.6	1階席 (10YK2/3)	粘性ややあり、締り弱い。径0.5~2mmの褐色スコリア、黄褐色土粒を1%含む。 2階 (10YR4/4) 粘性あり。締まりややあり。黄褐色土のブロックを30%、褐色土のブロックを10%含む。 3階席 (10YK3/3) 粘性・締りともにややあり。白色粒子を1%、径10mmの黄褐色土のブロックを1%以下含む。 4階席 (10YK2/3) 粘性・締りともにあり。褐色土・暗褐色土のブロックを5%ずつ含む。 5階 (10YR4/4) 粘性・締りともにあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックを10%ずつ含む。	
							2階 (10YR4/4)		粘性あり。締まりややあり。黄褐色土のブロックを30%、褐色土のブロックを10%含む。
							3階席 (10YK3/3)		粘性・締りともにややあり。白色粒子を1%、径10mmの黄褐色土のブロックを1%以下含む。
							4階席 (10YK2/3)		粘性・締りともにあり。褐色土・暗褐色土のブロックを5%ずつ含む。
							5階 (10YR4/4)		粘性・締りともにあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックを10%ずつ含む。
29	348号住居 P2	B	64-K 64-L	33.0	18.4	25.0	1階席 (10YK2/3)	粘性・締りともに弱い。褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ10%ずつ含む。 2階 (10YR4/4) 粘性・締りともにややあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。 3階 (10YK3/4) 粘性あり。締りややあり。褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。	
							2階 (10YK2/3)		粘性・締りともに弱い。褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ10%ずつ含む。
							3階 (10YR4/4)		粘性・締りともにややあり。暗褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。
							4階席 (10YK3/4)		粘性あり。締りややあり。褐色土・黄褐色土のブロックをそれぞれ5%含む。
29	348号住居 P3	B	64-K 64-L	24.6	21.2	47.8	1階席 (10YK2/3)	粘性・締りともにあり。2~5mmの黄褐色土のブロックを5%、褐色土のブロックを10%含む。 2階 (10YR4/4) 粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを10%、暗褐色土のブロックを20%含む。 3階 (10YR4/6) 粘性やや強く、締りは強い。黄褐色土のブロックを30%含む。	
							2階 (10YR4/4)		粘性あり、締りややあり。黄褐色土のブロックを10%、暗褐色土のブロックを20%含む。
							3階 (10YR4/6)		粘性やや強く、締りは強い。黄褐色土のブロックを30%含む。
29	348号住居 P4	B	64-K 64-L	22.4	14.0	21.2	1階席 (10YK3/3)	粘性・締りともにあり。黄褐色土のブロックを30%含む。 2階席 (10YK3/3) 粘性あり。締りややあり。黄褐色土のブロックを5%含む。 3階席 (10YK3/4) 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを30%含む。	
							2階席 (10YK3/3)		粘性あり。締りややあり。黄褐色土のブロックを5%含む。
							3階席 (10YK3/4)		粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%、黄褐色土のブロックを30%含む。

第17表 348号住居跡出土遺物観察表

棟間番号	図版番号	調査区	出土遺構	時期	器種	部位	口径 (cm)	成形・調整の特徴	胎土	焼成	色調	備考
30.1	30.9	B	348住居P1	弥生後期	甕	口縁部~頸部	19.2	外：瓣口状器系文 内：ナデ	白色粘土、灰岩粒	良	外：黄緑 (10YR2/8) 内：橙 (2.5YR6/6)	直口甕・内面赤彩

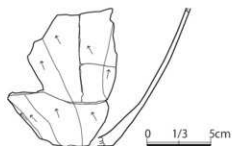
3 古代

今回の調査では古代の遺構は検出されなかった。だがB区の63-Kグリッド付近の攪乱の中から古代の遺物が出土している。この攪乱の土層は、カマドに一般的に看取されるような土層や灰が混在しており、周辺に古代の遺構が存在していた可能性が高い。ここでは攪乱内から出土した遺物だが、古代の遺物を抽出し図示、記述する。

1) 遺物

A 土師器 (第31図、図版30、第18表)

遺構外から古代の土師器7点257.2g、須恵器2点6.6gが出土した。攪乱中から土師器の胴部～底部破片が1点出土している。出土時にカマドに用いられる黄白色の粘質土が周囲から見られ、根跡及び近代以降の造作により攪乱されていた。表面には縦方向のケズリ、内面はナデで成形されている。器厚は非常に薄く、武蔵型の甕の底部付近と思われる。



第31図 古代遺構外出土遺物 (1/3)

第18表 古代遺物観察表

採集番号	図版番号	調査区	出土遺構	時期	器種	部位	法量 (cm)	成形・調整の特徴	胎土	焼成	色調	備考
31	3D-10	B	攪乱中	古代	土師器 甕	底部	—	外：ヘラケズリ 内：ナデ	白色粘土、灰岩粒	良	に赤・黄緑 (10YR6/3)	

4 近世以降

今回の調査で検出された近世以降の遺構は、溝3基、畝跡1基、ピット10基である。第32図に近世以降の遺構配置図・平面図・断面図を図示した。

遺物は磁器6点331.4g、陶器4点100.6g、土器1点30.1gであったが、図示できるものは無かった。以下、遺構の詳細について述べていく。

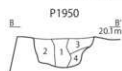
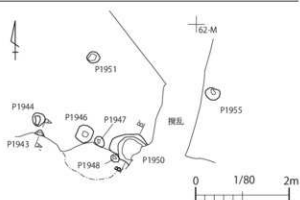
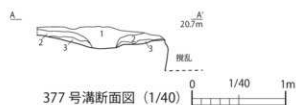
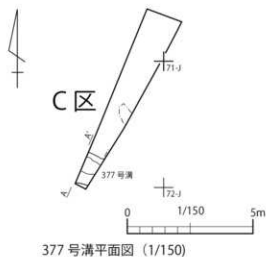
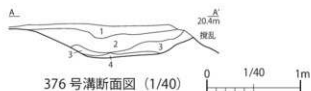
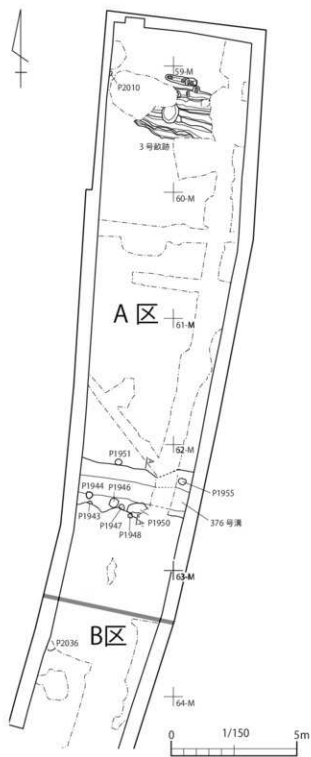
1) 遺構

A 溝 (第32図・第19表・図版26)

376号溝 (第32図・第19表・図版26)

A区62・63-L・Mグリッドで検出された。南側及び東側は攪乱により壊されている。断面形態は逆台形状で、覆土は4層に分層される。覆土の様相から、近世以降に掘削された溝と考えられる。遺構底面に硬化面等は認められなかったが、水が流れたような痕跡も看取されなかった。位置的には第2次調査で検出されている「U」に続く溝であろうか。遺物は陶器1点6.3gが出土している。

377号溝 (第32図・第19表・図版26)



第32図 近世以降遺構平面・断面図 (1/40・1/80・1/150)

C区 72・73-J・K グリッドから検出された。覆土は3層に分層され、概ね376号溝と同様の覆土であり、遺構底面に硬化面及び水の痕跡は看取されない。位置的には第2次調査で検出されている「Z」に続く溝の可能性があるが、明瞭ではない。

B 畝跡 (第32図・第19表・図版26)

3号畝跡 (第32図・第19表・図版26)

A区 59-L・M グリッドから検出された。検出された畝は6単位で東西に伸びる。東西両側とも攪乱により壊されている。覆土は単層で、本遺跡で見られる近世以降の溝やピットの覆土、基本土層で近世以降の耕作土としている1-5層に類似する。

C ピット (第32図・第19表・図版26)

近世以降のピットは前述したように10基検出されている。覆土と遺構壁面、遺構底部との境目は極めて明瞭で基本的には暗褐色土のローム粒子を含む単層のものが中心だが、中にはP1943・P1950・P2036のように複数の層序に分層されるものもある。

第19表 近世以降の遺構観察・土層説明一覧表

探検 図版 番号	遺構名	調査 区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	色調	土質
32	26	376号溝	A	62-L 62-M	440.0	166.4	33.0	1層期 (10YR3/4) 粘性強いが締りはある。2m前後の褐色スコリア、ローム粒子を3%以下含む。
								2層期 (10YR3/3) 粘性強いが締りはややある。2～3mのローム粒を3%含む。
								3層期 (10YR3/3) 粘性・締りともにややあり。1～2m前後の褐色スコリアを1%、10～15mのロームブロックを1%以下含む。
								4層期 (10YR3/3) 粘性あり、締りややあり。2～5mのローム粒子を3%含む。黄褐色土のブロックを1%以下含む。
32	26	377号溝	C	72-L	124.6	59.8	23.6	1層期 (10YR2/3) 粘性強いが締りはややある。2～15m前後のロームブロックを3%含む。
								2層期 (10YR3/3) 粘性強いが締りはややある。褐色土、黄褐色土のブロックを20%含む。
								3層期 (10YR4/6) 粘性強いが締りはややある。黒褐色土、暗褐色土のブロックをそれぞれ10%含む。
32	26	3号畝跡	A	59-L 59-M	333.2	174.8	9.52	1層期 (10YR3/3) 粘性強いが締りはややある。1～3mのローム粒を3%含む。
32	-	P1943	A	62-L	21.2	11.2	11.6	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒を1%含む。
								2層期 (10YR3/3) 粘性強いが締りはある。1～30mのローム粒を5%含む。
								3層期 (10YR3/3) 粘性強いが締りはある。黄褐色土、褐色土のブロックをそれぞれ20%含む。
32	-	P1944	A	62-L	28.4	26.0	14.0	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	26	P1946	A	62-L	40.0	36.0	33.2	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	-	P1947	A	62-L	24.2	17.0	19.8	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	-	P1948	A	62-L	19.2	15.4	19.6	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	-	P1950	A	62-L	82.0	66.0	30.6	1層期 (10YR3/3) 粘性・締りともに強い。2～10mの褐色土を5%含む。
								2層期 (10YR3/4) 粘性ややあり、締りあり。2～10mのローム粒、黄褐色土のブロックを5%含む。
								3層期 (10YR3/3) 粘性・締りともにあり。2～10mの褐色土を3%、白色粒子を1%含む。
								4層期 (7.5YR3/3) 粘性・締りともにあり。褐色土のブロックを20%含む。
32	-	P1951	A	62-L	28.0	24.0	11.4	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	26	P1955	A	62-M	31.4	23.8	33.6	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	-	P2010	A	59-L	4.0	9.6	27.6	1層期 (10YR3/1) 粘性強いが締りはある。1～3mのローム粒、1m前後の褐色スコリアを1%含む。
32	-	P2036	B	63-L	37.8	27.8	36.2	1層期 (10YR3/4) 粘性強いが締りはややある。1～3mのローム粒を3%含む。

V まとめ 成果と課題

道合遺跡第10次調査では、主に縄文時代の遺構、貝層を含む土坑及びピット、人骨が検出されたピットが認められ、その遺構内及び遺構外からは後期前葉の遺物が主体的に出土した。

ここでは調査の成果と課題として、出土遺物の様相、貝層を含む土坑及びピットの在り方を中心に所見を述べ、道合遺跡第10次調査のまとめに代えておきたい。

1 道合遺跡第10次調査における縄文時代後期前葉の遺構と遺物

今回の調査では縄文土器が2530点、石器が17点出土した。また弥生時代後期の土器が住居跡内から、攪乱中から古代の土師器及び須恵器の破片も散見されている。今回の調査で主体的に出土した縄文時代の土器は小破片が多くその変化や組成を論じることは難しいが、本調査の東側の第1次調査、北側の第8次調査、南東側の第3次調査の出土遺物、検出遺構を比較して、ここでは道合遺跡における縄文時代後期前葉の遺構と遺物の在り方を考える糸口を捉えることを試みる。

本調査の出土遺物は今まで実施された道合遺跡の調査と同様、縄文時代早期～後期、弥生時代後期～古墳時代、古代、中世、近世以降の遺物だが、中心となるのは縄文時代の遺物で、中でも主体は後期前葉の堀之内1・2式土器である。だが第23図～27図に図示したように、中には第23図1のように復元できた資料もあるが、ほとんどが破片資料である。遺物は土坑やピット等の遺構内や、遺構内に堆積している貝層中から出土したものと、いわゆる遺物包含層とその上層に堆積している近世以降の耕作土から出土している。出土範囲はB・C区が攪乱されていたためA区が中心で、A区の北側に隣接する第8次調査南側でも多く出土していることから本調査の遺物の分布状況は連続していると言える。また第8次調査出土遺物も小破片での出土が多く、遺構はピット、土坑が中心で、その覆土や包含層等から遺物が出土する状況も今回の調査と同様である。東側に隣接する第1次調査では土坑がまとめて検出され、墓域であることが指摘されている。出土遺物は第8次・今回の調査と同様に小破片が多いが、復元個体も含まれる。南東側に近接する第3次調査でも縄文時代後期の遺物が出土し、遺構は土坑15基、ピットが68基、地点貝塚が8地点、住居跡が2軒検出されている。第3次調査で検出された縄文時代の遺構は今回の調査地点よりも南側で、出土した土器も破片資料が中心だが、第8次調査及び今回の調査で出土したものと比較すると、やや大型の破片が多く含まれている。石器の出土量も多く、石鏃、石匙、打製石斧、礫器、磨製石斧等が見られ、いわゆる製品が多い。こういった状況から、第3次調査の範囲は縄文時代後期の生活域である可能性が示唆される。第3次調査のV章2でも述べられているが、2軒の住居跡の在り方は集落の南限・東限を示し、都道を挟んで北西側の八幡谷を臨む谷頭に集落が展開する可能性が指摘されている。以上のように道合遺跡第1次・3次・8次・本調査地点は、出土遺物の様相や検出された遺構の在り方から、それぞれ縄文時代後期の土地利用の在り方が異なる様相が窺える。本調査地点の貝層、人骨を含むピットの在り方については後述するが、その様相と本調査・第8次調査の出土土器が小破片が中心であることは、土地利用の在り方が縄文時代後期前葉という時期の中で変化した可能性があるのかも知れない。

2 328号土坑a・bの形成過程

今回の調査地点では、住居跡等の遺構は検出されていないが貝層が堆積する土坑やピットが看取された。その中で最も貝層が多く含まれていた328号土坑について述べていきたい。328号土坑は当初一つの遺構と捉えていたが、貝層の分布状況及び堆積状況からa・bの二つに分離した。これらの土坑は不定形だが、328号土坑aの規模は長軸115.2cm、短軸111.6cm、深さ66.0cmで328号土坑bは長軸206.0cm、短軸140.4cm、深さ80.4cmである。貝層の堆積状況についてはIV-1で詳しく触れているが、ここではこれらの土坑そのものの形成過程とその利用の在り方について、第3次・第8次調査の貝層を含む土坑の様相と比較しながら論じてみたい。

両土坑ともヤマトシジミ・ハマグリを中心に貝層が形成されている。捜査や調査対象範囲外の部分もあり、全体像を捉えることは出来なかったが、特徴的なのは、前述したように平面及び断面が不定形なことである。そして328号土坑aは東側に333号土坑、328号土坑bは直下に332号土坑といった貝層を含まない土坑が形成されている。北側の第8次調査でも246号土坑からヤマトシジミ・ハマグリを中心に含む貝層が検出されているが、土坑の形態が定型的で、今回の調査で検出されたものとは様相が異なる。第3次調査でも、フラスコ型の65・75号土坑等の覆土に貝層が堆積しているものが認められる。65号土坑は開口部の直径110cm×深度140cm、75号土坑は開口部直径100cm×深度102cmだが、底部に深度93cmのピットが構築されている。貝層は覆土の上層に一部含まれる点、定型的な土坑という点では328号土坑a・bとは異なるが、規模や深度は類似する。また貝層の貝の組成がヤマトシジミ・ハマグリを中心とする点で第3次・第8次調査で検出された貝層と共通する。

328号土坑aの東側下部には333号土坑が検出されている。この土坑の覆土は部分的にロームブロックが大量に含まれており、人為的に埋め戻したかあるいは土坑の壁面が崩落して埋没したものの可能性もあるかもしれない。また328号土坑bについても、土坑の下部に332号土坑が検出されており、328号土坑aの様相と類似する。以上のことから、328号土坑aは333号土坑の崩落後の凹みを西側から簡易的に掘削、整地して貝を廃棄したもので、328号土坑bは332号土坑の埋没後の凹みに貝を廃棄したものと想定される。328号土坑aについては、遺構底面の凹凸が激しく、人為的な掘削かあるいは根跡等の凹みを利用したものかは明らかではないが、少なくとも328号土坑aの形成と333号土坑とは何らかの関係がありそうである。同様に328号土坑bについても、332号土坑の埋没等の関連により形成された可能性が伺える。いずれにしても328号土坑a・bの平面形態や底面の在り方から、貝の廃棄を目的とした意図的な土坑の掘削の痕跡というよりも、何らかの理由で形成された地形の凹みを簡易的な掘削で廃棄の施設として利用したものと推察される。

3 ピット内の貝層堆積

今回の調査では貝層を含むピットが15基検出されている。第1次・3次・第8次調査では土坑内から貝層は検出されているが、ピット内からは貝層は検出されていないようである。今回の調査の特徴の一つであろうか。今回検出された貝層が堆積したピットはP1949・P1952・P1958・P1963・P1970・P1972・P1973・P1975・P1979・P1980・P1992・P1994・P1997・P1998・P2018の15基である。だがそれらの貝層の堆積状況を見ると、概ね3つの類型に分類することが出来る。

A 類：遺構の底面近くから貝層の堆積が始まるもの

P1952・P1963・P1970・P1972・P1973・P1975・P1980・P1992・P1998

B 類：遺構の覆土の中層に堆積するもの

P1949・P1958・P1979・P1994・P2018

C 類：散漫な貝層を含むもの

P1997

と分けられる。風化した貝殻を含む程度のものについてはC類としている。またこれらのピットはP1980・P1998を除いて、貝以外にも土器や礫、骨類等を含んでいる。またP1952には人骨一肋骨が、P1979には人骨一右大腿骨の一部が混在している。以上のような状況を調査所見と合わせて鑑みながらピット内の貝層堆積について考えてみたい。

まずC類のP1997だが、遺構自体が浅く平面及び断面も不定形なため、根による攪乱の可能性がある。また近くに328号土坑a・bが見られることから、破碎した貝が凹みに流れ込んだものと考えられる。328号土坑aでは東西の断面の堆積状況から、堆積した貝が溢れて東側に流れた様相が窺え、何らかの営為でP1997の凹みに破碎貝が堆積したことは有り得るものと思われる。

A類はピットのほぼ底面及び壁付近まで貝層が堆積しているもので、ピットが開口している時に貝が埋められたものと思われる。だが貝を廃棄、埋めることを目的として掘削されたものか、別の目的で掘削されたピットを廃棄の場所として選択したものかは不明である。またP1992のように、貝の廃棄→埴土の廃棄→貝の廃棄→土器の廃棄が行われたものもある。

B類はピットの覆土中層に貝層が検出されたもので、ピット底面及び壁に貝を含まない覆土が堆積しているものである。この堆積状況はピットの掘削から時間が経過して、ある程度埋没していた状況を示す。あるいは別の要因でピットの中央部付近に何らかの空間が形成されていたことを示すと考えられる。別の要因とは、柱穴等の施設が想定される。施設としての役割を終えた柱を引き抜いたものか、朽ちた柱穴を利用してゴミ穴に転用し貝の廃棄を行った可能性が考えられる。遺構の種別は異なるが第3次調査の75号土坑は、貯蔵穴(土坑3類)→柱穴(ピット1類)→ゴミ穴(貝層形成)という施設の転用が指摘されており、今回の調査におけるピットの転用事例として捉える上で思考のヒントになるかもしれない。だが今回の調査では柱を用いた施設、住居跡のような柱が必要な施設が検出されていないが、主にB類は堆積状況から柱穴として利用後に転用された状況が窺えるため、廃棄の場以前は居住空間として土地利用されていた可能性は否めない。

視点を変えてピット内に貝を埋めるといった行為の意味や目的について、単純にピットをゴミ穴に転用して廃棄したものとは全く異なる合理性や意味を持つものであったか否かについては、貝だけではなく獣骨や土器、礫等も含まれている点から、今日的な常識や思考の枠組みの中では生活ゴミの廃棄以上の意味を見出すことは難しい。今回の調査では住居跡等の居住施設は検出されなかったが、B類のような柱穴としての利用が窺えるピットから、何らかの施設として用いられたピットからゴミ穴へ転用された可能性があるが、P1952・P1979から貝層に混在して人骨が出土していることを鑑みると、時間を遡って居住空間や廃棄の場、葬送の場など、土地利用の在り方が変容した可能性も想定される。

4 ビット内出土人骨のあり方

今回の調査では、P2002 のビット内から人骨が出土した。詳細は付編に国立科学博物館 梶ヶ山真里氏により述べられている。ここでは調査の所見及び梶ヶ山真里氏の所見と合わせて、P2002 から出土した人骨を取り巻く状況について考えてみたい。

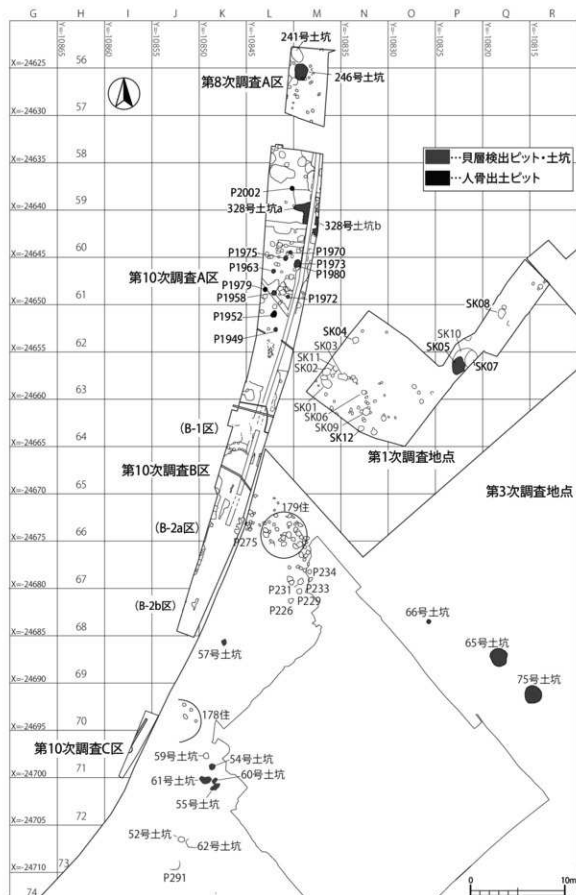
P2002 は近世以降の3号畝跡を完掘した後、II-4a 層で遺構確認中に骨片が検出された。当初は近世以降の墓の可能性を考えたが、ビットを半掘し始めたところ覆土の上層は縄文時代の遺構と同様の覆土であることや、覆土中から縄文土器の小破片が3点出土したことなどから、縄文時代の墓と捉えている。骨の遺存状況は脆弱であった。ビットの規模は長軸 48cm×短軸 45cm×深さ 32.2cmで、それほど大きいものではない。掘削及び記録を行う中で破損し人骨の遺存部位が不明になったものもあったが、検出した人骨はビットの浅い位置から1～87まで逐一Noを付して取り上げている。その結果、頭蓋骨・下顎骨・鎖骨・上腕骨・尺骨・大腿骨・脛骨・寛骨・肋骨・中手骨・桃骨等が出土した。国立科学博物館 梶ヶ山氏によると、人骨は壮年の男性と鑑定されているが、右鎖骨が2点出土しており、このP2002には少なくとも2体の人骨が埋葬されていることが指摘されている。

P2002 の規模は前掲のとおりだが、この規模のビットに死後そのまま人間を納めて埋葬することは不可能である。だが人骨には火を受けた痕跡がなく、したがって死後、火葬以外の方法により遺体が白骨化した後にP2002に埋葬されたものと考えられる。

ではP2002に葬られるまでの過程は如何なるものであったのだろうか。死後、何らかの手段により白骨化へと促す作業や手続きが必要となるが、その手段については前述したように火葬の痕跡は認められないため、それ以外の方法により白骨化したものと推察されるが、その具体的な方法については知る由もない。少なくともP2002の位置とは異なるものの、周辺で白骨化した後に葬られたものであろう。

梶ヶ山氏が指摘するようにP2002からは右鎖骨が2点出土しているが、左右の鎖骨の取り上げNoは左鎖骨がNo 52、右鎖骨がNo 58とNo 60で、取り上げ順から推測するとP2002の中層～下層にかけて出土したものであることから、埋葬後に何らかの要因で右鎖骨が1点混入したものではなさそうである。この出土状況から、2点の右鎖骨は時間的には同様の時期に埋められたものと推定される。すなわちP2002に葬られた時に混入した可能性が高い。P2002以外の地点で白骨化した骨をP2002に葬る時の骨の回収時に、別の右鎖骨が混入したものと思われる。この混入の示す意味は、一次的に遺体が葬られた「場」がP2002の周辺に存在していた可能性を示唆させるものである。P2002周辺が一次的な埋葬の「場」として利用されていたことにより、回収されずに残されていた右鎖骨が1点のみ混在して、一次的に葬られた「場」から回収されて、P2002に同時に納められたものではなかろうか。P1952・P1979でビット内の貝層に人骨の一部が混在していた事も、今回の調査地点周辺が墓域を含めた空間として利用されていた痕跡かもしれない。

今回の調査地点は、ビットや土坑が生活施設として利用されていたならば、それらがビット内・土坑内貝層といった廃棄の場へと変化し、P1952・P1979やP2002から窺えるように、最終的には墓域として利用された可能性がある。



第33図 第1次・第3次・第8次・第10次調査縄文時代遺構分布状況 (1/400)

参考文献

- 貝塚爽平 1979『東京の自然史 増補第二版』紀伊国屋書店
- 今橋浩一 1980「堀之内式土器について」『大田区史 資料編 考古Ⅱ』大田区
- 石井 寛 1984「堀之内 2 式土器の研究（予察）」『調査研究集録』第 5 冊 港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
- 小川和博 1984「堀之内 2 式土器編年の土器様相」『奈和 15 周年記念論文集』奈和同人会
- 阿部芳郎 1988「堀之内 1 式土器の構成と変遷」『信濃』40 巻 4 号
- 久保和土 1988「ハマグリ」の殻長推定に関する一試論『古代文化』40(5)
- 東京都北区教育委員会 1988『御殿前遺跡』
- 東京都北区教育委員会 1988『七社神社前遺跡Ⅰ』
- 西田泰民 1996「堀之内式土器」『日本土器事典』雄山閣
- 東京都荒川区教育委員会 1990『日暮里延命院貝塚』東京都荒川区教育委員会
- 東京都北区教育委員会 1992b「西ヶ原遺跡群滝野川支所地点・中里峡上遺跡滝野川教会地点」
- 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会 1992『袋低地遺跡 考古編』
- 石井 寛 1993「堀之内 1 式土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡・華蔵台南遺跡』（財）横浜市ふるさと歴史財団
- 東京都北区教育委員会 1994「西ヶ原貝塚Ⅱ・東谷戸遺跡」
- 東京都北区史編纂委員会 1994『北区史（資料編 考古Ⅰ）』
- 板橋区史編さん調査会 1995『板橋区史』資料編 1（考古）
- 東京都北区教育委員会 1995『袋低地遺跡・道合遺跡』
- 東京都北区史編纂委員会 1996『北区史（通史編 原始古代）』
- 東京都北区教育委員会 1997『飛鳥山遺跡Ⅱ』
- 阿部芳郎 1998a「西ヶ原貝塚の形成過程と遺跡群の構成」『都内重要遺跡等調査報告書』都内重要遺跡等調査団
- 阿部芳郎 1998b「堀之内 2 式土器の構成と地域性」『縄文時代』第 9 号 縄文時代研究会
- 東京都北区教育委員会 1998『七社神社前遺跡Ⅱ』
- 北区飛鳥山博物館 1999『貝塚と縄文人のくらし』
- 国立王子病院跡地遺跡調査会 2000 a『赤羽台遺跡 国立王子病院跡地地区（第一分冊）』
- 国立王子病院跡地遺跡調査会 2000b『赤羽台遺跡 国立王子病院跡地地区（第二分冊）』
- 植月 学 2000「縄文時代後期における貝類採集活動の空間的構造」『史観』第 142 冊
- 植月 学 2001「縄文時代における貝塚形成の多様性」『文化財研究紀要』14 東京都北区教育委員会
- 東京都北区教育委員会 2002『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ』
- 植月 学 2002「動物遺体」『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ』北区教育委員会
- 植月 学・金子浩昌 2002「動物遺体」『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ』北区教育委員会
- 樋泉岳二・植月 学 2002「中里貝塚 B・C・G 地点の貝類遺体群」『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ』北区教育委員会
- 鯉淵義紀 2002「相模湾沿岸域における堀之内 2 式土器の変遷」『神奈川考古』38 号
- 松田光太郎他 2002『稲荷山貝塚』かながわ考古学財団調査報告 131 集
- 加納 実 2003「縄文時代後期堀之内 1 式土器の系統分析」『千葉市立加曾利貝塚博物館紀要』30 号

- 植月 学 2004『西ヶ原貝塚第 XI 地点出土の動物遺体』『西ヶ原貝塚Ⅳ』北区教育委員会
東京都北区教育委員会 2004『西ヶ原貝塚Ⅳ』
- 阿部 芳郎 2005『貝食文化と貝塚形成』『地域と文化の考古学Ⅰ』明治大学文学部考古学研究室編 六一書房
加藤建設株式会社埋蔵文化財調査部 2005『七社神社前遺跡 3』
- 阿部 芳郎 2007『貝塚から縄文社会を読み解く』『考古学ジャーナル特集 縄文貝塚と社会 大森貝塚発掘 130 周年記念』563 ニュー・サイエンス社
- 植月 学 2007『動物遺体』『東京都北区中里献上遺跡』大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部
阿部 芳郎・植月 学 2008『縄文社会と貝塚』『季刊考古学』105 雄山閣
- 東京都埋蔵文化財センター 2008『七社神社前遺跡—警視庁単身待機宿舎滝野川警察署滝野川寮改築工事に伴う調査—』第 221 集
- 武蔵文化財研究所 2008『日暮里延命院貝塚・B 地点における埋蔵文化財発掘調査報告書』武蔵文化財研究所
堀越正行 2009『貝塚を発掘した人々とその研究』『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣
- 東京都埋蔵文化財センター 2010『北区 道合遺跡—独立行政法人都市再生機構による赤羽台団地（第Ⅰ期 2B）建替地業に伴う調査—』第 247 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2011『西ヶ原貝塚—西ヶ原一丁目地区都市再生機構用地に関わる埋蔵文化財発掘調査—』第 262 集
- 植月 学 2012『御殿前遺跡出土の動物遺体』『東京都北区御殿前遺跡』独立行政法人国立印刷局・大成エンジニアリング株式会社
- 東京都埋蔵文化財センター 2012『北区 御殿前遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 268 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2013『北区 道合遺跡—独立行政法人都市再生機構による赤羽台団地（第Ⅰ期 2B）建替地業に伴う調査—』第 280 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2015『北区 道合遺跡—独立行政法人都市再生機構による赤羽台団地（第Ⅲ期）建替地業に伴う調査—』第 303 集
- 植月 学 2016『西ヶ原貝塚 XVII 地点出土の動物遺体』『西ヶ原貝塚』株式会社メデューム・大成エンジニアリング株式会社
- 大成エンジニアリング株式会社 2016『東京都北区 西ヶ原貝塚』株式会社メデューム
- 東京都埋蔵文化財センター 2016『北区 道合遺跡—独立行政法人都市再生機構による赤羽台団地（第Ⅱ期）建替地業に伴う調査—』第 307 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2016『北区 御殿前遺跡—西ヶ原研修合同庁舎（仮称）の整備に伴う埋蔵文化財調査—』第 1 分冊 第 314 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2017a『御殿前遺跡—西ヶ原研修合同調査（仮称）の整備に伴う埋蔵文化財調査—』第 2 分冊・第 3 分冊 第 314 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2017b『北区 道合遺跡—東京都都市計画道路事業補助線第 85 号線（赤羽台Ⅱ期）整備事業に伴う埋蔵文化財調査—』第 317 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2017b『北区 道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡—独立行政法人都市再生機構による赤羽台団地下水道整備工事に伴う埋蔵文化財調査—』第 318 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2020『北区 田端西台通遺跡—東京都都市計画道路事業補助線第 92 号に伴う

埋蔵文化財調査一]

植月 学 2021 「七社神社裏遺跡第 5 地点から出土した動物遺体」『東京都北区七社神社裏遺跡』野村不動産株式会社ほか

黒住耐二 2021 「くらべてわかる貝殻」山と溪谷社

付編 自然科学分析

1 道合遺跡の動物遺体

帝京大学文化財研究所 植月 学・櫻庭陸央・山本満梨奈

1. はじめに

本稿では北区道合遺跡より出土した動物遺体について報告する。動物遺体はおもに 328 号土坑の貝層より出土したが、その他のピットからも小規模な貝層と骨が出土した。資料の年代は縄文時代後期前葉層之内 1～2 式期である。

2. 資料と分析方法

(1) 資料の採取と処理

328 号土坑は a と b の 2 基に分かれ、貝層のすべてがサンプルとして回収された。サンプルは層序確定前後で採取法が異なる。確定前は上部より厚さ 5cm ずつ機械的に分割採取された (①～④)。5cm のサンプルは上部より ①-1、①-2…のように番号が付された。その後、ベルト部分で層序観察と断面図作成がなされた。層序確定後のベルト部分では層序に従ってサンプルが採取された (A～G。H はサンプルなし)。⑤と⑥は層序確定後のベルト裏の小区域である。いずれもサンプルが複数の袋にまたがる場合には a、b、c のように上部より順次記号が付された。サンプルのすべてについてウォーターセパレーション (5、2.5、1 mm メッシュ) により水洗選別を実施した。

骨類は調査時に目視により回収されたドット上げ資料と上記貝層サンプルの水洗選別により回収された資料がある。

(2) 標本の抽出、同定、計測

貝類

すべてのサンプルの分析は量的に不可能であったため、328 号土坑では層序情報のあるベルト部分のみを対象とし 5.0mm メッシュから標本を抽出した。2.5、1.0mm メッシュについては同定可能標本が少なかったため、さらに一部のサンプルに較べて抽出、同定をおこなった。ピットについては 5.0 mm のみを対象とした。巻貝類については殻頂部・殻口部、二枚貝類については殻頂部を残す標本を抽出した。フジツボ類はすべての標本を抽出した。巻貝類は殻頂部および殻口部により、二枚貝類は殻頂部により同定を行った。巻貝は殻頂部と殻口部のうち多い方、二枚貝は左右のうち多い方により集計した。また、5.0mm では破片についても可能な限り同定し、上記同定標本と合わせて計量した。なお、2.5mm 以下では陸産微小貝類が抽出されたが、時間の制約により同定は行えなかった。

計測は 328 号土坑を対象に主体となるヤマトシジミ (殻長)、ハマグリ (殻高・殻長) について 1 mm 単位で計測した。ピットは計測可能標本が少なかったため計測していない。量が多いサンプルを選び、50 点を上限としてランダムに抽出し、計測した。ハマグリは破損標本が多かったため、50 点に満たない場合は橋面長も追加計測した。次に久保 (1988) の方法に従って橋面長より殻高・殻長を推定した。完存標本の橋面長と殻長を計測し、両者の相関を求めたところ、良好な相関 $r = 0.93$ (殻

第1表 出土動物遺体一覧

動物門	MOLLUSCA	節足動物門	ARTHROPODA	マダヒミ科	Pagurinae
腹足綱	Gastropoda	フジツボ/フジツボ類	Balanidae?	ハゼ科	Gobidae
イボキソコ	<i>Umbonium moniliferum</i>	棘皮動物門	ECHINODERMATA	サハ麗	Scorpaenidae
オオタニシ	<i>Cypraea paludosa japonica</i>	ワニ綱	Echinoidea	ヒラメ科	Paralichthyidae
カワニナ	<i>Semistaticospira libertina</i>	カシパン目	Scutellina	カレイ科	Pleuronectidae
チリメンカワニナ	<i>Semistaticospira retinaria</i>	脊椎動物門	VERTEBRATA	ウシノシタ上科	Soleidae
ウニニナ	<i>Bulliaa multiformis</i>	軟骨魚綱	Chondrichthyes	フグ科	Tetraodonidae
アカニシ	<i>Rapana venusta</i>	サメ類	Selachii	虎出綱	Reptilia
アラムシロ	<i>Nioche festivus</i>	トビエイ科	Myliobatiformes	ヘビ目	Ophidia
キセルガイ科	Clausiliidae	硬骨魚綱	Osteichthyes	鳥綱	Aves
二枚貝綱	Bivalvia	ウナギ属	Anguilla sp.	キジ科	Phasianidae
サルボオ	<i>Anadara kagoshimensis</i>	ヒラ	Clupeidae	哺乳綱	Mammalia
ハイガイ	<i>Tegillarca granosa</i>	ニシン科	Cyprinus carpio	ヒト	<i>Homo sapiens</i>
マガキ	<i>Magellana gigas</i>	コイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
オオノガイ	<i>Mya japonica osumai</i>	ニオイ	Cobidae	アナグマ?	<i>Meles meles</i>
マテガイ	<i>Solen striatus</i>	ドジョウ科	Magilidae	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
シオフキ	<i>Macra quadrangulata</i>	ボラ科	<i>Hyperomphalus</i> sp.	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>
ウネナシトマヤ	<i>Neostrepasium litatum</i>	サヨリ属	Platycephalidae	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>
ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	コナ科	<i>Lateolabrus japonicus</i>		
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	スズキ	<i>Tracheta japonica</i>		
ハマグリ	<i>Meretrix laxoris</i>	マアジ	<i>Acanthopagrus</i> sp.		
オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	クロダイ属			

高)、0.92(殻長)が認められた。そこで、破損標本については次の回帰式により楕面長から殻高、殻長を求めた。

$$y = 2.4175x + 14.618 \quad (y = \text{殻高}, x = \text{楕面長})$$

$$y = 3.2208x + 12.927 \quad (y = \text{殻長}, x = \text{楕面長})$$

骨類

すべてのサンプルについて5mmから1mmまで標本を抽出し、分析した。貝層のすべてについて1mmメッシュまで分析したことになるため、集計の際にはドット上げ資料と一括して扱った。資料の識別を容易にするために、取上の単位(ラベル)ごとに固有の整理番号を付した。同一ラベルで複数の標本が存在する場合にはさらに枝番を付した。整理番号はおおむねドット上げ資料、5.0mm、2.5mm・1.0mmの順で、土坑(ベルト→ベルト以外)、ピットの順に付した。

魚類は主上顎骨、前上顎骨、口蓋骨、歯骨、角骨、方骨、舌顎骨、前鋤蓋骨、主鋤蓋骨、椎骨の全標本を同定対象とした(これらについては未同定標本も結果に示した)。その他部位でも種によって特徴的な部位は適宜同定対象とした。鳥類・哺乳類については同定可能な全部位を対象とした。四肢骨は骨端およびその付近を残す標本はすべて対象とし、骨幹部破片については全周するもののみ対象とした。いずれも計数点を定め、集計の際に重複のないよう留意した。計測可能な部位について適宜計測し、一覧表(第12～16表)に記載した。

3. 分析結果

(1) 貝類・フジツボ類・ウニ類

腹足綱8分類群(うち陸産1)、二枚貝綱11分類群が同定された(第1表)。フジツボ類は現生標本の不備により科以下の同定に至っていない。ウニ類はカシパン目の破片が328号土坑aの①-4cとP1973で各1点出土した。

・貝類組成(第2、3図、第2～8表)

第2図には最小個体数による組成を示した(5.0mm)。328号土坑aと328号土坑bはベルト・層序ごと、ピットは遺構単位である。どの遺構もヤマトシジミ、ハマグリが主体でその他の種は少ない。土坑ではヤマトシジミの方が多く、ピットではハマグリが上回る遺構もある。層位的にみると328号土坑aは変化に乏しいが、328号土坑bではヤマトシジミ主体層とハマグリ主体層が交互に出現する。第3図は重量比である(5.0mm)。重量の大きいハマグリがやや比率を増すが、全体の傾向は同様である。

2.5mmは一部のサンプルしか分析をおこなっていないが、ハマグリの子蚕やウネナシトマヤが少量抽出された程度で全体の組成に影響するものではなかった(第7表)。1.0mmからは今回分析対象としなかった陸産微小貝類を除き、同定可能な標本はほとんど抽出できなかった。

・貝類計測結果

ヤマトシジミ殻長(第4図、第9表) 十分なデータが得られたのは328号土坑a・bのみであった。土坑全体では平均29mm、モードは24~26mmにあるが、層位による変動が大きい。たとえばベルトAでみると、モードが34mm程度の大型にある層と、28mm程度の小型にある層が交互に出現しており、過渡期には両者が混ざって双峰型となったように見える層もある(5b、10a、10dなど)。これは季節性など何らかのサイクルを示している可能性がある。

ハマグリ殻高・殻長(第5図、第10表) 紙幅の都合上、ヒストグラムはベルト単位の合計のみ示し、層位の変化は図上部に平均値と標準偏差の折れ線グラフとして示した。328号土坑全体では平均殻長約48mm、殻高約41mmであった。平均値の層位の変化をみると、ベルトAでは下位より小→大→小→大→小と推移する。こうしたサイクルの存在はヤマトシジミと共通している。

(2) 魚類

軟骨魚綱2分類群、硬骨魚綱19分類群が同定された(第1表)。第6図には遺構単位と土坑内の層位別の組成を同定標本数で示した。淡水から沖合までおおむね生息域ごとに配列してある。

全体としてはクロダイ属、スズキ属、エイ類が主体で、マアジ、コチ科、コイなどがこれに次ぐ。328号土坑の標本が主体なので、土坑の傾向もこれと変わらない。328号土坑aと328号土坑bに分けても大きな差はないが、328号土坑bではドジョウ科がまとまって含まれていた。ピットはごく少数のため合算した。大型魚に偏る傾向を見るには点数が少ない。328号土坑aと328号土坑bの層位の変化については極端な変化はないが、両遺構ともにコイ科、ドジョウ科など淡水魚が周期的に増減するようにもみえる。

(3) 爬虫類・鳥類・哺乳類(第7図)

爬虫類はヘビ類、鳥類はキジ科のみが同定された。哺乳類は6分類群が同定された(第1表)。全体としてみても、遺構単位に分解しても組成に大きな差はない。イノシシとニホンジカが主体となり、タヌキがこれに次ぐ比較的単調な組成であった。ヒトも各遺構から出土した。タヌキ以外の小型獣、鳥類はごく少ない(第7図左)。

(4) 脊椎動物遺体組成(第7図)

各分類群の割合を同定標本数で示した。どの遺構も魚類が主体で、哺乳類が次ぎ、爬虫類・鳥類は

ごく少数であった。ピット（合計）では哺乳類の割合が大きい。ピットでは先述のように小型魚の割合も低かった。貝類規模が小さいことによる遺存度の低さが影響している可能性もある。

4. 考察

(1) 貝類採集活動

貝類組成はどの遺構もヤマトシジミとハマグリを主体とし、その他の種はまれであった。ヤマトシジミとハマグリは比率は328号土坑では一貫してヤマトシジミの方が優占していたが、328号土坑bではヤマトシジミ主体層とハマグリ主体層が交互に出現していた。ピットでもそれぞれが主体となる例が存在した。

近隣の西ヶ原遺跡群における傾向を参照すると、中期前葉～後葉においては台地上の集落ではヤマトシジミが主体となり、浜辺の貝類加工場とされる中里貝塚ではマガキとハマグリを主体とするという立地による貝類利用の差が確認されている（阿部1998、樋泉ほか2000）。これに対して、後期の台地上集落では、前葉（堀之内式期）にハマグリが優占するようになるが、後期中葉の加曾利B式期後半以降になると、再度ヤマトシジミ主体に転じる（植月2012、2016など）。今回の道台遺跡では後期前葉にもヤマトシジミが優占しており、西ヶ原遺跡群の傾向とはやや異なっている。

より微視的にみると、小規模貝層ながらヤマトシジミ殻長変化や、ヤマトシジミとハマグリは出現率に周期性も認められた。この点は貝類採集活動の季節性や漁場の差など、より細かな活動の在り方を反映しているかもしれない。

(2) 漁労活動

汽水域・浅海域に分布するクロダイ属、スズキ属、エイ類などが主体であり、コイ、ドジョウ科、ニゴイ、ウナギ属など淡水域にまで分布する種を含めると、各遺構とも8割以上を占め、この水域が活動の中心であったと推定される。マアジやマダイ亜科などより沖合に分布する種は少数であった。

ふたたび西ヶ原貝塚における成果を参照すると、西ヶ原貝塚の後期前葉はアジ科（多くはマアジ）、ニシン科、ウナギ属などの小型魚の多さによって特徴づけられ、中葉に至ってクロダイ属、スズキ属、板鰐類などの大型魚、ニゴイ・コイ科の増加が確認されている（植月2016）。今回の道台遺跡の後期前葉の様相はむしろ後者の後期中葉に類似していた。東京湾内湾域全体でも後期前葉にはマアジやカタクチイワシなど小型浮魚類とウナギ属によって特徴づけられるが（植月2010）、道台遺跡においては前者の漁は活発ではなかったようである。

西ヶ原貝塚との貝類組成の差とも合わせて考えると、同じ後期前葉にあっても道台遺跡はより汽水域に偏して活動が展開していたとみなせる。これは荒川低地のより上流に位置することと関連する可能性もある。

(3) 狩猟活動

イノシシ、ニホンジカがほぼ同数で主体となり、タヌキがこれに次いだ。その他小型獣や鳥類はまれであった。このような組成は近隣の西ヶ原貝塚とほぼ同様である（樋泉2011、西本2011、植月

2016 など)。

魚類との比率で見ると、本遺跡では哺乳類は2割未満と少なかった。西ヶ原貝塚では後期中葉以降にイノシシ、シカの比率が増加することが指摘されているが、本遺跡においても同様に後期前葉までは漁労活動の方が優勢であったことを示唆している。

(4) まとめ

以上のように、今回の道合遺跡の分析結果は巨視的にみれば南東に位置する西ヶ原遺跡群における傾向と大きな違いはなかった。しかし、より細かな時期的変化に照らし合わせると一致しない点も見受けられた。そうした差異が本遺跡がより上流に位置することによる可能性を指摘したが、他にも集団による活動の差を反映している可能性や、小規模な貝層であったことからごく短期的な活動を反映しているにすぎない可能性なども残されている。周辺域での今後の調査における課題である。

参考文献

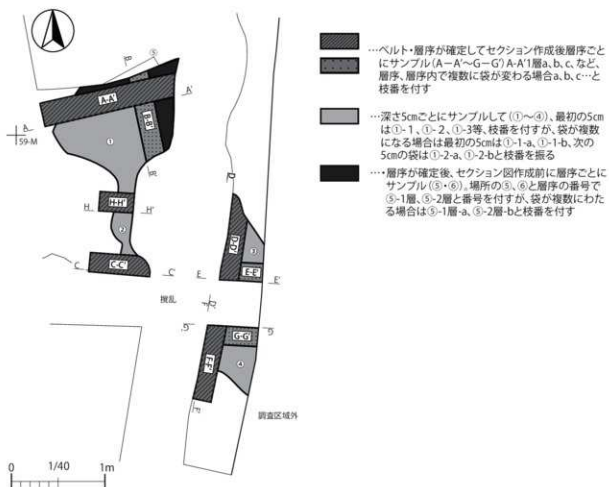
- 阿部永 2000『日本産哺乳類頭骨図説』北海道大学出版会
- 阿部芳郎 1998「西ヶ原貝塚の形成過程と遺跡群の構成」『都内重要遺跡等調査報告書』都内重要遺跡等調査団
- 植月 学 2002「動物遺体」『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ』pp.260-286、北区教育委員会
- 植月 学 2004「西ヶ原貝塚第XI地点出土の動物遺体」『西ヶ原貝塚Ⅳ』pp.75-101、北区教育委員会
- 植月 学 2007「動物遺体」『東京都北区中里峽上遺跡』pp.174-181、大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部
- 植月 学 2012「御殿前遺跡出土の動物遺体」『東京都北区御殿前遺跡』pp.391-395、独立行政法人国立印刷局・大成エンジニアリング株式会社
- 植月 学 2016「西ヶ原貝塚 XVII 地点出土の動物遺体」『西ヶ原貝塚』pp.119-162、株式会社メデューム・大成エンジニアリング株式会社
- 植月 学 2021「七社神社裏遺跡第5地点から出土した動物遺体」『東京都北区七社神社裏遺跡』pp.261-296、野村不動産株式会社ほか
- 植月 学 2023「栄町貝塚の貝類遺体」『栄町貝塚：北区：北区栄町付近石神井川流域貯留池工事に伴う埋蔵文化財調査（東京都埋蔵文化財センター調査報告 第375集）』pp.201-270
- 植月 学・金子浩昌 2002「動物遺体」『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ』pp.139-167、北区教育委員会
- 奥谷喬司(編) 1986『決定版 生物大図鑑 貝類』世界文化社
- 奥谷喬司(編) 2000『日本近海産貝類図鑑』東海大学出版会
- 久保和士 1988「ハマグリ」の殻長推定に関する一試論『古代文化』40(5)
- 樋泉岳二 2011「貝層サンプルから検出された骨類」『西ヶ原貝塚』第3分冊 pp.80-115、東京都埋蔵文化財センター

樋泉岳二・植月学 2002「中里貝塚B・C・G地点の貝類遺体群」『七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚 I III・中里貝塚II』 pp.374-390、北区教育委員会

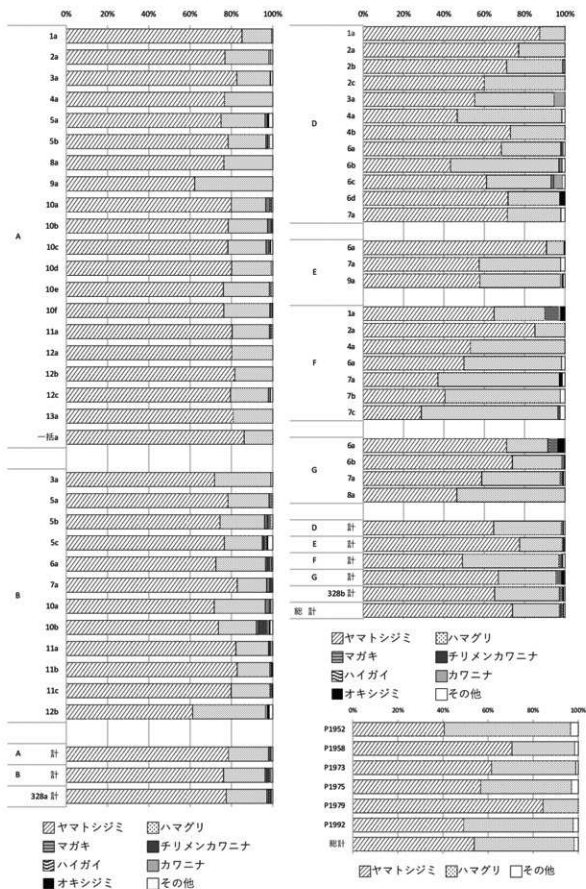
樋泉岳二・黒住耐二・山谷文人・切通雅子 2000「貝類遺体」『中里貝塚』 pp.99-17、北区教育委員会

中坊徹次(編) 2013『日本産魚類検索 全種の同定 第三版』東海大学出版会

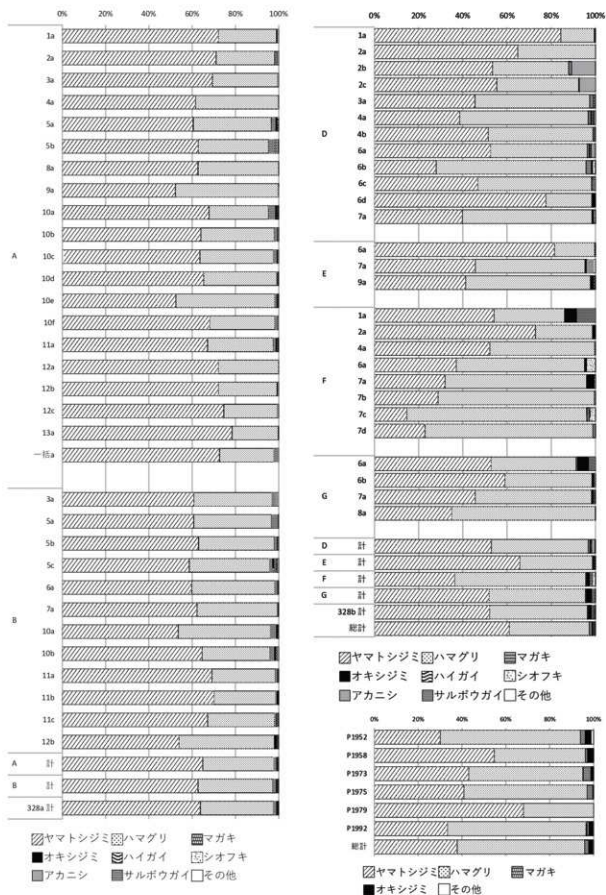
西本豊弘 2011「西ヶ原貝塚の動物遺体」『西ヶ原貝塚』第3分冊 pp.65-79、東京都埋蔵文化財センター



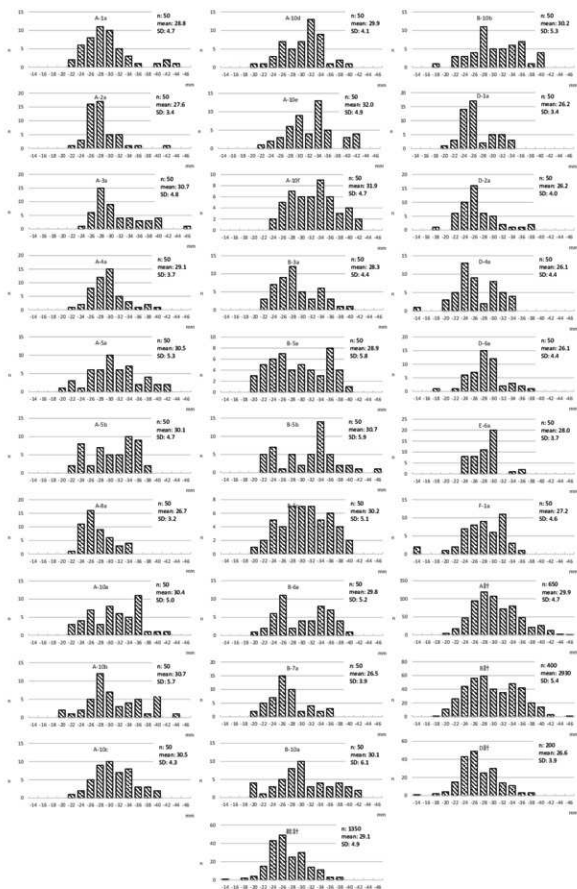
第1図 貝層サンプル採取方法



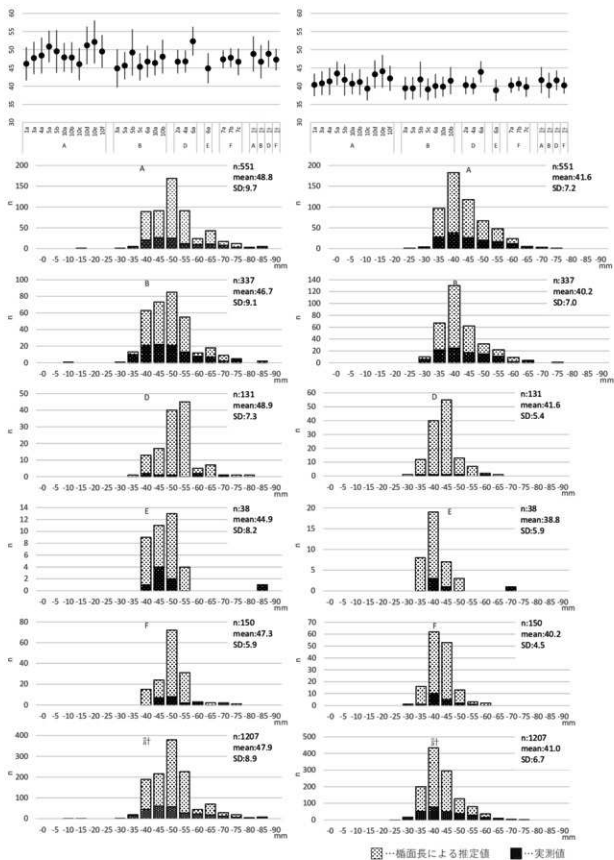
第2図 貝類組成 (最小個体数)



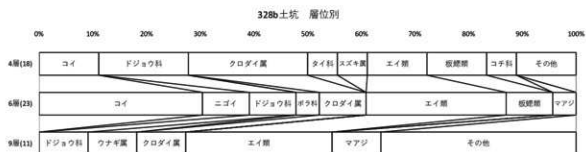
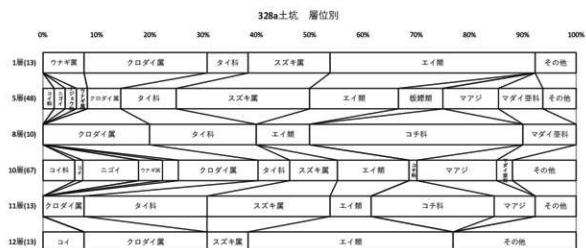
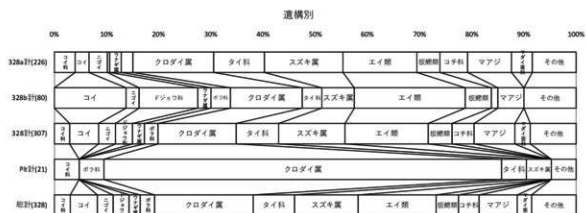
第3図 貝類組成 (重量)



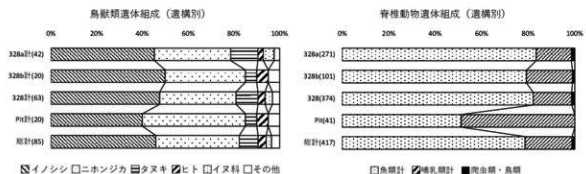
第4図 ヤマトシジミ殻長



第5図 ハマグリ殻長



第6図 魚類組成 (同定標本数)



第7図 鳥獣類・脊椎動物組成 (同定標本数)

第2表 328 粘土坑貝類集計-5mm-(1)

	ナルホ		ハイガイ		マカキ		オホノカヤ		マカヤ		シホウキ		ウチノシムヤ		ヤマトシシ		ハマリ		オホシシ		NISP	MNI	計	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右				
1層-a	1																				370	208		
2層-a																						186	108	
3層-a		1																				610	316	
4層-a		1																				526	278	
5層-a		2	1	1	4	1	2	3	2	5	3	472	62	134	133	3	1	1231	629	1	1000	547	1	
5層-b		1	1	4	2	4	3	1	1	2	429	404	100	43							140	72		
6層-a																					84	53		
9層-a																								
10層-a			2	10	2	1	1	1	1	1	412	389	86	71	2	1	979	515			763	388		
10層-b				1	4	1	1	1	1	1	199	226	48	55	1	536	288							
10層-c				1	6	1	1	1	1	1	301	321	71	76	2	783	410	1						
10層-d		1	1	1	1	1	1	1	1	1	254	224	54	60		596	317							
10層-e			2	2	1			1	2		186	197	54	58		501	259							
10層-f			1	1	4	1	1				296	293	87	81		763	388							
11層-a			1	1	1	1	1				100	102	20	23		248	127							
12層-a											138	142	35	32		347	177							
12層-b											43	49	11	7		110	60							
12層-c				1				1	1	1	74	68	17	12		174	93							
13層-a											69	72	17	3		161	89							
16層-a											9	1	2	5		17	14							
16層-b										1						12	11							
16層-c											3	8	2			13	10							
相六a											1					1	1							
一括a											100	93	16	14		223	116							
3層-a		1	1								70	79	22	30		203	110							
5層-a				1	2						109	141	33	36		322	180							
5層-b		5	4	1	7					5	2	427	414	102	124		1091	573						
5層-c		2	3	2	2	1	3	2	1	4	2	323	392	92	95	3	935	512						
6層-a		3	7	3	3	3	1	1	1	1	329	303	105	109	1	863	454							
7層-a			1								58	51	7	10		128	70							
10層-a		1			6	7		1	1	2	238	243	84	84	1	669	339							
10層-b		5	29	2	1	7	3	1	1	3	458	516	129	116	3	1281	700							
11層-a		3	3	1	3	1	1	1	1	1	462	429	81	89	2	1073	562							
11層-b							3				303	257	51	58	2	674	366							

第4表 328号土坑貝類集計-5mm-(3)

	ヤシガキ		ハナガイ		アサギ		オウガイ		ミナギ		シラギ		ウツガイ		ヤシガキ		ハナガイ		オウガイ		NISP MNI		アノコホ(母土)						
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	計								
F 9層-a																													
6層-a			16	18	4																								
6層-b			2	4																									
G 7層-a			1	3	1																								
8層-a																													
9層-a						1																							
D						3	1																						
E																													
F						1	6	2																					
G						19	25	6																					
328b計			10	1	1	20	31	11	1	14	13	2	1	2257	1036	1090	19	20	6725	3660									
総計	2	1	34	53	2	1	5	3	6	3	39	41	78	23	4	9	27	26	20	18	9333	9159	2782	2817	32	31	24553	13121	3

第5表 328号土坑貝類集計-5mm・重量-(1)

	イボキサゴ	オオタニシ	カワニナ	チリメンカワニナ	ウミナナ	アカニシ	アラムシロ	サルボオ	ハイガイ	マガキ	オオノガイ	マテガイ	シオフキ	ウネサトマヤ	ヤマトシジミ	アサリ	ハマグリ	オキシジミ	その他	計
A	1層-a							7	2					749		280				1039
	2層-a		1		1			1	1	8				428		163		1		602
	3層-a			1			1			6				1297		563		2		1867
	4層-a								1	4				1026		635				1666
	5層-a		1	0			0	10	8	91		1	6	1	2581	1540	26	4		4265
	5層-b	1	4		2	1		22	34	94		0	2	0	2201	1139	3	7		3502
	8層-a													304		181				485
	9層-a									0				122		111				233
	10層-a			2					11	102			19	2193		889	19	2		3233
	10層-b								5	21		1	1	1058		561	4	1		1650
	10層-c					1			5	42		2	1	1	1640	4	872	10	7	2577
	10層-d				0	2		7	8			1	0	1251	0	645	1	2		1915
	10層-e		2				1	2	8	15	1	1		979		855	3	3		1867
	10層-f						1	4	1	22				1364	4	602	4	4		2002
	11層-a						1		5	9				513		232	4			764
	12層-a													720		277				997
	12層-b							0	0	1				222	1	83			1	308
	12層-c									3				0	300	99			0	402
	13層-a													310	1	84			1	395
	16層-a													17		10				27
16層-b									1				23		12				36	
16層-c							1						18		12				31	
横穴a													5						5	
一括a						1	1	14					503		173				692	
B	3層-a						12	10						417		247				686
	5層-a				1		4	33						683		403				1125
	5層-b		2	3		5		15	56				1	2765	1	1539	5	7		4391
	5層-c		1	2	1	2		41	54	22	1	10	1	2173		1369	28	28		3703
	6層-a		1	5	0			4	45	2			0	2273	2	1455	6	10		3793
	7層-a	1		1					2					281		166	1	1		451
	10層-a		2						69	5	1	3		1367		1087	18	8		2551
	10層-b	0	2	16		5		21	83	13	1	2		2742		1336	26	32		4246
	11層-a	0	1	1	1	8		8		28			1	2365		1001	5	3		3419
	11層-b									13	0			1573		635	20	0		2242
	11層-c			1	2				16	16				1658		762	10	3		2466
	12層-a	1								1				4		16				22
	12層-b		0			1				1	2		1	0	274	0	224	5	3	509
A計	1	5	2	5	0	7	1	54	89	432	5	31	3	19824	10	10018	74	31	30559	
B計	2	1	9	30	1	22	20	100	409	44	4	16	3	18577	4	10240	122	97	29603	
328a計	3	6	11	35	1	29	1	74	189	841	44	9	46	5	38401	14	20259	196	128	60162
D	1層-a									0	2		2	515		93		2		611
	2層-a													349		189				537
	2層-b					42		1	0	6				216		139				405
	2層-c					9		0						67		45	0			121
	3層-a		1			1			0	2				66		75		1		145
	4層-a					7		1	10	5		5		389		586	4	5		1008
	4層-b					1				1				76		70				148
	6層-a		1			14			0	10	4		7	537		446	3	5		1022
	6層-b									9			5	104		252	2			372
6層-c			2						2			2	153		169			2	328	
6層-d									0				95		26				123	
7層-a												1	62		91		1		156	

第6表 328号土坑貝類集計-5mm・重量-(2)

	イホキサゴ	オオタニシ	カワニナ	チリメンカワニナ	ウミニナ	アカニシ	アラムシロ	サルボオ	ハイガイ	マガキ	オオノガイ	マテガイ	シオフキ	ウネナシトマヤ	ヤマトシジミ	アサリ	ハマグリ	オキシジミ	その他	計	
E	6層-a													1534	341	7				1882	
	7層-a		1			1	5					1	80	87	1	1	1			176	
	9層-a		1			1		6				2	438	599	15	1	1			1062	
F	1層-a		0					37	0	2			248	146	25	2	2			457	
	2層-a												144	51	3					198	
	4層-a					0							57	52						109	
	4層-b												45	31						76	
	4層-c									0			14	22	1					37	
	5層-a												35	41						76	
	6層-a											11	97	152	2					262	
	7層-a											2	84	169	9					264	
	7層-b											2	99	244						345	
	7層-c								8				111	616						756	
	7層-d								1				23	76						100	
	8層-a								0				20	21						41	
	9層-a												44	49						93	
G	6層-a							96	20	5			0	1758	1281	171	5			3330	
	6層-b							14	4					1300	868	15				2202	
	7層-a		0	1				10	5	3		9	0	1067	1233	13	4			2341	
	8層-a													88	164	0				253	
	9層-a								1					28	17					45	
D計			3		73		1	2	40	11		23		2630	2181	12	14			4975	
E計			2		2		5	6				2		2053	1028	22	2			3120	
F計			0		0		37	10	2	35				1021	1670	40	2			2815	
G計			0	1			121	29	7	9	0	4241		3563	198	8				8170	
328b計			6	1	76		5	166	79	20	69	0	9945	8441	272	27				19079	
総計		3	6	17	35	2	104	1	79	355	920	64	9	115	6	48346	14	28700	468	155	79241

第7表 328号土坑貝類集計-2.5mm-

		キセルガイ類		シオフキ		ウネナシトマヤ		ヤマトシジミ		ハマグリ		計
		左	右	左	右	左	右	左	右			
A	1層-a									5	5	10
	3層-a									5		5
	5層-a											0
	10層-a	1			5	3						9
	10層-c	1										1
	10層-f							3	2			5
	12層-a							2	1			3
B	6層-a		2		1	4	2	3	3	3		15
	11層-a				1	1		1	2			5

		キセルガイ類		シオフキ		ウネナシトマヤ		ヤマトシジミ		ハマグリ		計
		左	右	左	右	左	右	左	右			
D	1層-a											0
	4層-a									3	2	5
	6層-a									3	3	6
	7層-a							1	3			4
E	6層-a										1	1
	9層-a											0
F	4層-a											0
	7層-a							1		3	4	8
G	8層-a										3	1
計		2	2	0	6	5	5	3	34	24	81	

第9表 ヤマトシジミ計測結果

SRC	A										B										D				E		F											
	1a	2a	3a	4a	5a	5b	8a	10a	10b	10c	10d	10e	10f	計	3a	5a	5b	5c	6a	7a	10a	10b	計	1a	2a	4a	6a	計	6a	計	1a	-						
n	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	650	50	50	50	50	50	50	50	50	400	50	50	50	50	200	50	50	200	50	1350						
平均	28.8	27.6	30.7	29.1	30.5	30.1	26.7	30.4	30.7	30.5	29.9	32.0	31.9	29.9	28.3	28.9	30.7	30.2	29.8	26.5	30.1	30.2	29.3	26.2	26.2	26.1	28.0	26.6	27.8	27.2	29.1							
標準偏差	4.7	3.4	4.8	3.7	5.3	4.7	3.2	5.0	5.7	4.3	4.1	4.9	4.7	4.7	4.4	5.8	5.9	5.1	5.2	3.9	6.1	5.3	5.4	4.4	3.4	4.0	4.4	3.7	3.9	2.9	4.6	4.9						
最大	43	41	46	40	42	37	34	41	43	40	39	42	42	46	40	39	45	40	40	35	42	40	45	34	38	34	37	38	36	35	46							
最小	21	22	23	22	20	21	21	21	19	22	20	21	23	19	21	20	21	19	20	20	19	18	18	20	18	14	18	14	23	13	13							
-0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-22	2	1	0	1	3	2	1	3	1	1	1	1	0	17	3	5	5	2	2	5	1	2	4	0	11	1	0	3	0	4	0	1	2	0	0	1	20	0
-24	6	3	1	2	1	8	11	4	2	2	3	2	2	47	7	6	7	5	6	7	3	3	44	14	10	13	6	43	8	7	149							
-26	8	16	6	8	6	2	16	7	5	5	7	3	5	94	9	7	1	4	11	15	5	4	56	17	16	9	7	49	8	8	215							
-28	11	17	15	12	6	7	9	3	12	9	5	6	7	119	12	4	5	7	2	10	8	11	59	2	6	2	15	25	11	9	223	11	9	223	11	9	223	
-30	10	5	9	15	10	5	6	8	7	10	7	9	6	107	5	5	2	7	4	2	10	5	40	5	5	8	12	30	20	6	203	6	203					
-32	5	5	4	5	6	5	3	6	3	7	13	4	6	72	3	4	5	7	4	4	3	5	35	5	2	5	2	14	0	11	132	0	11	132				
-34	3	1	4	3	7	10	4	5	4	8	9	13	9	80	6	3	14	5	8	2	4	6	48	3	1	4	3	11	1	3	143	1	3	143				
-36	1	3	1	2	9	0	11	5	3	1	5	6	48	3	8	5	6	7	3	3	7	42	0	1	0	2	3	2	1	96	0	1	96					
-38	0	0	3	2	4	2	0	1	3	2	0	3	21	1	4	2	4	0	4	0	4	1	20	0	2	0	1	3	0	0	44	0	0	44				
-40	1	0	4	1	2	0	0	1	7	2	1	3	4	26	1	2	2	1	0	3	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-42	2	1	0	0	2	0	0	1	0	0	4	2	12	0	1	0	0	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-44	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-46	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第10表 ハマグリ計測結果

	段長												段高												積面高												
	A			B			D			F			全			A			B			D			F			全									
	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計	実測	推定	計							
n	126	425	551	110	227	337	7	124	131	20	130	150	271	196	1207	152	399	551	103	234	337	5	126	131	20	130	150	285	922	1207	550	337	131	150	1206		
平均	50.5	48.3	48.8	47.9	46.1	46.7	50.9	48.8	48.9	48.3	47.1	47.3	49.3	47.5	47.9	43.6	40.9	41.6	41.7	39.5	40.2	43.4	41.5	41.6	40.3	40.2	40.2	40.2	40.2	42.7	40.4	41.0	11.2	10.4	11.2	10.6	10.9
標準偏差	11.8	8.9	9.7	10.7	8.2	9.1	11.6	7.1	7.3	6.0	5.9	11.1	8.1	8.9	9.1	6.2	7.2	9.0	5.7	7.0	9.1	5.3	5.4	5.1	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
最大	84.0	80.6	84.0	83.0	70.9	83.0	70.9	84.0	80.6	84.0	72.0	60.6	72.0	75.0	58.1	73.0	56.0	65.0	54.0	58.1	58.1	73.0	65.0	65.0	54.0	58.1	58.1	73.0	65.0	73.0	34.0	20.0	20.0	18.0	24.0		
最小	33.0	12.9	12.9	31.0	6.0	38.0	32.3	32.3	41.0	35.5	35.5	31.0	16.0	6.0	28.0	24.3	24.3	27.0	26.7	26.7	31.0	29.1	30.0	31.5	30.0	27.0	24.3	24.3	34.0	4.0	5.0	6.0	7.0	4.0			
-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-15	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
-20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-30	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	4	6	4	10	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
-35	5	0	5	10	3	13	0	1	0	0	15	4	19	28	69	97	22	45	67	1	11	12	1	15	16	52	148	200									
-40	21	68	89	21	42	63	2	11	13	0	15	15	45	144	189	38	145	183	25	105	130	1	39	40	10	52	62	77	357	434							
-45	26	65	91	22	51	73	1	16	17	7	17	24	60	156	216	26	97	117	45	62	1	54	55	5	48	53	50	245	295								
-50	25	144	169	21	64	85	1	39	40	8	64	72	57	322	379	20	47	67	15	17	32	1	12	13	2	11	13	38	90	128							
-55	12	79	91	13	42	55	0	45	45	2	39	31	27	199	226	17	31	48	11	11	22	0	7	7	1	2	3	29	51	80							
-60	10	14	24	8	4	12	2	3	5	2	3	22	44	12	12	24	2	7	9	1	1	2	0	2	2	15	22	37									
-65	11	32	43	7	11	18	0	7	7	0	2	18	52	70	3	2	5	4	0	4	0	1	1	0	0	0	7	3	10								
-70	8	9	17	2	7	9	1	0	1	1	2	12	17	29	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0								
-75	3	9	12	4	1	5	0	1	1	0	1	7	12	19	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0								
-80	2	1	3	0	0	0	1	1	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
-85	3	2	5	2	0	0	0	0	0	0	6	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
-90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									

第 12 表 脊椎動物遺体同定結果一覧 (1)

種	部位	左右	位置	検出(込)	検出(数)	遺骨	単位	正認	nm	数値検出	検出		
サメ類	歯	-	-	-	1	種	328 哺乳類 b	4	D-D	a	5	128	2
サメ類	歯	-	-	-	1		328 哺乳類 a	-	①-2	a	5	173	1
トビエ科	歯	F	-	-	1		328 哺乳類 a	1	①	a	5	193	1
トビエ科	歯	F	-	-	1		328 哺乳類 a	5	A-A	b	5	88	3
トビエ科	歯	F	-	-	1		328 哺乳類 a	5	B-B	a	5	115	8
トビエ科	歯	F	-	-	1		328 哺乳類 b	-	①-1	a	5	187	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	1	A-A	a	1	297	1
エビ類	複骨	-	-	-	4	塊 2	328 哺乳類 a	1	A-A	a	2.5	277	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	3	A-A	a	2.5	280	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	4	A-A	a	5	86	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	A-A	a	1	302	1
エビ類	複骨	-	-	-	2		328 哺乳類 a	5	A-A	a	2.5	282	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	A-A	a	5	87	4
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	B-B	b	5	109	8
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	8	①	b	5	210	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	a	2.5	285	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	a	2.5	285	2
エビ類	複骨	-	-	-	3		328 哺乳類 a	10	A-A	c	1	307	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	c	2.5	288	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	f	2.5	291	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	f	2.5	291	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	B-B	b	5	118	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	11	B-B	a	5	115	4
エビ類	複骨	-	-	-	4		328 哺乳類 a	12	B-B	b	5	119	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	-	①-1	a	5	156	4
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	2	D-D	b	5	125	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	4	D-D	-	2.5	340	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	4	D-D	a	5	128	6
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	5	325	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	2.5	319	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	D-D	a	5	130	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	E-E	a	2.5	364a	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	E-E	a	5	135	1
エビ類	複骨	-	-	-	3		328 哺乳類 b	9	E-E	a	2.5	361a	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	11	B-B	a	1	328	1
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	11	B-B	a	1	328	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	11	B-B	a	2.5	322	2
エビ類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	-	①-4	a	5	190	1
エビ類	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	A-A	b	5	88	1
エビ類	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	B-B	a	5	109	10
エビ類	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	B-B	c	5	110	10
エビ類	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 a	12	A-A	a	2.5	295	
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	3	A-A	a	1	390	1
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	3	A-A	a	2.5	280	2
鼠鱗類	複骨	-	-	-	3		328 哺乳類 a	5	A-A	a	2.5	282	1
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	B-B	b	5	109	9
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 a	-	①-1	b	5	157	4
鼠鱗類	複骨	-	-	-	3		328 哺乳類 a	-	①-4	c	5	166	2
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	4	D-D	a	2.5	340	1
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	4	D-D	a	2.5	340	3
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	1	325	1
鼠鱗類	複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	6	E-E	a	2.5	364a	2
ウナギ属	第 1 複骨	-	-	-	1		328 哺乳類 b	9	E-E	a	1	361b	6
ウナギ属	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 a	1	A-A	a	1	297	2
ウナギ属	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 a	5	A-A	a	1	302	4
ウナギ属	尾椎	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	c	1	307	3
ウナギ属	尾椎	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	c	2.5	289	1
ウナギ属	尾椎	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	c	1	309	1
ウナギ属	尾椎	-	-	-	1		328 哺乳類 b	11	B-B	a	1	328	
ヒラ	尾椎	-	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	a	2.5	286	1
ニシン科	鰓橋	-	-	-	1		328 哺乳類 b	9	E-E	a	1	361b	1
コイ	喉頭蓋	-	A1	-	1		328 哺乳類 b	4	D-D	a	2.5	341	
コイ	喉頭蓋	左	A1	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	2.5	320	
コイ	喉頭蓋	左	A2	-	1		328 哺乳類 a	6	B-B	a	5	111	2
コイ	喉頭蓋	右	A2	-	1		328 哺乳類 a	12	A-A	a	2.5	295	
コイ	喉頭蓋	右	A2	-	1		328 哺乳類 a	-	①-3	a	5	162	3
コイ	喉頭蓋	右	A2	-	1		328 哺乳類 a	-	①-4	b	5	165	3
コイ	喉頭蓋	左	A2	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	2.5	320	
コイ	喉頭蓋	右	A2	-	1		328 哺乳類 b	-	①-1	a	5	177	2
コイ	喉頭蓋	右	A3	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	c	2.5	289	
コイ	喉頭蓋	右	A3	-	1		328 哺乳類 a	-	①-4	c	5	166	
コイ	喉頭蓋	右	A3	-	1		328 哺乳類 a	6	B-B	a	2.5	320	
コイ	喉頭蓋	右	A3	-	1		328 哺乳類 a	11	B-B	a	2.5	323	
コイ	喉頭蓋	右	B1	-	1		328 哺乳類 b	4	D-D	a	1	353	
コイ	喉頭蓋	左	B1	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	1	326	
コイ	喉頭蓋	右	B1	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	1	326	
コイ	喉頭蓋	左	B1	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	2.5	320	
コイ	喉頭蓋	右	B1	-	1		328 哺乳類 b	6	B-B	a	2.5	320	
ニゴイ	喉頭蓋	左	A1	-	1		328 哺乳類 a	5	A-A	a	5	87	
ニゴイ	喉頭蓋	右	A2	-	1		328 哺乳類 a	6	B-B	a	2.5	319	
ニゴイ	喉頭蓋	右	-	-	1		328 哺乳類 a	10	A-A	c	1	305	
ニゴイ	喉頭蓋	-	-	-	2		328 哺乳類 a	10	A-A	c	1	308	

第 13 表 脊椎動物遺体同定結果一覧(2)

種	部位	左右	位置	割合(左)	割合(右)	数	備考	標識	層位	注記	mm	整理番号	柱番号
ニゴイ	椎体前	右	-	-	-	2		328 号土灰 a	10	A-A	c	2.5	289
ニゴイ	椎体前	左	-	-	-	2		328 号土灰 a	10	A-A	f	1	311
ニゴイ	椎体前	右	-	-	-	1		328 号土灰 b	6	B-B	a	1	326
コイ科	前上頸椎	右	-	-	-	3		328 号土灰 a	3	A-A	a	25	280
コイ科	前骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 9
コイ科	前骨	左	-	-	-	1		F1980	3	-	-	5	266 1
コイ科	内骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	A-A	d	5	94 2
コイ科	方骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	B-B	a	5	109 15
コイ科	方骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 10
コイ科	前脚指骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-④	a	5	170 4
コイ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-④	a	5	170 3
コイ科	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	3	B-B	a	5	107
コイ科	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	A-A	c	1	307 2
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	A-A	a	1	302 3
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	4	D-D'	a	1	352 1
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	4	D-D'	a	1	352 2
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	4	D-D'	a	1	352 3
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	6	B-B	a	1	325 3
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	6	E-E	a	1	264 6
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	8	G-G'	a	1	378 1
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	8	G-G'	a	1	378 2
ドジョウ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	9	E-E	a	1	361b 7
ドジョウ科	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	7	D-D'	a	1	368 1
ボウ科	方骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-③	a	5	162
ボウ科	方骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	6	B-B	a	5	239
ボウ科	主脚指骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	4	⑤	a	5	196 1
ボウ科	主脚指骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 1
ボウ科	主脚指骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	⑤	a	5	200 1
ボウ科	主脚指骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 b	8	G-G'	a	5	151 1
ボウ科	主脚指骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 b	-	④-②	a	5	188 2
ボウ科	主脚指骨	左	-	-	-	1		F1952	6	⑤	a	5	229 2
ボウ科	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-④	c	5	166 3
サシガメ	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	A-A	a	2.5	293 4
コナ科	前上頸椎	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	8	⑤	a	5	199
コナ科	前上頸椎	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	8	⑥	c	5	212 1
コナ科	内骨	右	-	-	-	1	DH=7.3	328 号土灰 a	6	B-B	a	5	111 3
コナ科	内骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	8	⑥	c	5	212 3
コナ科	内骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 13
コナ科	前脚指骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	8	⑤	a	5	210
コナ科	前脚指骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	11	B	a	5	116
コナ科	前脚指骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	11	⑤	a	5	203
コナ科	前脚指骨	右	-	-	-	1	小	328 号土灰 b	4	D-D'	a	1	353
コナ科	基後頭骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	4	⑥	a	5	207
コナ科	基後頭骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	11	B-B	a	5	115 5
コナ科	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	9	A-A'	-	5	106 1
コナ科	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-③	a	5	162 1
スズキ属	主脚指骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	B-B	a	5	195 1
スズキ属	主脚指骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 b	4	D-D'	a	5	335
スズキ属	主上頸椎	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	6	B-B	a	5	111 5
スズキ属	前上頸椎	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	1	⑥	a	5	206 3
スズキ属	前上頸椎	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	B-B	a	5	109 2
スズキ属	前上頸椎	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 4
スズキ属	前上頸椎	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	12	B-B	c	5	120 1
スズキ属	前上頸椎	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-1	b	5	157 1
スズキ属	前上頸椎	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-2	b	5	160 1
スズキ属	前上頸椎	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-④	a	5	168 1
スズキ属	前上頸椎	左	-	-	-	1		328 号土灰 b	8	E-E	a	5	137 1
スズキ属	前骨	左	-	-	-	1	DH=11.3	328 号土灰 a	5	B-B	b	5	109 3
スズキ属	前骨	右	-	-	-	1	DH=10.2	328 号土灰 a	5	B-B	b	5	109 4
スズキ属	前骨	左	-	-	-	1	DH=7.6	328 号土灰 a	5	B-B	c	5	110 6
スズキ属	前骨	右	-	-	-	1	DH=9.1	328 号土灰 a	5	B-B	c	5	110 3
スズキ属	前骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	A-A'	a	2.5	291
スズキ属	前骨	左	-	-	-	1	DH=6.4	328 号土灰 a	11	A-A'	a	5	97 1
スズキ属	前骨	左	-	-	-	1	DH=8.8	328 号土灰 a	11	317'	-	17 2	
スズキ属	前骨	左	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-1	b	5	157 2
スズキ属	内骨	右	-	-	-	1	DH=6.6	F1992	11	⑤	a	5	268 1
スズキ属	内骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	1	⑥	a	5	206 5
スズキ属	内骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	11	B-B	c	5	117 1
スズキ属	方骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	B-B	a	5	109 11
スズキ属	方骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	6	B-B	a	5	119 1
スズキ属	方骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 7
スズキ属	方骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	B-B	b	5	114 8
スズキ属	方骨	右	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	B-B	c	5	110 4
スズキ属	前脚指骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	A-A'	a	5	87 3
スズキ属	前脚指骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	A-A'	a	5	87
スズキ属	基後頭骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	①-1	b	5	156
スズキ属	肩臼	右	-	-	-	1		328 号土灰 b	7	G-G'	a	5	190
スズキ属	第 1 椎骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	-	一括	-	105 3	
スズキ属	第 1 椎骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 b	8	E-E	a	5	137 2
スズキ属	腕骨	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	B-B	b	5	109 7
スズキ属	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	4	⑥	a	5	208 1
スズキ属	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	5	A-A'	b	5	88 4
スズキ属	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	A-A'	a	5	91 4
スズキ属	尾椎	-	-	-	-	1		328 号土灰 a	10	A-A'	c	2.5	288 3

第 14 表 脊椎動物遺体同定結果一覧(3)

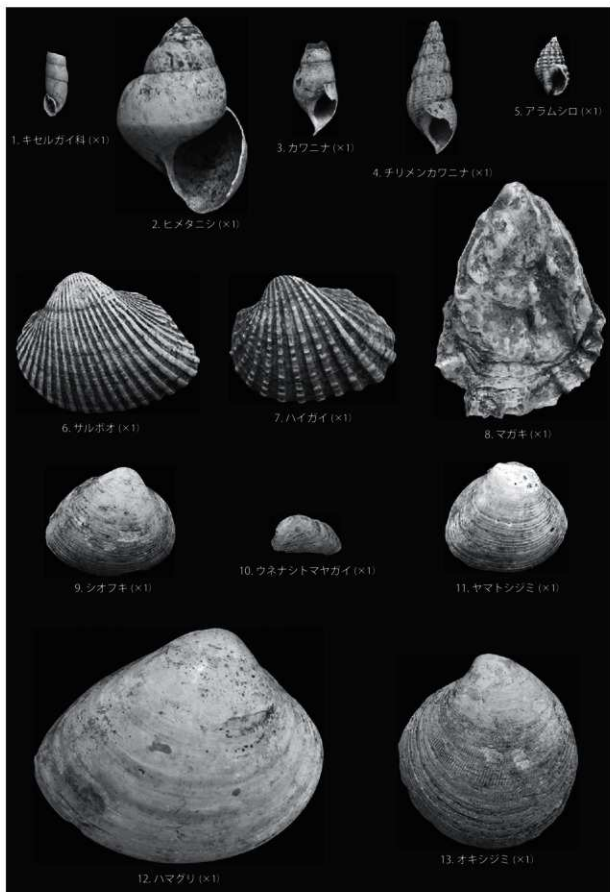
種	部位	左右	位置	割合(%)	割合(個)	数	備考	標本	部位	注記	mm	整理番号	枚層	
スズキ属	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	a	5	156	5
スズキ属	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 b	11	B-F	a	2.5	323	3
マアジ	歯	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	2.5	288	4
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	1	307	5
マアジ	歯	-	第 2	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	a	1	302	5
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	2.5	285	4
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	2.5	288	4
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	2.5	289	2
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	11	B-F	a	5	115	5
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 b	2	C-C'	c	5	132	1
マアジ	歯	-	-	-	-	1		328 母土坑 b	9	E-E'	a	1	361b	5
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	a	1	302	2
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	a	2.5	282	3
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	a	2.5	282	4
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	a	2.5	282	4
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	91	
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	1	307	4
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	d	5	94	
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	e	5	95	2
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	B-F	b	5	114	14
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	b	5	157	3
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-5	b	5	169	1
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-6	a	-	105	2
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-6	a	-	304	2
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 b	6	B-F	a	2.5	319	3
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 b	11	B-F	a	1	328	
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	B-F	b	5	114	6
マアジ	尾椎	-	-	-	-	1		328 母土坑 b	-	①-6	a	5	191	1
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	3	A-A'	a	5	85	1
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	b	5	88	6
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	5	A-A'	b	5	80	2
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	91	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	132	4
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	12	B-F	c	5	120	2
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-3	c	5	158	3
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	a	5	156	2
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	a	5	156	3
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-6	a	5	170	2
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-6	a	5	170	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-6	b	5	171	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-6	b	5	172	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 b	1	D-D'	a	5	123	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	2		328 母土坑 b	4	D-D'	a	5	128	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		328 母土坑 b	6	E-E'	a	5	135	2
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		328 母土坑 b	6	G-G'	a	5	148	1
マアジ	尾椎	左	-	-	-	2		P1952	北西側 6 層	-	①-5	5	223	1
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		P1952	北西側 6 層	-	①-5	5	223	1
マアジ	尾椎	左	-	-	-	1		P1958	-	15	-	33		
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		P1975	東側 6 層	-	①-5	5	254	1
マアジ	尾椎	右	-	-	-	1		P1979	-	3	-	73	1	
マアジ	歯	左	薄片	-	-	1	前上顎骨か?	328 母土坑 a	-	①-6	b	5	171	2
マアジ	歯	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	3	⑤	a	5	195	1
マアジ	歯	左	-	-	-	1	DH=12.5	328 母土坑 a	5	B-F	c	5	110	7
マアジ	歯	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	8	⑤	a	5	199	2
マアジ	歯	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	5	93	4
マアジ	歯	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	f	5	96	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	⑥	a	5	214	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1	DH=8.5	328 母土坑 a	12	B-F	c	5	120	3
マアジ	歯	右	-	-	-	1	DH=6.2	328 母土坑 a	12	⑤	a	5	204	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	b	5	157	6
マアジ	歯	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	b	5	157	5
マアジ	歯	右	-	-	-	1		328 母土坑 b	-	①-2	a	5	178	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1		P1952	北西側 6 層	-	①-5	5	218	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1		P1952	北西側 6 層	-	①-5	5	218	3
マアジ	歯	右	-	-	-	1	DH=7.1	P1973	-	47	-	62		
マアジ	歯	右	-	-	-	1		P1975	-	30	-	67		
マアジ	歯	右	-	-	-	1	DH=6.7	P1975	東側 8 層	-	①-5	5	261	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1		P1975	東側 8 層	-	①-5	5	262	1
マアジ	歯	右	-	-	-	1		P1992	北西側 11 層	-	①-5	5	271	1
マアジ	角骨	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	1	⑥	a	5	206	4
マアジ	角骨	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	8	⑥	a	5	210	2
マアジ	角骨	左	-	-	-	1		328 母土坑 b	4	D-D'	a	5	128	3
マアジ	方骨	左	-	-	-	1		328 母土坑 a	1	A-A'	a	2.5	277	4
マアジ	方骨	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	9	A-A'	a	5	90	2
マアジ	方骨	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	91	3
マアジ	方骨	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	10	⑥	a	5	214	3
マアジ	方骨	右	-	-	-	1		328 母土坑 a	11	B-F	a	5	175	3

第 15 表 脊椎動物遺体同定結果一覧(4)

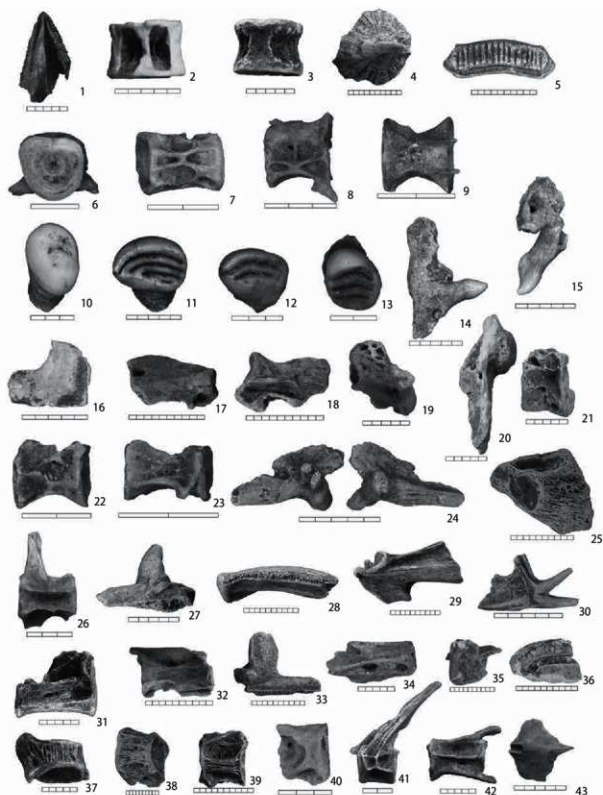
種	部位	左右	位置	割合(左)	割合(右)	数	備考	種別	部位	注記	mm	整理番号	枚数	
ウロダイ属	方骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-1	c	5	158	5
ウロダイ属	方骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-3	b	5	163	5
ウロダイ属	方骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 b	4	D-D'	a	5	128	4
ウロダイ属	方骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(4)-2	a	5	188	1
ウロダイ属	口蓋骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	1	A-A'	a	2.5	277	2
ウロダイ属	口蓋骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	91	1
ウロダイ属	口蓋骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 b	9	F-F'	a	5	147	1
ウロダイ属	口蓋骨	右	-	-	-	-		F2018	-	3	-	-	82	1
ウロダイ属	主眼窩骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	B-B'	b	5	114	3
ウロダイ属	主眼窩骨	右	-	-	-	-		P1975	-	6	-	-	265	1
マダイ属科	主上顎骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 a	8	(5)	a	5	199	3
マダイ属科	主上顎骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	B-B'	b	5	114	12
マダイ属科	主上顎骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	B-B'	b	5	114	12
マダイ属科	前上顎骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	A-A'	a	5	88	5
マダイ属科	角骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	B-B'	c	5	110	9
マダイ属科	口蓋骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	B-B'	c	5	110	8
マダイ属科	前上顎骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	B-B'	b	5	109	1
マダイ属科	上歯槽骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	9	A-A'	a	5	90	1
マダイ属科	上歯槽骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-3	b	5	157	3
タイ科	角骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 a	9	(5)	a	5	213	1
タイ科	舌骨	左	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-2	c	5	161	2
タイ科	第1椎骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	11	B-B'	a	5	115	1
タイ科	第1椎骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	2	D-D'	b	5	125	2
タイ科	第1椎骨	-	-	-	-	-		P1976	9	(6)	a	5	238	1
タイ科	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	A-A'	a	5	87	5
タイ科	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	B-B'	c	5	110	5
タイ科	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	B-B'	b	5	114	5
タイ科	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-5	b	5	169	2
タイ科	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	-	(1)-5	a	5	185	1
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	3	B-B'	a	5	107	1
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	A-A'	a	5	87	6
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	A-A'	b	5	88	7
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	B-B'	b	5	109	8
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	8	(5)	a	5	199	1
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	8	(5)	a	5	199	4
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	a	2.5	285	3
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	(5)	a	5	214	2
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	11	B-B'	a	5	115	2
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	11	B-B'	c	5	117	2
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-4	c	5	168	4
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-4	c	5	158	2
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-3	b	5	163	3
タイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	4	D-D'	a	5	128	7
タイ科	血管腔隙	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	1	A-A'	a	5	83	1
ハヤシ科	第1椎骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	9	E-E'	a	1	361c	3
サウ属	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	12	A-A'	c	5	100	1
サウ属	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	c	2.5	286	2
サウ属	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	c	5	96	3
サウ属	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	8	G-G'	a	2.5	375	1
ヒラマ科	角骨	右	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	91	2
ヒラマ科	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	9	(5)	a	5	213	2
ヒラマ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	5	B-B'	b	5	109	9
ヒラマ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	c	5	93	2
カレイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	91	4
カレイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	d	5	94	1
カレイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	12	A-A'	a	2.5	294	1
カレイ科	尾椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-3	b	5	163	4
ウシノシタ上科	フグ科	前上顎骨	右	-	-	-		328 母土坑 a	11	(5)	a	5	203	1
フグ科	側骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	4	D-D'	a	5	128	5
フグ科	主眼窩骨	右	-	-	-	-		P1995	-	(7)	-	-	262	2
ホウゴウ属	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	12	A-A'	a	2.5	294	3
ホウゴウ属	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	9	E-E'	a	1	361b	4
ホウゴウ属	腹椎	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	9	E-E'	a	1	361b	3
ヘビ目	椎骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	1	A-A'	a	2.5	277	3
ヘビ目	椎骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	3	A-A'	a	2.5	280	3
ヘビ目	椎骨	-	ae	-	-	-		328 母土坑 a	10	A-A'	f	2.5	291	5
ヘビ目	椎骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 b	6	E-E'	a	2.5	364a	1
ネコ科	頭蓋骨	-	切歯骨	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-4	b	5	165	1
高野	大顎骨	7	c	x	x	x		328 母土坑 a	10	(8)	-	-	4	1
ヒト	上/下顎	7	di	-	-	-		328 母土坑 a	11	B-B'	a	5	193	2
ヒト	前歯	右	d	x	x	x		328 母土坑 b	6	D-D'	a	2.5	344	1
ヒト	前歯	右	d	x	x	x		P1954	-	2	-	-	51	1
タヌキ	頭蓋骨	右	切歯骨	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-1	c	5	158	5
タヌキ	頭骨	-	ae	-	-	-		328 母土坑 b	8	D-D'	b	5	133	1
タヌキ	頭骨	-	-	-	-	-		328 母土坑 a	-	(1)-3	b	5	163	1
タヌキ	上顎骨	左	a	c	x	1		328 母土坑 a	5	(8)	-	-	5	1
タヌキ	上顎骨	左	de	x	c	1		328 母土坑 a	-	(1)-1	c	5	158	1
タヌキ	中歯骨	左	w	-	-	-		328 母土坑 a	1	(8)	a	5	193	2
タヌキ	歯骨	左	ab	-	-	x		P1975	-	(6)	a	5	259	1
イヌ科	頭蓋骨	左	後頭眼	-	-	-		328 母土坑 a	5	A-A'	a	5	87	2
イヌ科	頭蓋骨	右	後頭眼	-	-	-		328 母土坑 a	5	A-A'	a	5	87	1
アブマ?	中手/中足骨	-	abd	c	x	1		P1952	-	(8)	-	-	229	1
イノシシ	頭蓋骨	左	側頭骨	-	-	-		328 母土坑 a	5	173	-	-	11	1
イノシシ	頭蓋骨	左右	口蓋骨	-	-	-		328 母土坑 a	8	(5)	a	5	210	3

第 16 表 脊椎動物遺体同定結果一覧 (5)

種	部位	左右	位置	割合 (左)	割合 (右)	数	備考	遺構	部位	注記	mm	整理番号	検数		
イノシシ	頭蓋骨	右	前骨	-	-	-		328 母土坑 b	4	D-D	b	5	129	1	
イノシシ	頭蓋骨	左	口蓋骨	-	-	-		328 母土坑 a	-	①-3	a	5	186	1	
イノシシ	頭蓋骨	左右	額骨	-	-	-		P1949	-	-	-	-	48	1	
イノシシ	上歯	左	s1	-	-	1		328 母土坑 a	1	①	a	5	206	1	
イノシシ	上歯	右	l1	-	-	1		328 母土坑 a	4	A-A'	a	5	80	1	
イノシシ	上歯	左	P1	-	-	1		328 母土坑 a	4	①	a	5	206	2	
イノシシ	上歯	右	l2	-	-	1		328 母土坑 a	5	B-B'	a	5	115	7	
イノシシ	上歯	右	P4	-	-	1		328 母土坑 a	6	B-B'	a	5	115	1	
イノシシ	上歯	右	l1	-	-	1		328 母土坑 a	8	①	a	5	199	1	
イノシシ	上歯	左	ob1	-	-	1		328 母土坑 a	12	B-B'	a	5	130	4	
イノシシ	上歯	左	cp2	-	-	1		328 母土坑 b	-	①-3	a	5	159	1	
イノシシ	上歯	左	(P4)	-	-	1		P1973	群馬県南側	-	①	5	245	1	
イノシシ	上歯	右	C	-	-	1	♂	P1979	-	11	-	-	74	1	
イノシシ	上歯	左	(M1)	-	-	1		P1998	5	-	-	-	275	1	
イノシシ	下顎骨	?	角	-	-	1		328 母土坑 a	11	317	-	-	17	1	
イノシシ	下顎骨	左	(M3) 角	-	-	1	収縮 = score M3 = x	328 母土坑 b	2	235	-	-	32	1	
イノシシ	下顎骨	右	角	-	-	1	cut 片断	P1997	-	5	-	-	81	1	
イノシシ	下歯	左	dp4	-	-	2		328 母土坑 a	1	a	5	206	1		
イノシシ	下歯	右	(M1, M2)	-	-	1	M1 = V1, M2 = B, ɷ	328 母土坑 a	10	81	-	-	2	1	
イノシシ	下歯	左	(M2)	-	-	1	M2 = V8, j	328 母土坑 a	10	416	-	-	22	1	
イノシシ	下歯	左	dp2	-	-	1		328 母土坑 a	-	170	-	-	8	1	
イノシシ	下歯	左	l2	-	-	1		328 母土坑 b	2	236	-	-	33	1	
イノシシ	下歯	左	dp2	-	-	1		328 母土坑 b	-	①-4	a	5	177	1	
イノシシ	下歯	右	M1	-	-	1	M1 = V1, j	328 母土坑 b	-	①-4	a	5	184	1	
イノシシ	下歯	右	M1, M2	-	-	1	別個	328 母土坑 a	-	①-5	a	5	185	2	
イノシシ	下歯	左	M3	-	-	1	M3 = b	328 母土坑 b	-	一括	-	-	42	1	
イノシシ	上肢骨	右	e	x	c	1	収縮 = score	P1997	-	3	-	-	80	1	
イノシシ	脛骨	右	e	x	e	1		332 母土坑	-	3	-	-	44	1	
イノシシ	第 4 中手骨	右	e	x	d	1		P1975	-	51	-	-	68	1	
イノシシ	寛骨	左	Eb	-	-	1		328 母土坑 a	-	一括	A-A'	-	105	1	
イノシシ	大腿骨	左	a	c	x	1	骨端	328 母土坑 a	5	187	-	-	287	1	
イノシシ	脛骨	左	abcde	-	-	1	別個	P1977	-	12	-	-	63	1	
イノシシ	脛骨	左	abcde	-	-	1		P1973	-	97	-	-	63	1	
イノシシ	中手 / 中足骨 3/4	?	e	x	e	1		328 母土坑 a	8	①	c	5	212	2	
イノシシ	中手 / 中足骨 3/4	?	e	x	c	1		328 母土坑 a	11	B-B'	a	5	115	3	
イノシシ	中脚骨 2/5	?	abcde	x	d	1		328 母土坑 a	10	A-A'	e	5	95	1	
イノシシ	中脚骨 2/5	?	abcd	x	x	1		328 母土坑 b	-	①-7	a	5	192	1	
ニホンツグ	下顎骨	左	齧切歯	-	-	1	P2 前で付いている	328 母土坑 a	6	B-B'	a	5	130	6	
ニホンツグ	下顎骨	左	臼歯	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	a	5	156	1	
ニホンツグ	下顎骨	左	頰突突起	-	-	1		328 母土坑 b	5	108	-	-	25	1	
ニホンツグ	下顎骨	左	新突突起	-	-	1		328 母土坑 b	5	108	-	-	25	2	
ニホンツグ	下歯	右	M2	-	-	1	M2=5	328 母土坑 a	10	82	-	-	3	1	
ニホンツグ	下歯	左	dp3	-	-	1		328 母土坑 a	12	A-A'	a	5	98	1	
ニホンツグ	下歯	右	P2	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-1	a	5	156	2	
ニホンツグ	下歯	右	dp3	-	-	1		328 母土坑 a	-	①-4	b	5	165	2	
ニホンツグ	下歯	右	(P3-M4)	-	-	1	M1=2	P1952	-	16	-	-	37	1	
ニホンツグ	下歯	右	l1	-	-	1		P1973	-	16	-	-	57	1	
ニホンツグ	角	?	破片	x	x	1	全体研磨	328 母土坑 a	10	A-A'	e	5	95	1	
ニホンツグ	角	?	破片	-	-	1	標尺測定	P1992	-	40	-	-	78	1	
ニホンツグ	胸骨	-	d	-	-	1		328 母土坑 b	7	253	-	-	35	1	
ニホンツグ	胸骨	-	de	-	-	1		332 母土坑	-	2	-	-	43	1	
ニホンツグ	脛骨	右	ab	c	x	1		328 母土坑 a	5	B-B'	c	5	130	1	
ニホンツグ	脛骨	左	abcd	c	c	1		328 母土坑 b	8	270	-	-	37	1	
ニホンツグ	脛骨	右	a	c	x	1	β=37.2	P1983	-	2	-	-	75	1	
ニホンツグ	中手骨	右	ab	c	x	1	α=92	P1952	-	11	-	-	49	1	
ニホンツグ	寛骨	右	腰・目	x	x	1		328 母土坑 a	4	178	-	-	33	1	
ニホンツグ	脛骨	右	cd	x	c	1	bd=36.8	328 母土坑 b	4	215	-	-	30	1	
ニホンツグ	脛骨	右	abcde	-	-	1	GI=40.5, GI m = 36.8, β=25.4 GI=44.2, GI m = 40.3, β=26.3	328 母土坑 a	11	323	-	-	68	1	
ニホンツグ	脛骨	左	abcde	-	-	1		P1973	-	54	-	-	11	1	
ニホンツグ	脛骨	右	e	x	e	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	5	206	1	
ニホンツグ	脛骨	右	bcd	x	d	1		328 母土坑 a	10	448	-	-	20	1	
ニホンツグ	脛骨	左	a	-	x	1	前面 収縮 = pitting	P1975	-	79	-	-	72	1	
ニホンツグ	足骨 C+4	右	abcde	-	-	1	外側 (破片)	P1972	-	4	-	-	56	1	
ニホンツグ	脛骨	右	abcde	-	-	1		P1973	群馬県西側 4 種	-	-	-	5	251	1
ニホンツグ	中足骨	?	e	x	c	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	5	93	1	
ニホンツグ	基節骨	?	abcde	c	c	1		328 母土坑 a	12	B-B'	b	5	119	1	
ニホンツグ	基節骨	?	bcd	x	c	1	内 / 外側	328 母土坑 b	2	230	-	-	3	1	
ニホンツグ	基節骨	?	e	c	c	1		328 母土坑 b	6	G-G'	a	5	148	1	
ニホンツグ	基節骨	?	ab	c	c	1		P1992	-	29	-	-	77	1	
ニホンツグ	中脚骨	?	abcde	c	c	1		328 母土坑 a	-	①-2	a	5	159	1	
ニホンツグ / イノシシ	脛骨?	?	ed	-	d	1		328 母土坑 a	5	B-B'	b	5	109	6	
ニホンツグ / イノシシ	基節骨 / 中脚骨	?	e	x	c	1	前	328 母土坑 b	1	F-F'	a	5	138	1	
ニホンツグ / イノシシ	末脚骨	?	a	c	x	1		328 母土坑 a	-	一括	A-A'	-	106	2	
ノウネウ	脛骨	右	abcde	c	c	1		328 母土坑 b	1	F-F'	a	5	138	2	
小狐類	脛骨	右	e	x	c	1		P1975	東側 8 層	-	①	5	260	2	
小狐類	中手 / 中足骨	?	e	x	c	1		328 母土坑 a	-	①-3	b	5	163	2	
小狐類	中手 / 中足骨	?	de	x	c	1	側	P1975	東側 6 層	-	-	-	253	1	
小狐類	中手 / 中足骨	?	cde	x	c	1		P1975	東側 6 層	-	①	5	260	1	
小狐類	中手 / 中足骨	?	e	x	c	1		P1975	東側 8 層	-	①	5	260	2	
小狐類	指骨	?	abcde	c	c	1		328 母土坑 a	5	A-A'	a	5	87	7	
小狐類	指骨	?	abcde	c	c	1		328 母土坑 a	10	A-A'	c	2.5	288	4	
小狐類	指骨	?	abcde	c	c	1		328 母土坑 a	10	A-A'	a	2.5	291	8	
小狐類	指骨	?	abcde	d	c	1		328 母土坑 b	9	E-E'	a	2.5	361	2	



第8図 出土貝類



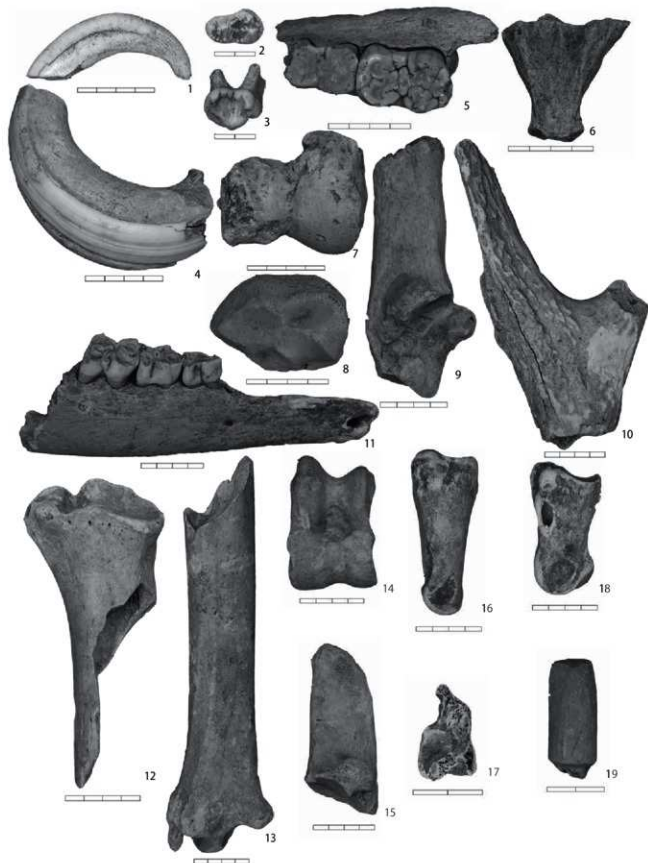
サメ類[1.歯、2.椎体] エイ類[3.椎体、4.鰓鱗] 5.トビエイ科・歯 ウナギ属[6.第一椎骨、7.腹椎、8.尾椎] 9.ニシン科・腹椎 コイ・
 咽喉歯[10.A1左、11.A2右、12.A3右、13.B1左] ニゴイ・咽喉歯[14.A1左、15.A3~5?右] コイ科[16.前上顎骨・右、17.歯骨・左、
 18.角骨・右、19.方骨・右、20.舌顎骨・左、21.腹椎] ドジョウ科[22.腹椎、23.尾椎] ボラ科[24.方骨・左、25.主髭蓋骨・右] 26.サヨ
 リ属・腹椎 コチ科[27.前上顎骨・右、28.歯骨・右、29.角骨・右、30.前髭蓋骨・左、31.腹椎、32.尾椎] スズキ属[33.前上顎骨・左、34.
 歯骨・右、35.方骨・右、36.耳石・右、37.第一椎骨、38.腹椎、39.尾椎] マアジ[40.歯骨・右、41.腹椎、42.尾椎、43.稜鱗]
 *スケール 1目盛=1mm

第9図 魚類(1)



クロダイ属[1.主上顎骨・右, 2.前上顎骨・右, 3.歯骨・右, 4.口蓋骨・右, 5.角骨・右, 6.方骨・左, 7.主腮蓋骨・右] マダイ[8.主上顎骨・左, 9.前上顎骨・右, 10.口蓋骨・右, 11.角骨・左, 12.上後頭骨] タイ科[13.舌顎骨・左, 14.第一椎骨, 15.胸椎, 16.尾椎, 17.血管間棘]
 18.ハゼ科・第一椎骨, 19.サハ属・尾椎, ヒラメ科[20.角骨・右, 21.尾椎] 22.カレイ科・尾椎, 23.ウシノシタ上科・尾椎, フグ科[24.前上顎骨・右, 25.歯骨・右, 26.主腮蓋骨・右], 27.ヘビ類・椎骨, 28.キジ科・切歯骨, ヒト[29.上顎M2・右, 30.腓骨・右], タヌキ[31.切歯骨・右, 32・33.上腕骨・左, 34.踵骨・左, 35.頸椎, 36.腰椎], 37.イヌ科・後頭骨, 38.アマガマ?・中手/中足骨
 *スケール1目盛=1mm

第10図 魚類(2)、爬虫類、鳥類、哺乳類(1)



イノシシ[1.上顎1・左, 2.上顎dp3・左, 3.上顎P4・左, 4.上顎C・右(雄), 5.上顎M12・右, 6.蝶形骨, 7.上腕骨・右, 8.桡骨・右, 9.踵骨・左]
 ニホンシカ[10.角, 11.下顎骨・右, 12.桡骨・右, 13.脛骨・右, 14.距骨・右, 15.踵骨・右, 16.基節骨, 17.中節骨] 18.ノウサギ・距骨・右,
 19.鹿角加工品 *スケール1目盛=5mm

第11図 哺乳類(2)

2 道合遺跡出土の人骨

国立科学博物館 人類研究部・人類史研究グループ
梶ヶ山眞里・中山なな・坂上和弘・中塚彰子

1. はじめに

道合遺跡は、東京都北区赤羽台2丁目に所在する縄文時代の遺跡である。周辺からは縄文時代後期堀之内1・2式の土器や土坑などが出土している。

人骨は、長径48.0cm×短径45.0cm×深さ32.2cmの土抗におおむね1体分の骨が検出されたが、右鎖骨は2点あり、単体埋葬墓ではない。

2. 人骨所見

人骨は以下の通り取上時にNO.1から87まで付番され、各番号の骨の部位は表1に示す通りである。また、図1に残存部位を示した。

頭蓋骨

頭蓋骨は、左側頭骨から頭蓋底が大きく破損している。頭蓋冠の最大長、最大幅をかるうじて計測できる。顔高は頭蓋底が大きく破損するので正確にはわからない。額の湾曲は弱く膨隆していない。三主縫合は外板でも内板でも開いている。縫合の走向は単純で、縫合骨は確認できない。顔面は、左頬骨が破損している。右頬骨から受ける顔面の印象は、寸が詰まり幅広い印象で、縄文時代特有の形態である。眉間から眉弓に至る隆起は、眉間と鼻根部の境は強く陥凹し、連続する鼻背は非常に高く隆起している。鼻骨垂線、前頭骨平坦示数、鼻根骨平坦示数が大きく、縄文時代人(中期・後期・晩期)男性のなかでも非常に立体的な顔面である。眼窩形は長方形を呈し、横軸の傾斜が弱い。現代日本人より角張っており、眼窩上縁は直線的である。顔面は縄文特有とはいえ、全体として顔高はそれほど低くはない。眼窩高が平均的であることから低顔ではないことが類推される。上顎骨の歯列は大きく、歯並びは整っている。右頬上顎突起は前後方向に向き、前頭骨、上顎骨も立体的である。右側頭骨乳様突起は先端が破損しつつも、全体的に大きく頑丈である。外耳孔は大きな円形を呈する。明らかに男性的特徴である。

下顎骨

下顎骨正中付近が大きく破損し、左右下顎体が断片的に残っているだけである(NO.16, 20)。上下歯の保存状態は歯式の通りである。

第1表 上下歯の遺存状態

6	5	4	○	○	○	○	×	4	5	6	7	
7	○	/	/	/	/	/	/			○	7	8

○=歯が死後脱落、歯槽開放

×=歯が生前脱落、歯槽閉鎖

/=歯槽骨が破損

歯の咬耗は象牙質が露出している。Lovejoyの5に相当する。上顎左側切歯の歯槽は完全に閉鎖しているものの、右側切歯の歯槽は開いているものの、その歯槽の内部には骨増殖があり、通常の歯槽孔よりも狭くなっており、歯槽閉鎖の途中の状態である。左右上顎側切歯は抜歯できる可能性が高く、その抜歯には時間差があると推測される。

鎖骨 右鎖骨2点、左鎖骨1点が確認できる。3点とも非常によく似た形態で、骨体は前後に扁平であり烏口靭帯などの各靭帯付着部は面になり、それらの辺縁は鋭い稜となっている。NO.52左鎖骨とNO.60右鎖骨が対になる可能性が高い。

上腕骨 NO.27とNO.40はそれぞれ骨体の中央部から遠位端にかけて保存されている。現代人のそれらに比べ骨体内側面が平坦で、三角筋粗面の隆起が明瞭で、縄文時代人の特徴を示している。

尺骨 遠位部が破損している。骨体は扁平で最大径は骨間縁と後縁との間にある(19.5mm)。示数71.8は真正扁平尺骨である。

大腿骨 右大腿骨は骨体中央部分が30cm、左大腿骨は骨体中央部分が15cm保存されている。後面粗線を縦走する大腿骨稜が高く隆起する。右大腿骨の骨体周は95mm、示数79.4(矢状径34mm/中央横径27mm)でいわゆる柱状大腿骨である。左大腿骨はそれよりもやや細い(骨体周90mm)。骨体上部の扁平性は確認できない。

脛骨 右脛骨は骨体近位半が保存されている。きわめて太く(最小径24mm/最大径32mm)、いわゆる扁平脛骨である。後面中央には一本の骨稜が縦走している(沿直線)。縄文時代の脛骨の特徴をよく表している。

寛骨 NO.17,18,43が寛骨、およびその破片である。大坐骨切痕は明確ではないが、切れ込みは弱い印象である。NO.43は左坐骨部分である。

その他 足根骨や指骨が保存されている。左踵骨、右舟状骨、左立方骨、左中足骨、左基節骨などが断片的に残っている。肋骨には加齢の特徴である、管状に骨化した肋軟骨が確認できる。

3. まとめ・考察

直径48cm×深さ32cmほどの土坑から、おおむね1体分の骨が検出されたが、右鎖骨が2点重複して出土している。主人骨は、歯の咬耗や肋骨の骨化状態から判断して壮年期であり、頭の形態から男性個体である。重複する右鎖骨も、その形態から判断する限り成人男性のものである。再葬する際の混入か、意図的なものかはわからない。

顔面は縄文時代男性として低くはない。また、眉間の隆起と鼻根部の陥凹が極めて強く、表2頭蓋計測値をみると鼻骨垂線、前頭骨平坦示数、鼻根骨平坦示数が大きく、比較するどの縄文時代人(中期・後期・晩期)男性よりも立体的であることがわかる。顔幅の張り出しは、左顔面の破損により幅方向の計測はできないが、右頬骨前頭突起はやや斜め後方に向き、顔幅がやや狭い印象である。四肢骨では、上腕骨では三角筋が発達し、骨体内側面が平坦で、尺骨は真性扁平尺骨、大腿骨は柱状大腿骨、脛骨は非常に扁平で、いわゆる沿直線と言われる後面中央に骨稜が縦走する。腓骨は巨大腓骨で、縄文的な特徴が顕著にみられる。縄文時代後晩期の人として典型的である。

上顎左右側切歯には抜歯風習痕がみられる。春成氏によるとI2/I2様式の抜歯風習は哀悼抜歯あるいは服喪抜歯に関連し、日本では縄文時代中期から存在するとされている(春成2000)。今回は下顎骨の抜歯風習は確認できず、今後の類例の増加を期待したい。

参考文献

春成秀爾 2000 「哀悼抜歯 アジア・アメリカ・ポリネシアをつなぐ習俗」

国立歴史民俗博物館研究報告 第 83 集

C. Owen Lovejoy 1985 Dental Wear in the Libbon Population of Adult Skeletal Age at Death. *Am.J.Phys.*

Anthropol. 68:47-56

第 2 表 取上番号と人骨部位

人骨番号		人骨番号		人骨番号	
1	骨片	38	椎体 (胸椎)	75	肋骨
2	骨片	39	右脛骨	76	左第 1 中足骨
3	骨片	40	右上胸骨	77	椎体 (椎弓)
4	骨片	41	左尺骨	78	肋骨
5	骨片	42	右尺骨	79	胸椎
6	骨片	43	頭蓋骨	80	椎体 (胸椎)
7	骨片	44	肋骨	81	骨片
8	骨片	45	肋骨	82	肋骨
9	骨片	46	椎弓	83	胸椎
10	骨片	47	犬歯	84	肋骨 指骨
11	骨片	48	左大腿骨	85	椎体 (胸椎)
12	骨片	49	骨片	86	左第 2 中手骨
13	骨片	50	骨片	87	指骨
14	骨片	51	左鎖骨		
15	下顎骨体片	52	肋骨		
16	右下顎骨第 2 大臼歯	53	骨片		
17	寛骨片	54	骨片		
18	寛骨片	55	椎弓		
19	骨片	56	肋骨		
20	左下顎 大臼歯 2 点	57	右船状骨		
21	骨片	58	右鎖骨 1		
22	下顎骨体片	59	肋骨		
23	骨片	60	右鎖骨 2		
24	骨片	61	椎骨		
25	骨片	62	左立方骨		
26	脛骨	63	頭骨片		
27	左上胸骨	64	椎骨		
28	右大腿骨	65	肋骨		
29	骨片	66	骨片		
30	指骨片	67	椎骨		
31	破片	68	肋軟骨骨化		
32	肋骨	69			
33	破片	70	大腿骨骨頭		
34	脛骨	71	肋骨		
35	左橈骨	72	左第 2 基節骨		
36	骨片	73	左第 2 中足骨		
37	中手骨	74	左踵骨		

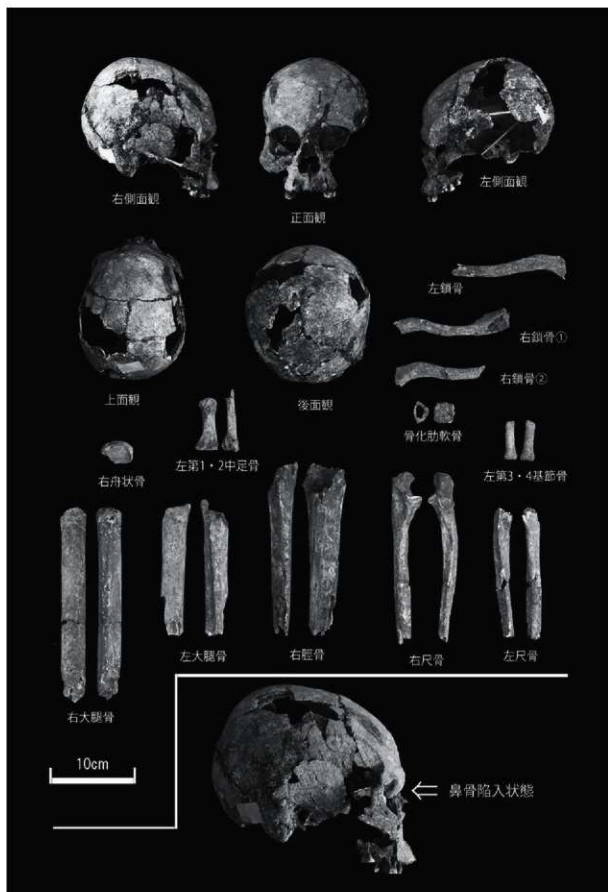
第3表 頭蓋計測値

計測項目	連合通測		縄文人 (中・後・晩期)		現代人平均		現代日本人 標準偏差
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性 女性
1. 頭蓋最大長	180.0	184.2	176.3	181.1	173.1	173.1	6.03 7.14
5. 頭蓋基底長		103.1	96.9	101.5	95.8	95.8	4.81 4.77
6. 頭蓋最大幅	144.0	144.8	141.8	139.5	134.3	134.3	5.06 5.33
9. 最小脳容積	97.0	97.3	95.6	91.1	89.9	89.9	4.30 4.27
17. バジオン・プレグマ高		135.8	129.8	136.3	130.3	130.3	4.54 4.16
40. 顔長		102.6	95.6	97.5	94.5	94.5	5.07 5.19
45. 頬骨弓幅		141.3	132.9	133.4	125.5	125.5	5.84 5.63
46. 中顔幅	* 100	104.0	99.8	98.6	94.1	94.1	5.28 5.63
48. 上顔高		64.0	65.6	62.2	69.0	65.4	4.17 4.08
51. 眼窩幅 (mf)		40.0	43.0	41.7	40.2	39.3	2.04 1.96
52. 眼窩高		33.0	33.3	32.7	35.1	34.7	1.77 1.40
54. 鼻幅		25.5	26.6	25.5	25.7	24.9	2.46 1.66
55. 鼻高		47.0	48.3	45.0	52.0	49.5	3.07 3.20
57. 鼻骨最小幅		9.7	10.2	9.3	7.2	7.4	1.91 1.40
FC. 前額骨弦長 (fmo-fma)		94	99.6	97.6	97.8	92.6	4.29 3.51
FS. 前額骨幅		20.1	16.4	14.4	16.3	14.3	2.08 2.23
SC. 鼻骨弦長 (鼻骨最小幅)		9.5	10.2	9.3	7.2	7.4	1.91 1.40
SS. 鼻骨骨線長		5	4.6	3.2	2.7	2.2	0.97 0.77
ZMS. 額上顎骨線長		22.6	21.8	23.6	22.3	22.9	2.28 2.28
8/I. 頭蓋長幅示数		78.8	80.4	77.0	77.7	75.9	2.59 3.98
9/各. 額前頭頂示数		67.0	67.0	67.4	67.0	2.73	3.62
17/I. 頭蓋長高示数		73.3	73.4	75.5	75.4	2.42	3.78
17/8. 頭蓋幅高示数		93.9	91.7	98.0	97.1	3.68	4.01
48/45. 上顔示数 (コルマン)		47.0	48.0	51.9	52.0	2.77	3.36
48/46. 上顔示数 (ウィルヒョウ)	* 64	63.1	62.3	70.3	69.3	4.65	4.67
52/51. 眼窩示数		82.5	77.3	78.1	87.4	88.1	4.45 4.14
54/55. 鼻示数		51.0	54.8	56.1	49.1	50.4	4.39 4.21
F5/FC. 前額骨平均示数		21.3	16.5	14.8	16.7	15.4	1.88 2.16
S5/SC. 鼻骨平均示数		49.0	45.5	33.6	38.7	30.6	12.78 10.14
ZMS/ZMC. 額上顎骨平均示数		22.2	21.6	24.1	23.8	2.99	2.41

第1図 出土人骨部位

第4表 四肢骨計測値

骨番号 28	右大腿骨	骨番号 39	右脛骨	骨番号 40	右上前骨 1	骨番号 41	右腕骨 1
5	中央横径 27.0	1	最大長	5	中央最大径 24.0	1	最大長
6	中央矢状径 34.0	8	中央周 90	6	中央最大径 32.0	6	中央最大径 19.0
6.5	中央横断示数 126.0	7	中央横径 22.5	7	中央横径 22.5	6.5	中央横断示数 79.1
	骨体高 95.0	6.7	中央断示数 70.3	7	最小周 67		
骨番号 42	右尺骨	骨番号 49	右大腿骨				
1	最大長	1	最大長				
8	中央周 90	8	中央周 90				
6	中央矢状径 14.5	6	中央矢状径 32.5				
7	中央横径 17.5	7	中央横径 27.0				
6.7	中央断示数 118.5	6.7	中央断示数 118.5				



第2圖 出土人骨



1. A区全景（南から）



2. A区全景（北から）



1. B-1区全景 (北から)



2. B-2a区全景 (北から)



1. B-2b区全景 (北から)



2. C区全景 (北から)



1. 326号土坑完掘状況（南東から）



2. 327号土坑土器出土状況（南から）



3. 327号土坑堆積状況（南から）



4. 327号土坑完掘状況（南東から）



5. 328号土坑a・b検出状況（南東から）



1. 328号土坑 a・b 検出状況 (北西から)



2. 328号土坑 a 堆積状況その1 (南から)



3. 328号土坑 a 堆積状況その2 (東から)



4. 328号土坑 b 堆積状況その1 (西から)



5. 328号土坑 b 堆積状況その2 (西から)



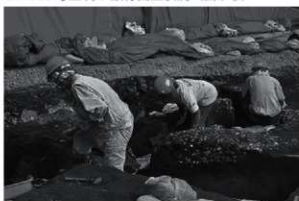
1. 328号土坑b堆積状況その3(北から)



2. 328号土坑b獣骨出土状況(西から)



3. 328号土坑b獣骨出土状況その2(西から)



4. 328号土坑調査風景(北西から)



5. 328号土坑a・b・332号・333号土坑完掘状況(北西から)



1. 329号土坑堆積状況（西から）



2. 329号土坑完掘状況（西から）



3. 330号土坑遺物出土状況（西から）



4. 330号土坑完掘状況（西から）



5. 331号土坑完掘状況（西から）



6. 332号土坑完掘状況（西から）



7. 333号土坑検出状況（南西から）



8. 333号土坑完掘状況（西から）



1. 10号焼土範囲検出状況（東から）



2. 10号焼土範囲堆積状況（東から）



3. 10号焼土範囲完掘状況（西から）



4. P1949貝層検出状況（東から）



5. P1949貝層堆積状況（東から）



6. P1949完掘状況（東から）



7. P1952貝層検出状況（南から）



8. P1952貝層堆積状況（西から）



1. P1952 完掘状況 (南から)



2. P1954 堆積状況 (東から)



3. P1954 獣骨出土状況 (東から)



4. P1956 堆積状況 (西から)



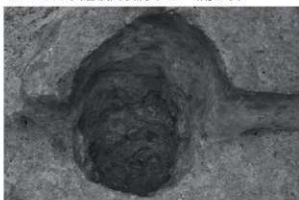
5. P1956 完掘状況 (西から)



6. P1958 貝層検出状況その1 (南から)



7. P1958 貝層堆積状況その2 (西から)



8. P1958 完掘状況 (南から)



1. P1959 堆積状況 (西から)



2. P1959 完掘状況 (西から)



3. P1963 堆積状況 (西から)



4. P1963 完掘状況 (西から)



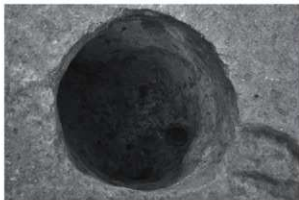
5. P1970 貝層検出状況 (西から)



6. P1970 完掘状況 (西から)



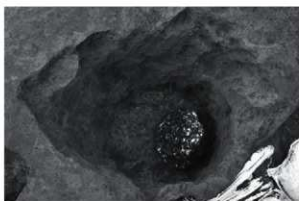
7. P1972 貝層検出状況 (東から)



8. P1972 完掘状況 (東から)



1. P1973 堆積状況（北から）



2. P1973 貝層検出状況その1（南東から）



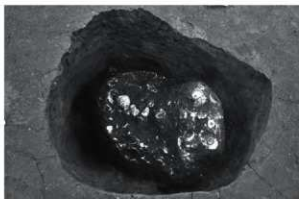
3. P1973 貝層検出状況その2（北西から）



4. P1973 完掘状況（北西から）



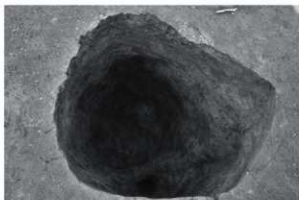
5. P1975 堆積状況（西から）



6. P1975 貝層検出状況（東から）



7. P1975 貝層堆積状況（東から）



8. P1975 完掘状況（東から）



1. P1976 堆積状況 (東から)



2. P1976 完掘状況 (東から)



3. P1977 堆積状況 (南東から)



4. P1977 完掘状況 (南東から)



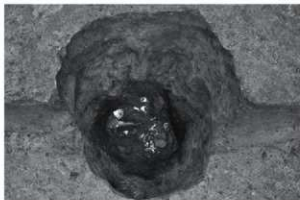
5. P1978 堆積状況 (南東から)



6. P1978 完掘状況 (東から)



7. P1979 堆積状況 (南から)



8. P1979 貝層検出状況 (南から)



1. P1979 貝層堆積状況 (東から)



2. P1979 完掘状況 (南から)



3. P1980 貝層堆積状況 (東から)



4. P1980 完掘状況 (東から)



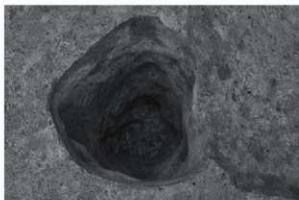
5. P1981 堆積状況 (南西から)



6. P1981 完掘状況 (南西から)



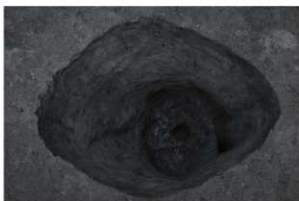
7. P1983 堆積状況 (西から)



8. P1983 完掘状況 (西から)



1. P1984 堆積状況 (東から)



2. P1984 完掘状況 (東から)



3. P1985 堆積状況 (南西から)



4. P1985 完掘状況 (西から)



5. P1986 堆積状況 (南西から)



6. P1986 完掘状況 (南西から)



7. P1989 堆積状況 (北から)



8. P1989 完掘状況 (北西から)



1. P1990 堆積状況 (北東から)



2. P1990 完掘状況 (北西から)



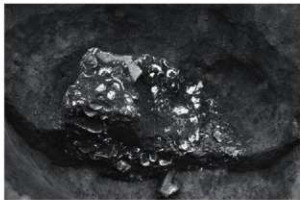
3. P1992 堆積状況 (北から)



4. P1992 遺物出土状況 (北から)



5. P1992 貝層検出状況 (北から)



6. P1992 貝層堆積状況 (東から)



7. P1992 鹿角出土状況 (東から)



8. P1992 完掘状況 (北から)



1. P1993 堆積状況 (北から)



2. P1993 完掘状況 (北から)



3. P1994 堆積状況 (南から)



4. P1994 完掘状況 (南から)



5. P1995 堆積状況 (北から)



6. P1995 完掘状況 (北から)



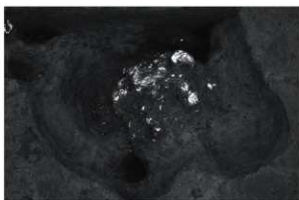
7. P1996 堆積状況 (南から)



8. P1996 完掘状況 (南から)



1. P1997 堆積状況 (西から)



2. P1997 貝層検出状況 (西から)



3. P1998 堆積状況 (北から)



4. P1998 貝層検出状況その1 (北から)



5. P1998 貝層検出状況その2 (北から)



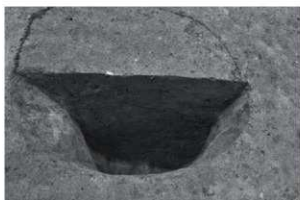
6. P1998 完掘状況 (北から)



7. P2000 堆積状況 (南西から)



8. P2000 完掘状況 (南西から)



1. P2001 堆積状況 (東から)



2. P2001 完掘状況 (東から)



3. P2002 人骨検出状況その1 (南西から)



4. P2002 人骨検出状況その2 (南西から)



5. P2002 人骨検出状況その3 (南西から)



1. P2002 人骨出土状況その4 (南西から)



2. P2002 完掘状況 (南西から)



3. P2003 堆積状況 (南西から)



4. P2003 完掘状況 (南西から)



5. P2007 堆積・完掘状況 (東から)



6. P2011 堆積状況 (南から)



7. P2011 完掘状況 (南から)



8. P2012 堆積状況 (東から)



1. P2012 完掘状況 (東から)



2. P2013 堆積状況 (南東から)



3. P2013 完掘状況 (南東から)



4. P2015 堆積状況 (東から)



5. P2015 完掘状況 (東から)



6. P2016 堆積状況 (東から)



7. P2016 完掘状況 (東から)



8. P2017・P2018 堆積状況 (西から)



1. P2017 完掘状況 (西から)



2. P2018 完掘状況 (北から)



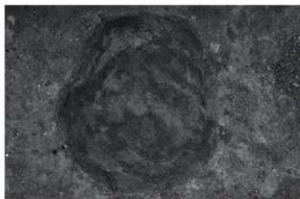
3. P2019 堆積状況 (東から)



4. P2019 完掘状況 (東から)



5. P2021 堆積状況 (北から)



6. P2021 完掘状況 (北から)



7. P2025 堆積状況 (東から)



8. P2025 完掘状況 (南から)



1. P2026 堆積状況 (東から)



2. P2026 完掘状況 (東から)



3. P2028 堆積状況 (東から)



4. P2028 完掘状況 (東から)



5. P2029 堆積状況 (東から)



6. P2029 完掘状況 (東から)



7. P2033 堆積状況 (南東から)



8. P2033 完掘状況 (南東から)



1. 348号住居跡検出状況（東から）



2. 348号住居跡床面検出状況（東から）



1. 348号住居跡完掘状況（東から）



2. 348号住居跡 P1 堆積状況（南から）



3. 348号住居跡 P1 土器出土状況（南東から）



4. 348号住居跡 P1 完掘状況（南東から）



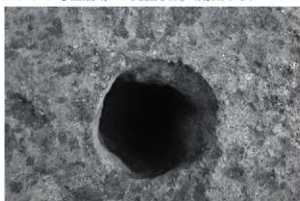
5. 348号住居跡 P2 堆積状況（南東から）



1. 348号住居跡P2完掘状況(南西から)



2. 348号住居跡P3堆積状況(南西から)



3. 348号住居跡P3完掘状況(南西から)



4. 348号住居跡拡張部検出状況(東から)



5. 348号住居跡拡張部P4堆積状況(東から)



6. 348号住居跡拡張部炉跡検出状況(東から)



7. 348号住居跡拡張部床面検出状況(東から)



8. 348号住居跡拡張部完掘状況(東から)



1. 376号溝堆積状況（東から）



2. 376号溝完掘状況（東から）



3. 377号溝堆積状況（東から）



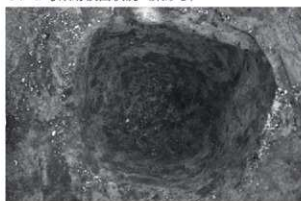
4. 377号溝完掘状況（東から）



5. 3号畝跡検出状況（東から）



6. 3号畝跡完掘状況（東から）



7. P1946（近世以降）完掘状況（西から）

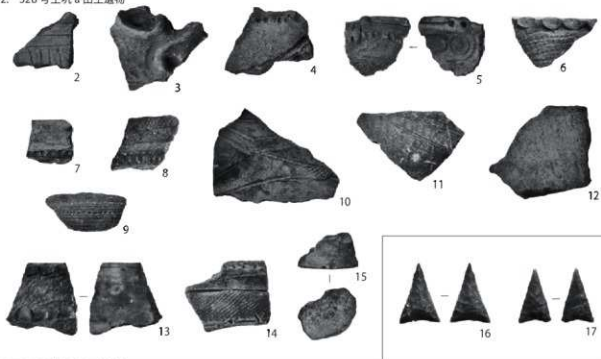


8. P1955（近世以降）完掘状況（西から）

1. 327号土坑出土遗物



2. 328号土坑 a 出土遗物



3. 328号土坑 b 出土遗物



4. 328号土坑一括出土遗物



5. 330号土坑出土遗物



1. 333 号土坑出土遗物



2. P1952 出土遗物



3. P1953 出土遗物



4. P1958 出土遗物



5. P1959 出土遗物



7. P1973 出土遗物



6. P1963 出土遗物



8. P1975 出土遗物



9. P1977 出土遗物



10. P1978 出土遗物



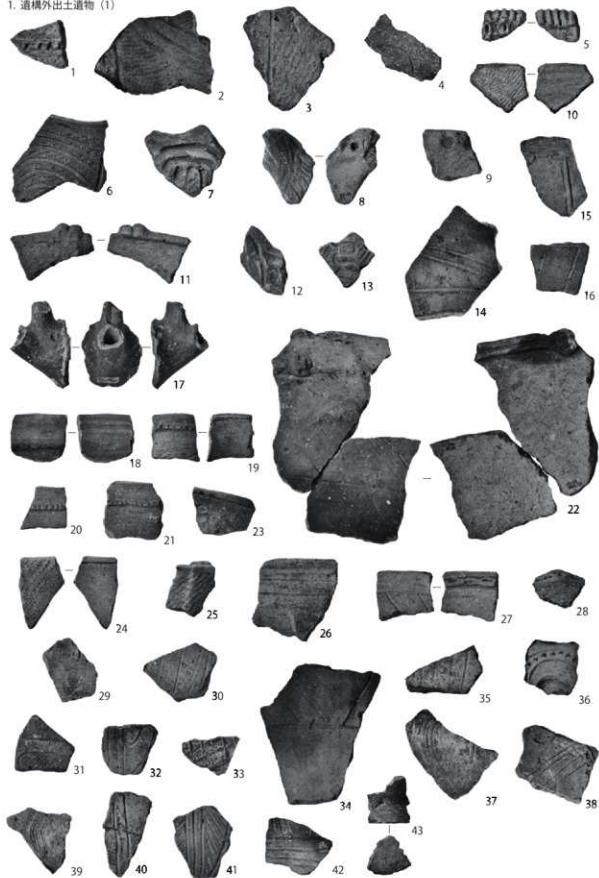
11. P1983 出土遗物



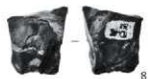
12. P1992 出土遗物



1. 遺構外出土遺物 (1)



1. 遺構外出土遺物 (2)



2. 弥生時代 348 号住居跡出土土器



3. 古代出土土器



報告書抄録

ふりがな	みちあいせき (だいじゅうじちようき)							
書名	道合遺跡 (第10次調査)							
副書名	東京都市計画道路補助線街路第85号線(赤羽台Ⅱ期)整備事業に伴う埋蔵文化財調査							
シリーズ名	東京都埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第384集							
編著者名	鈴木啓介・植月 学・櫻庭陸央・山本満梨奈・梶ヶ山真里・中山なな・坂上和弘・中塚彰子							
編集機関	公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター							
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合一丁目14番2 TEL.042-374-8044							
発行年月日	西暦 2024年 6月 28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みちあいせき 道合遺跡	とうきょうとくたかくあひばねだい 東京都北区赤羽台 ちようめ 二丁目	13117	49	35° 46' 41"	139° 42' 48"	20230327 と 20230915	625 m ²	東京都市計画道路補助線街路第85号線(赤羽台Ⅱ期)整備事業に伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
道合遺跡	集落	縄文	土坑9基 横土範囲1基 ピット85基	土器・打製石斧・磨製石斧・石鏃・磨製石器・獣骨・魚骨・貝殻		縄文時代後期前葉の遺構・遺物が中心で、土坑が9基、ピットが85基検出されたが、その中に貝層を伴う土坑が1基、ピットが15基含まれている。貝層はハマグリ・ヤマトシジミ主体である。またピットの中には人骨が埋葬されているものも検出されている。弥生時代の遺構では住居跡が検出され、住居跡内のピットから弥生時代後期の直口壺の口縁部破片が出土している。		
		弥生	住居跡1軒	弥生土器				
		古代		土師器・須恵器				
		近世以降	溝2基 鉄跡1基 ピット10基	磁器・陶器・土器				
要約	<p>本報告は、東京都市計画道路補助線街路第85号線(赤羽台Ⅱ期)整備事業に伴う埋蔵文化財調査で、道合遺跡の第10次調査である。道合遺跡は、武蔵野台地北東端のいわゆる「赤羽台」に位置する。道合遺跡では旧石器時代～近代にいたるまで連続と土地利用がなされ、今回の調査では縄文時代後期前葉の土坑、ピット、弥生時代の住居跡、近世以降の溝、鉄跡・ピットが検出されている。縄文時代の土坑やピット内には貝層が堆積しているものもあり、またピット内に人骨が埋葬されているものも検出されている。弥生時代の住居跡からは直口壺の口縁部～頸部の破片が出土した。</p>							

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	86.5kg (A判)
本文	マットコート紙	57.5kg (A判)
写真図版	マットコート紙	57.5kg (A判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	ベジタブルインク	
製版線数	150線 (カラー175線)	

本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用

北区

道合遺跡 (第10次調査)

— 東京都市計画道路補助線街路第85号線 (赤羽台II期)

整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

東京都埋蔵文化財センター調査報告第384集

2024年6月28日 発行

編集 (公財) 東京都教育支援機構

発行 東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目14番2

TEL 042 - 374 - 8044

印刷 明誠企画株式会社

東京都武蔵村山市榎2-25-5